

## 「山縣市男女共同参画に関する市民意識調査」の結果

### ○実施方法

- ・調査対象：山州市内に住所を有する18歳以上1,000人  
(男性500人、女性500人)
- ・抽出方法：住民基本台帳から無作為に抽出
- ・実施方法：郵送配布、郵送回収
- ・調査期間：平成22年10月29日から平成22年11月19日

### ○配布回収状況

- ・実施配布数：995（配達不能数 5）
- ・回収数：375
- ・回収率：37.7%
- ・有効回答数：358
- ・有効回答率：36.0%

《参考》平成18年度実施時回収率：34.2%

※集計結果は、小数点第二位を四捨五入したため、合計が100.0%にならない場合があります。

※クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計の有効回答数が合致しないことがあります。

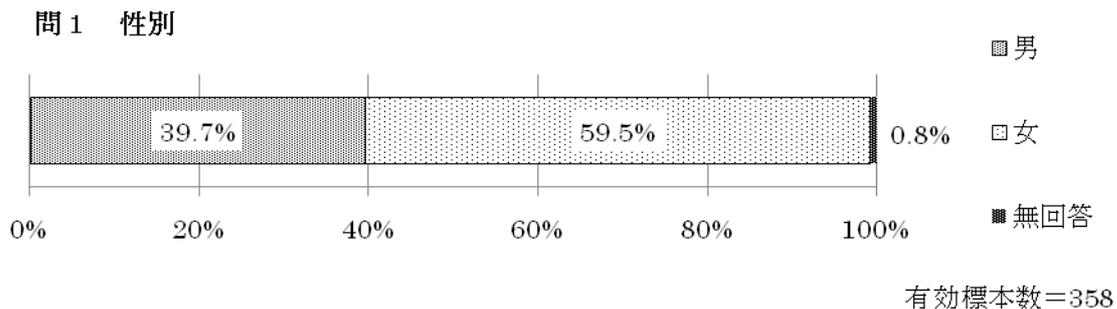
(平成18年度調査時のグラフには、無回答分が含まれていなかったため、今回は無回答分を追加して掲載してあります。)

※複数の回答を認めた質問では、比率合計が100.0%を超えることがあります。

# 1. 回答者の属性

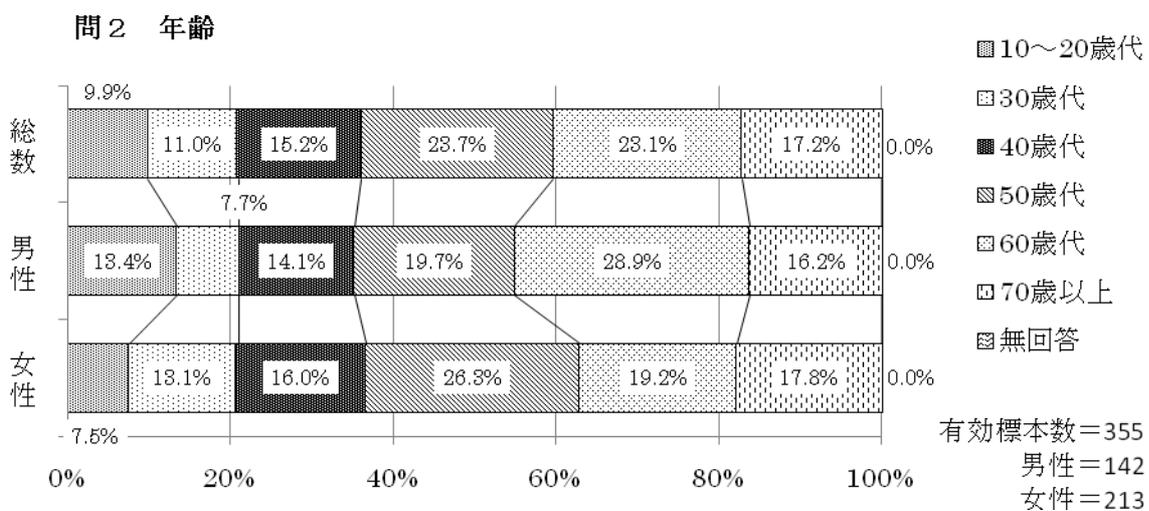
【問1】あなたの性別はどちらですか。

回答者の性別をみると、男性39.7%、女性59.5%となっており、女性の回答率が19.8ポイント高くなっている。



【問2】あなたの年齢は次のどれですか。

回答者の年齢構成をみると、青年層「10歳代から30歳代」が2割を占め、壮年層「40歳代から50歳代」が4割弱、高齢層「60歳代から70歳以上」が4割を超えている。



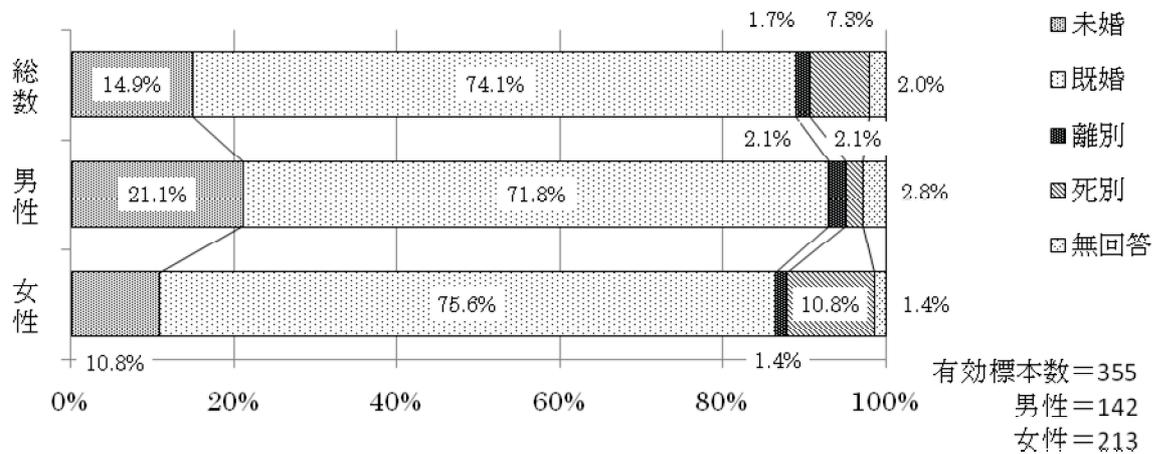
【問3】あなたは結婚していますか。

回答者の配偶関係をみると、「未婚」が14.9%、「既婚」が74.1%、「離別」が1.7%、「死別」が7.3%、「無回答」が2.0%となっている。

男女別でみると、男性の「未婚」が21.1%、女性は10.8%と、男性が10.3ポイント高い割合となっている。

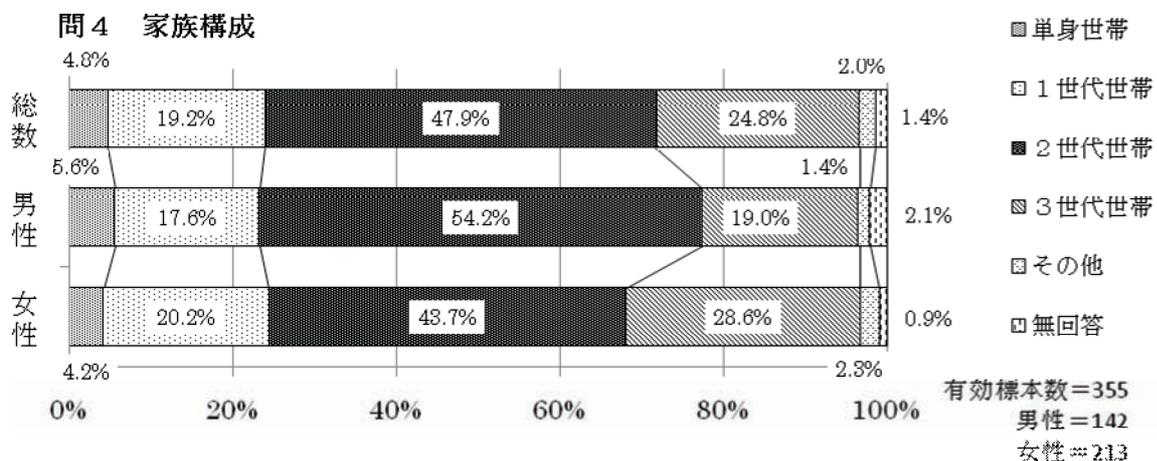
また、「死別」については、男性が2.1%であるのに対し、女性は10.8%と、女性が8.7ポイント高い割合になっている。

問3 配偶関係



【問4】あなたの家族構成はどれですか。

回答者の家族構成をみると、「2世代世帯（親と子）」の割合が47.9%と、最も高くなっており、次いで、「3世代世帯（親と子と孫）」の割合が24.8%となっている。

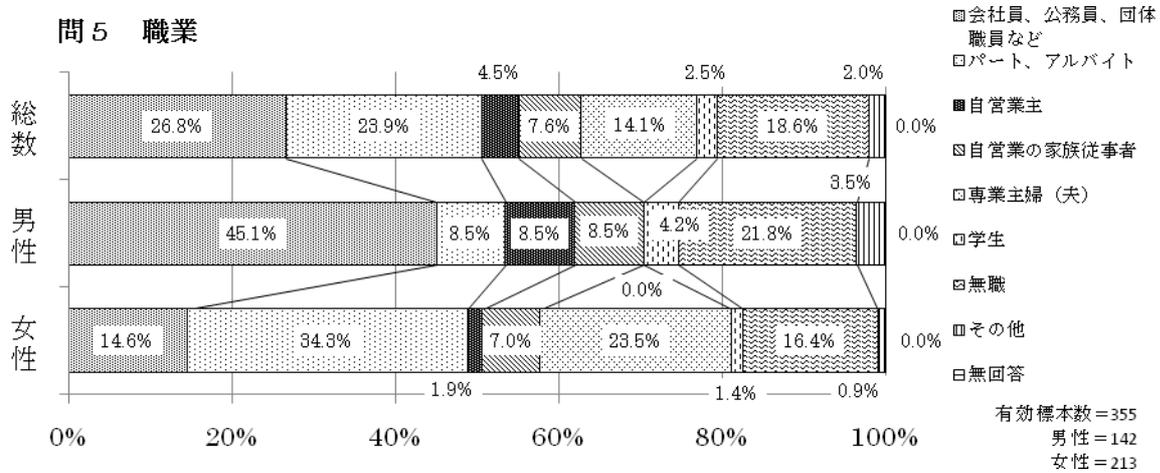


【問5】あなたの職業は何ですか。

回答者の職業については、「会社員、公務員、団体職員など」が26.8%、次いで「パート・アルバイト」が23.9%となっている。

男女別でみると、「会社員、公務員、団体職員など」の男性は45.1%、女性は14.6%と、男性の方が30.5ポイント高い割合になっている。

また、「パート、アルバイト」の男性は8.5%、女性は34.3%と、女性の方が25.8ポイント高い割合となっている。



## 2. 家庭生活における男女の役割、優先度について

【問6】あなたの家庭では、家事（育児を含む）の役割はどのようになって  
いますか。あなたの家庭の実態を次の中から1つ選んで番号に○を  
つけてください。（単身世帯以外の方が回答）

全体でみると「男性が職業を持ち、女性も家事にさしつかえない範囲で職  
業を持ち、家事をしている」が30.2%と最も多く、次いで「男性が職業  
を持ち、女性は家事をしている」が19.2%となっている。

年代別にみると10～20歳代では、「男女共に職業を持ち、家事は主に女  
性がしている」が最も高い割合を占め、30～60歳代については、「男性が  
職業を持ち、女性も家事にさしつかえない範囲で職業を持ち、家事をしてい  
る」が最も高い割合となっている。

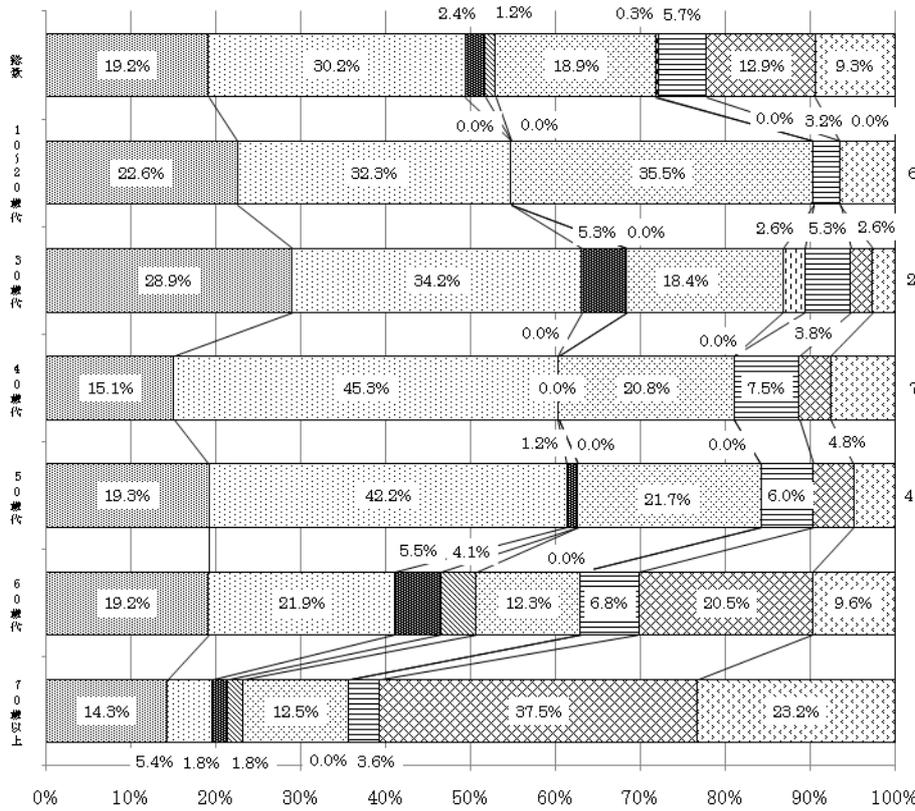
70歳以上では「その他」が37.5%と最も高く、内容として多いのは  
「男女共に無職で、家事は女性」となっている。

平成18年度調査と比較すると、どの年代でも「男性が職業を持ち、女性  
も家事にさしつかえない範囲で職業を持ち、家事をしている」と答えた割合  
が高くなっており、全体では8.4ポイント高くなっている。

これに対して、「男性が職業を持ち、女性は家事をしている」と答えた割合  
はどの年代でも低くなっており、全体では8.5ポイント低くなっている。

そのため、全体では「男性が職業を持ち、女性は家事をしている」と「男  
性が職業を持ち、女性も家事にさしつかえない範囲で職業を持ち、家事をし  
ている」と答えた割合を合わせると49.4%となり、18年度調査のそれ  
とほぼ変わらない。

問6 家事の役割分担 (単身世帯以外の方が回答)



男性が職業を持ち、女性は家事をしている

男性が職業を持ち、女性も家事にさしつかえない範囲で職業を持ち、家事をしている

男性が職業を持ち、男女で家事を分担している

女性が職業を持ち、男性は家事をしている

男女共に職業を持ち、家事は主に女性がしている

男女共に職業を持ち、家事は主に男性がしている

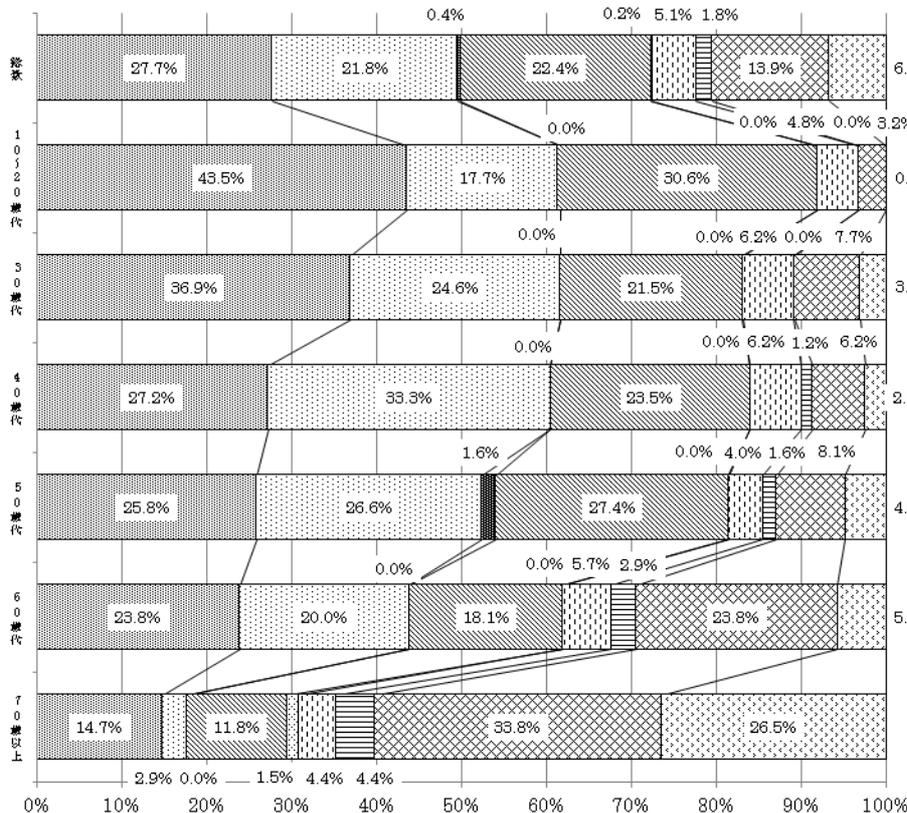
男女共に職業を持ち、家事は男女で分担している

その他

無回答

有効標本数=334

《平成18年度調査》 家事の役割分担



夫・父は職業を持ち、妻・母が家事をしている

夫・父は職業を持ち、妻・母も家事にさしつかえない範囲で職業を持っている

妻・母は職業を持ち、夫・父が家事をしている

夫婦・両親共に職業を持ち、家事は主に妻・母がしている

夫婦・両親共に職業を持ち、家事は主に夫・父がしている

夫婦・両親共に職業を持ち、家事は夫婦・両親で分担している

わからない

その他

無回答

有効標本数=505

【問7】あなたの家庭では役割分担はどのようになっていますか。「現実」と「理想」について次の①～⑤の中から選んであてはまる欄に○をつけてください。

- |                |             |
|----------------|-------------|
| ・炊事、洗濯、掃除など    | ・学校行事、PTAなど |
| ・財産管理          | ・家計費の管理     |
| ・近所や親戚などとの付き合い | ・食料品や日用品の買物 |
| ・子どもの世話やしつけ    | ・家庭内の介護     |

- ①女性が中心 ②男性が中心 ③男女共に同程度 ④該当なし  
⑤その他

#### 《現実》

男女別にみると、「近所や親戚などとの付き合い」では、「男性が中心」と答えた割合が男性は、30.3%であるのに対し、女性は13.1%と、女性の方が、17.2ポイント低い割合となっている。

また、「家計費の管理」以外のすべての項目について「女性が中心」と答えた割合は、男性よりも女性の方が高く、このことから、男性よりも女性の方が役割分担が多いと感じていることがうかがえる。

#### 《理想》

男女別にみると、「食料品や日用品の買物」では、「女性が中心」と回答した割合が男性は31.7%であるのに対し、女性は47.4%と、女性の方が15.7ポイント高い割合となっている。

#### 《現実と理想との比較》

男性の理想は「家計費の管理」以外の項目はすべて「男女共に同程度」が5割を超えているが、現実をみると「男女共に同程度」が高い割合を占めている項目は、「近所や親戚などとの付き合い」のみとなっている。

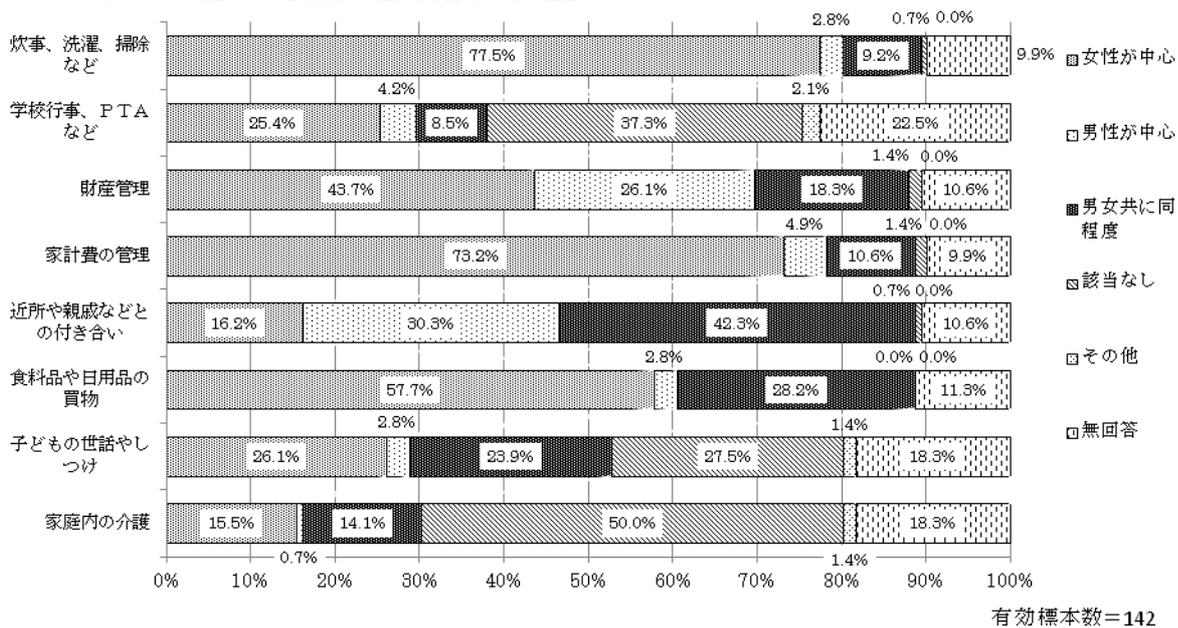
女性の理想は、「炊事、洗濯、掃除など」「家計費の管理」「食料品や日用品の買物」以外は「男女共に同程度」が5割を超えているが、現実をみると男性の現実と同様に、「近所や親戚などとの付き合い」のみ高い割合となっている。

平成18年度調査と比較すると、現実に関しては、男性では「女性が中心」と答えた割合が「学校行事、PTAなど」では12.6ポイント、「子どもの世話やしつけ」では18.3ポイント、「家庭内の介護」では18.2ポイントと特に低くなっている。女性では「女性が中心」と答えた割合が「学校行

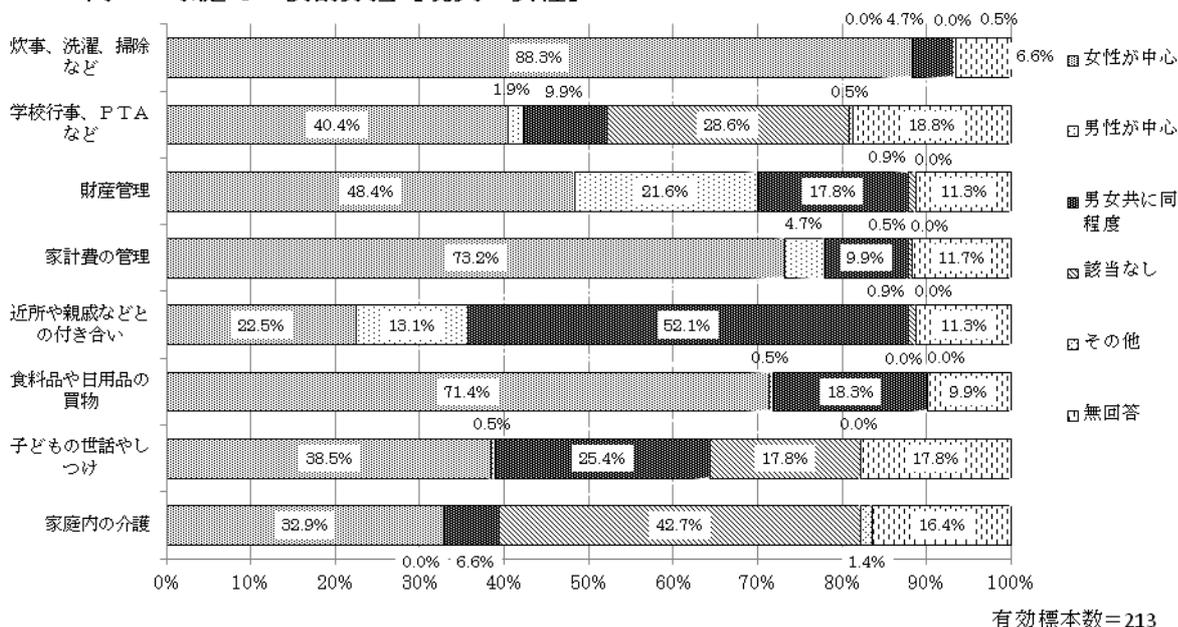
事、PTAなど」で14.7ポイントと特に低くなっているが、「炊事、洗濯、掃除など」では2.1ポイント、「財産管理」では4.5ポイント高くなっている。

理想に関しては、「男女共に同程度」と答えた割合が、男性も女性も「子どもの世話やしつけ」と「家庭内の介護」以外の項目において、18年度調査より高くなっている。特に男性の「炊事、洗濯、掃除など」と答えた割合が14.7ポイント、「食料品や日用品の買い物」と答えた割合が15.3ポイントと特に高くなっている。

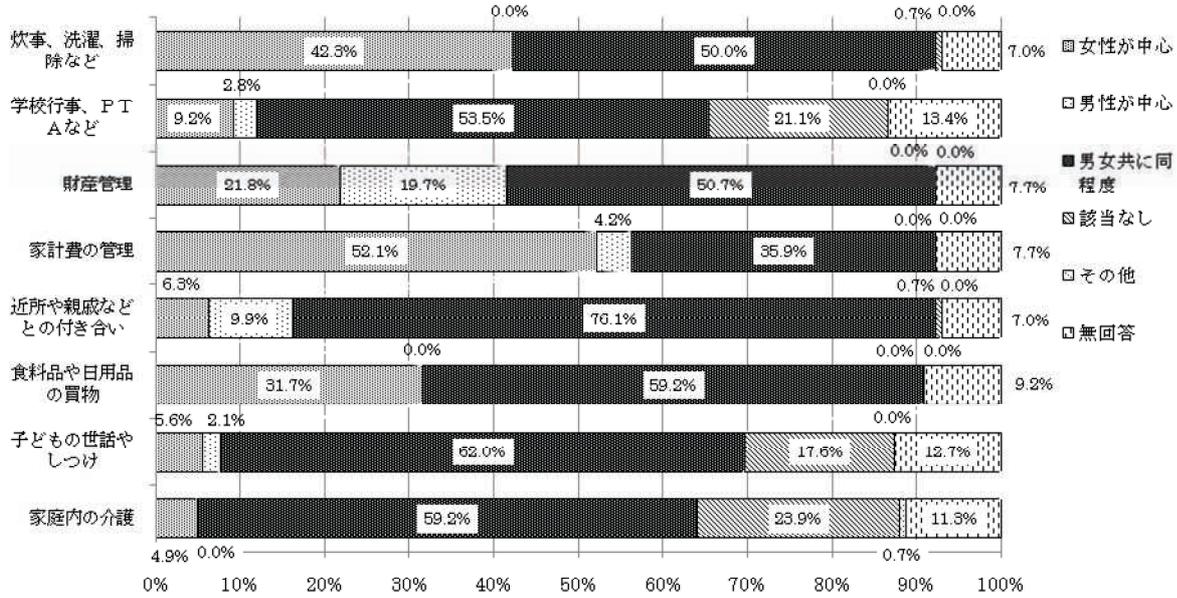
問7 家庭での役割分担【現実・男性】



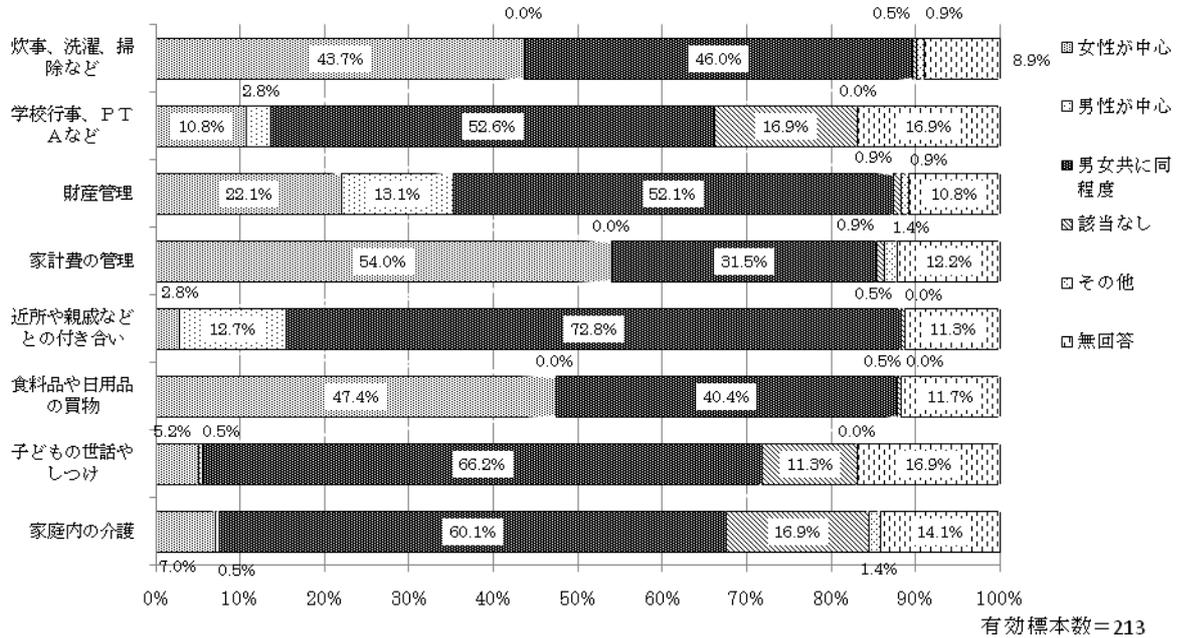
問7 家庭での役割分担【現実・女性】



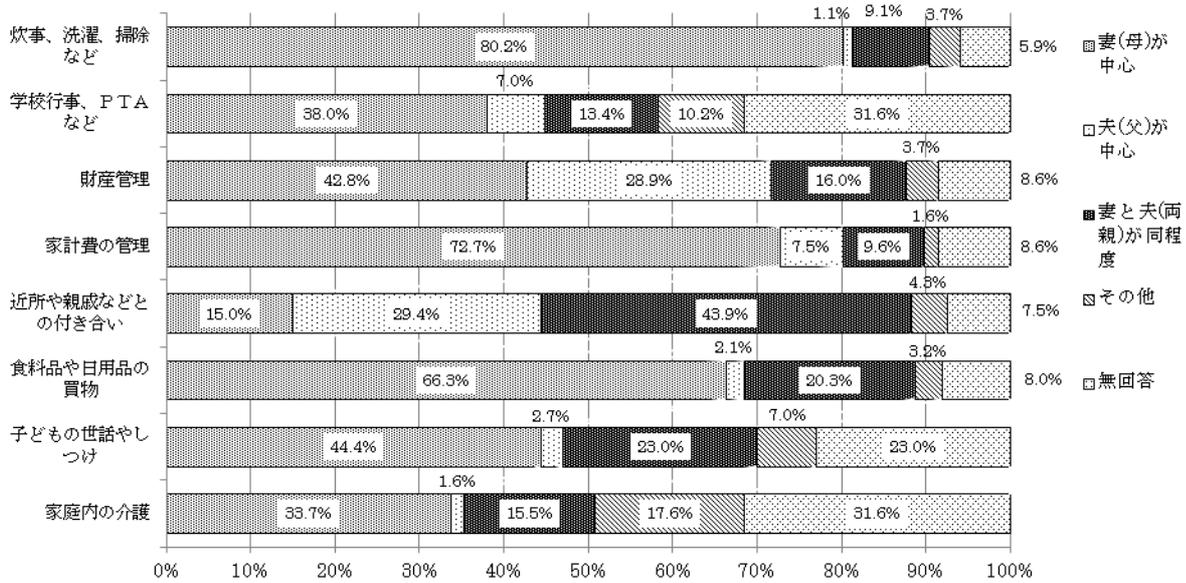
### 問7 家庭での役割分担【理想・男性】



### 問7 家庭での役割分担【理想・女性】

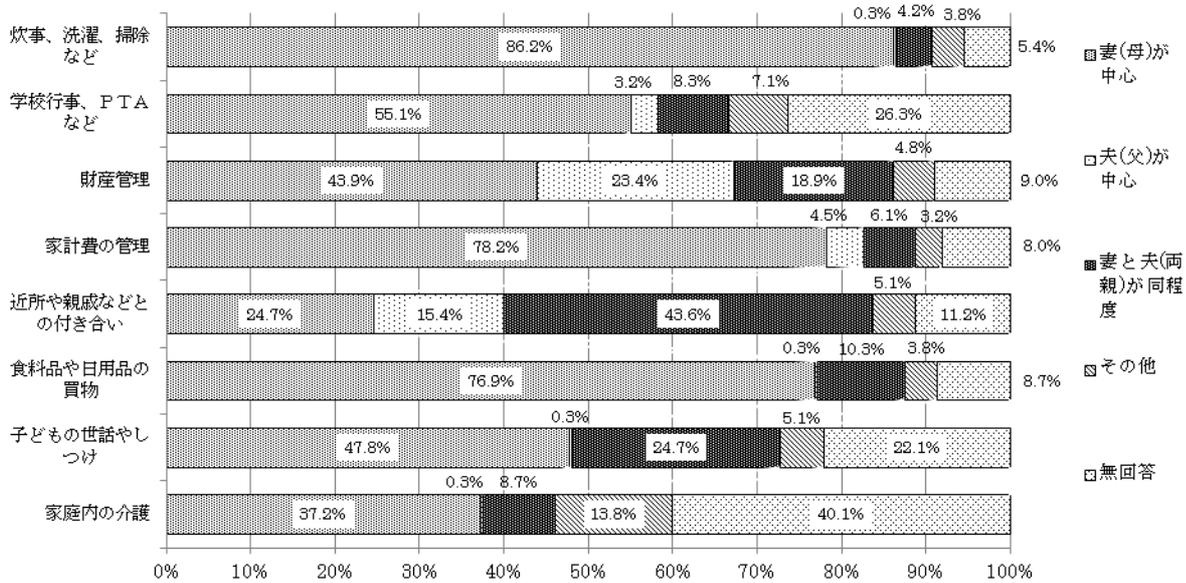


《平成18年度調査》 家庭での役割分担【現実・男性】



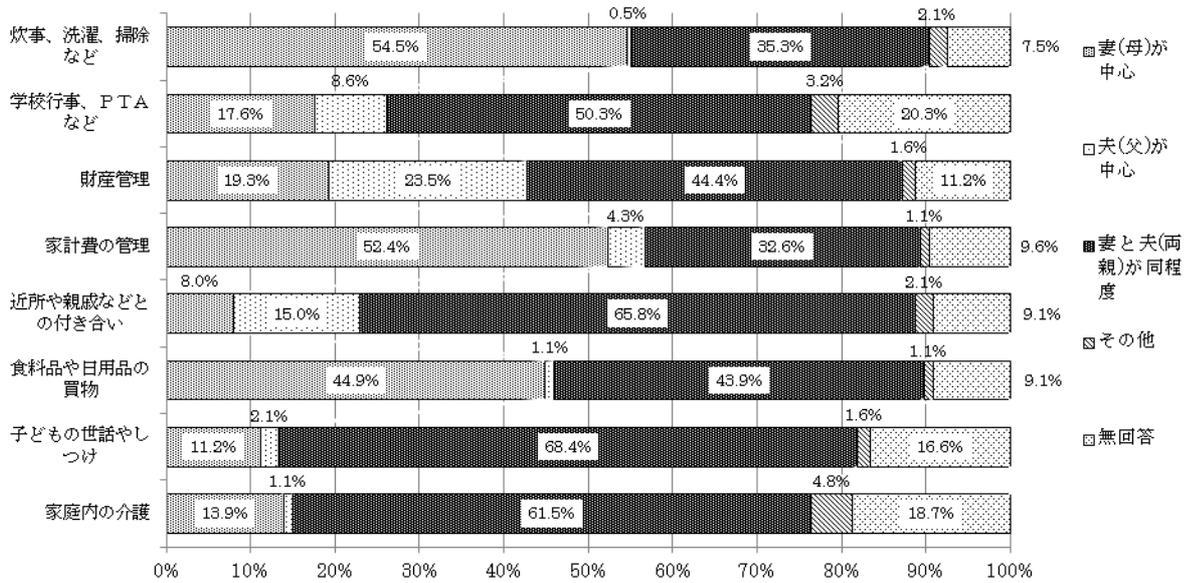
有効標本数=187

《平成18年度調査》 家庭での役割分担【現実・女性】



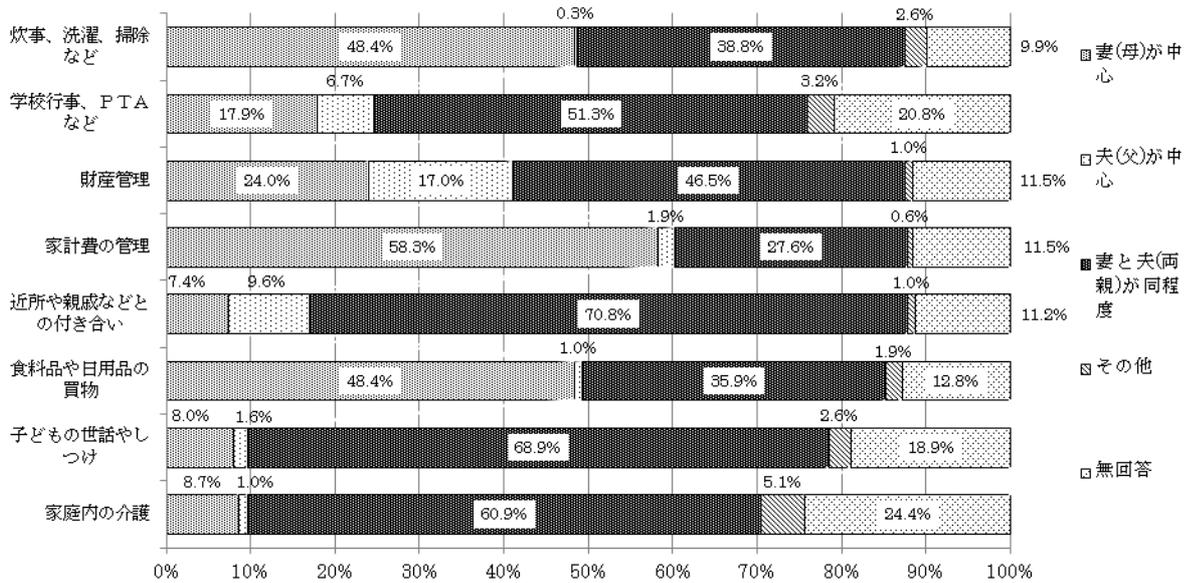
有効標本数=312

《平成18年度調査》 家庭での役割分担【理想・男性】



有効標本数=187

《平成18年度調査》 家庭での役割分担【理想・女性】



有効標本数=312

【問8】生活の中での「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」（地域活動・付き合い・学習・趣味など）の優先度はどのようになっていますか。「現実」と「理想」について次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

#### 《現実》

全体でみると、「仕事を優先している」と回答した割合が、23.9%と最も多く、次いで「仕事と家庭生活を共に優先している」が20.3%となっている。

男女別にみると、男性の「仕事を優先している」が38.0%、女性は14.6%と23.4ポイント男性の方が高くなっている。

また、「家庭生活を優先している」については、男性が6.3%、女性は20.7%と、女性の方が14.4ポイント多くなっている。

年代別にみると、10～20歳代と50歳代では「仕事を優先している」と答えた割合が、30歳代と40歳代では「仕事と家庭生活を共に優先している」と答えた割合が高くなっている。

#### 《理想》

全体、男女別、年代別それぞれみても「仕事、家庭生活、地域・個人の生活を同じ程度大切にしたい」と答えた割合が高くなっている。

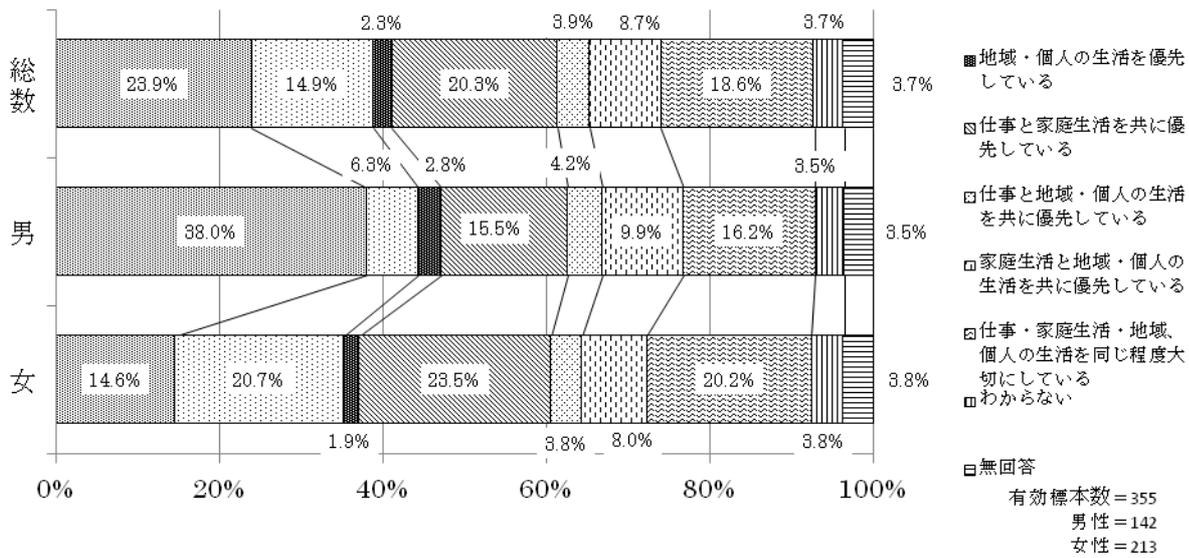
また、年代別に詳しくみると、30歳代から50歳代については、「仕事と家庭生活を共に優先したい」が次いで高くなり、60歳代では「家庭生活と地域・個人の生活を共に優先したい」、70歳以上では「家庭生活を優先したい」となっている。

#### 《現実と理想との比較》

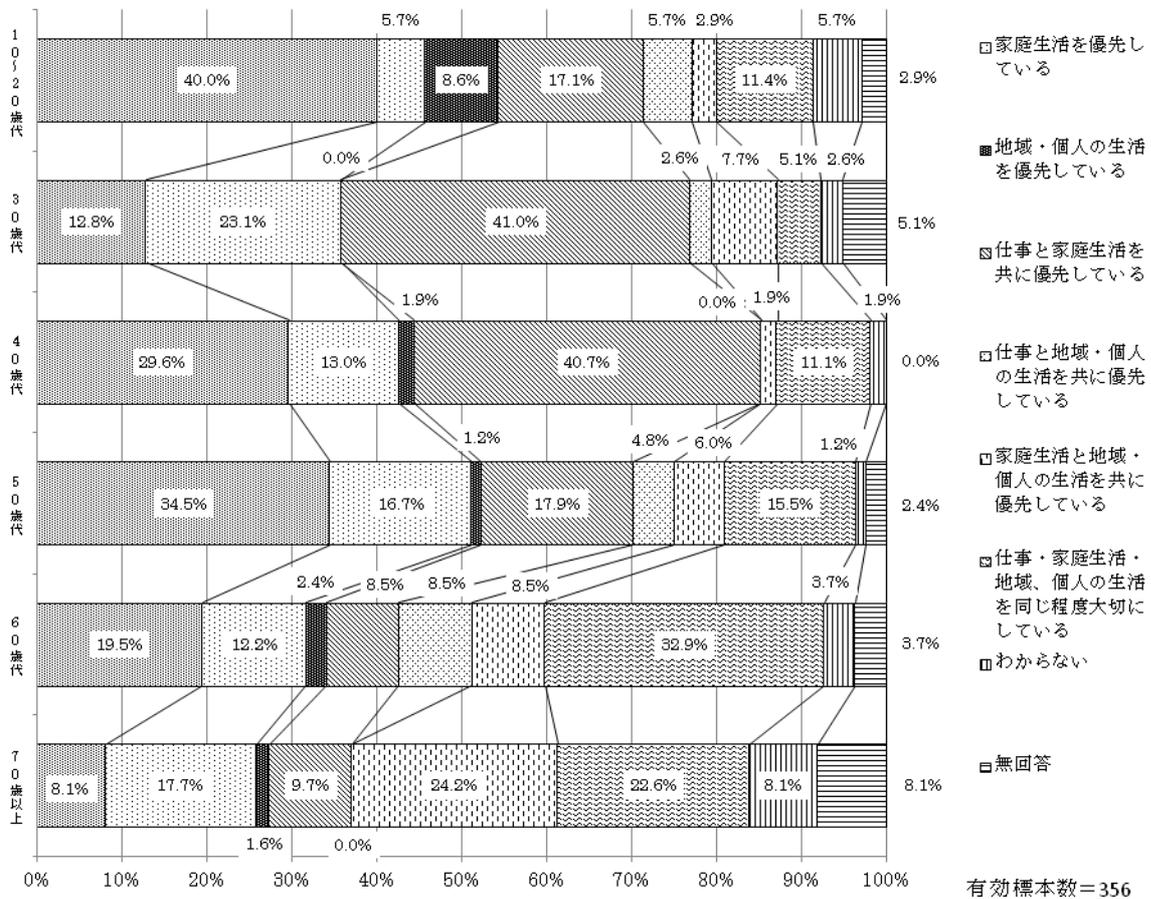
現実では「仕事、家庭生活、地域・個人の生活を同じ程度大切にしたい」と回答した割合は18.6%、理想では41.1%と、理想が22.5ポイント多くなっている。

また、「仕事を優先している」に関しては、現実では23.9%、理想は3.4%と、現実が20.5ポイント多くなっている。

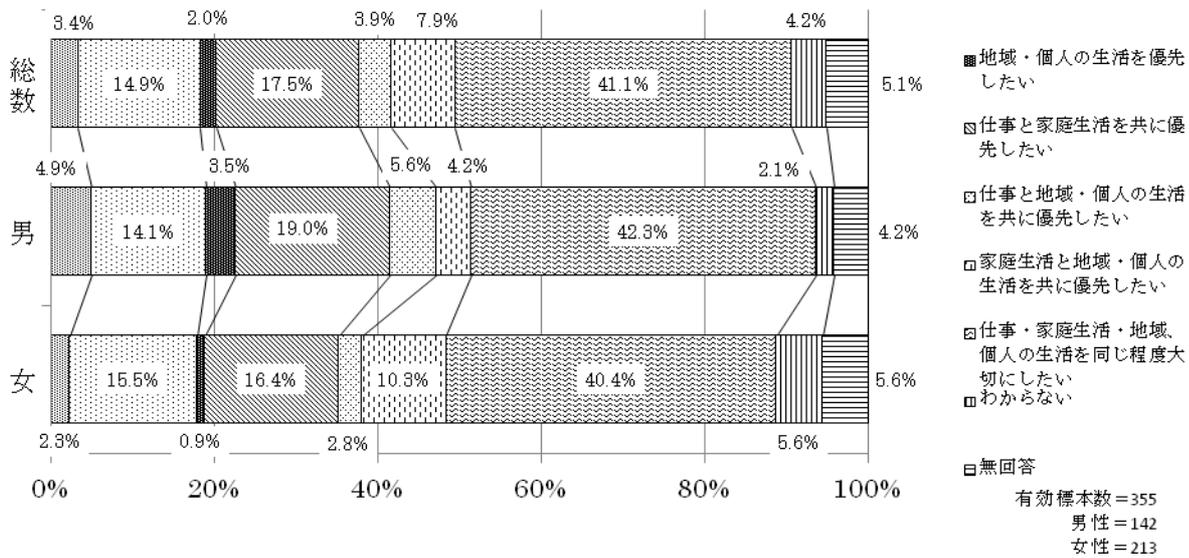
問 8 生活の中の優先度【現実】（男女別）



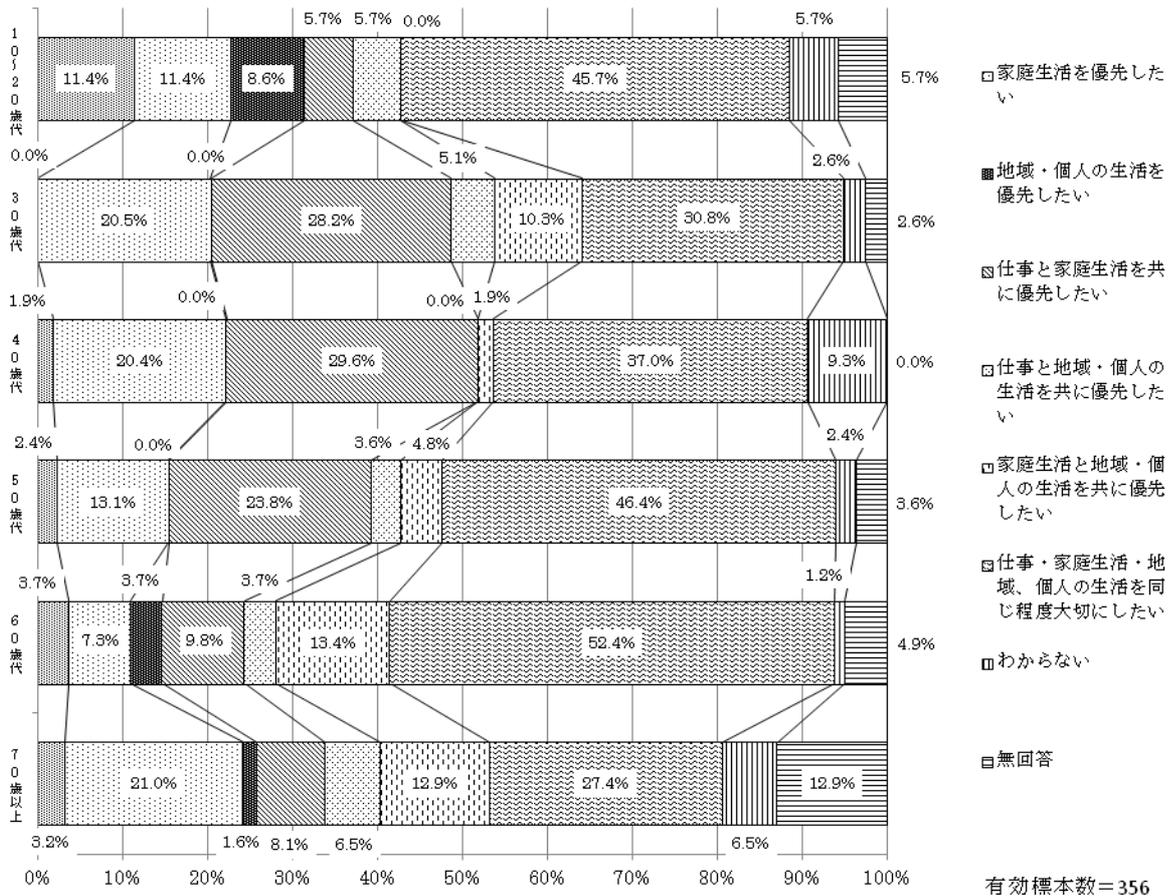
問 8 生活の中の優先度【現実】（年代別）



### 問8 生活の中の優先度【理想】（男女別）



### 問8 生活の中の優先度【理想】（年代別）



### 3. 女性が働くことについて

【問9】あなたは女性が職業を持つことについてどう思いますか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

全体で見ると「子どもができたなら職業をやめ、子どもが成長したら再び職業を持つ方がよい」と答えた割合が、49.0%と最も高くなっている。

男女別にみると「職業を持たない方がよい」の男性は4.9%、女性は0.5%と4.4ポイント男性の方が高くなっている。

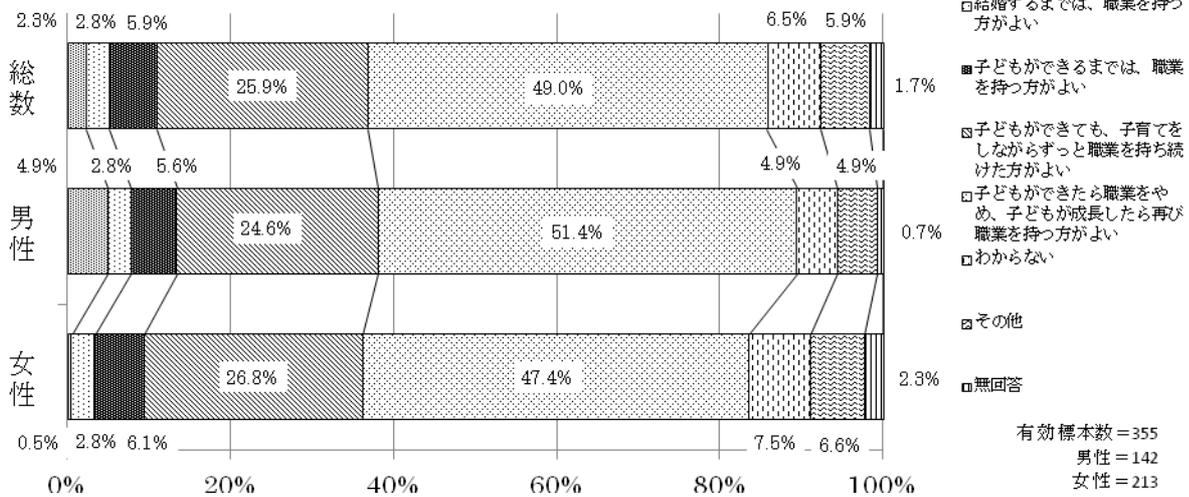
年代別にみると、全体と同様にどの年代でも「子どもができたなら職業をやめ、子どもが成長したら再び職業を持つ方がよい」と答えた割合が最も高くなっている。また、30歳代と40歳代では、「職業を持たない方がよい」の割合が5%を超え、他の年代より高い割合となっている。

平成18年度調査と比較すると、全体では「子どもができてもしっかりと職業を持ち続けた方がよい」と答えた割合が、3.7ポイント高くなっている。また、「子どもができたなら職業をやめ、子どもが成長したら再び職業を持つ方がよい」と答えた割合は、4.9ポイント低くなっている。

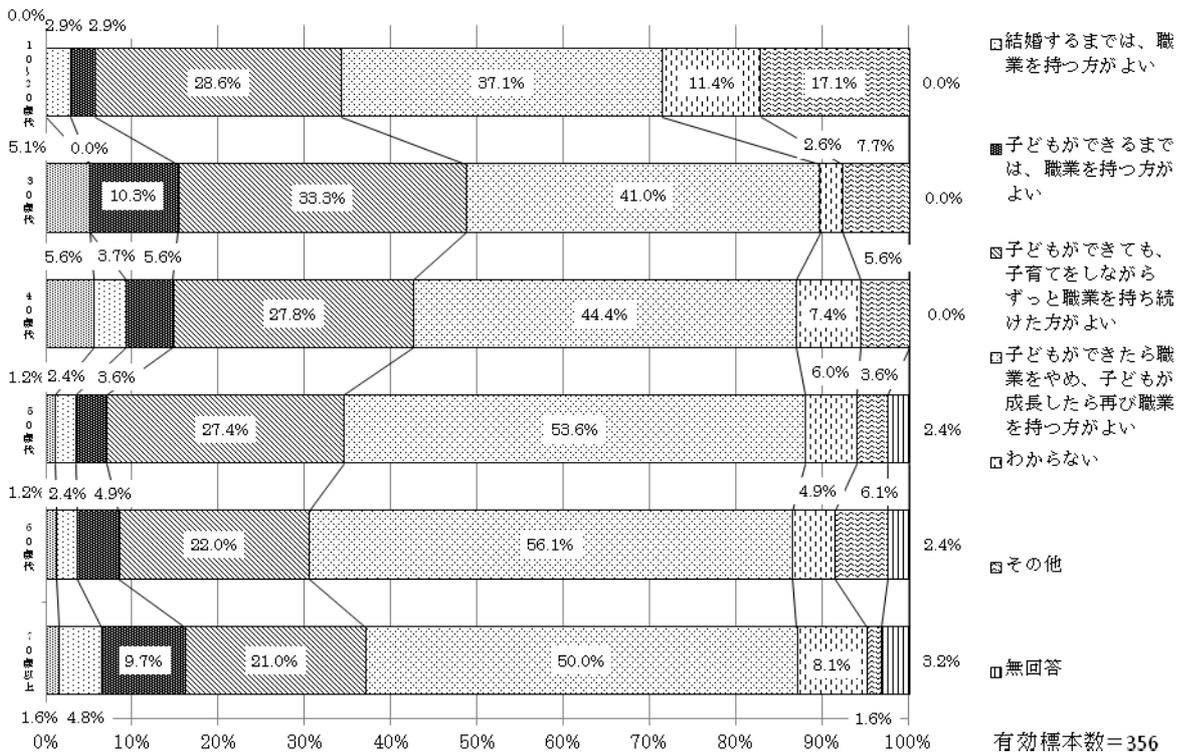
男女別にみると、男性は「子どもができるまでは、職業を持つ方がよい」と答えた割合が、8.3ポイント低くなっている。女性では、「子どもができたなら職業をやめ、子どもが成長したら再び職業を持つ方がよい」と答えた割合が9.7ポイント低くなっている。

年代別にみると、10～20歳代で「子どもができてもしっかりと職業を持ち続けた方がよい」と答えた割合が9.2ポイント高くなっており、「子どもができたなら職業をやめ、子どもが成長したら再び職業を持つ方がよい」と答えた割合は、24.2ポイント低い割合となっている。

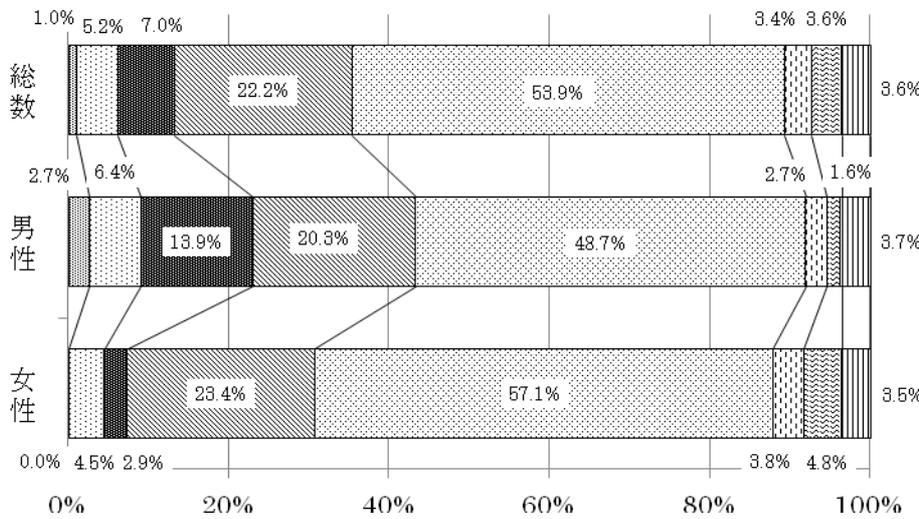
### 問9 女性が職業を持つことについて（男女別）



### 問9 女性が職業を持つことについて（年代別）

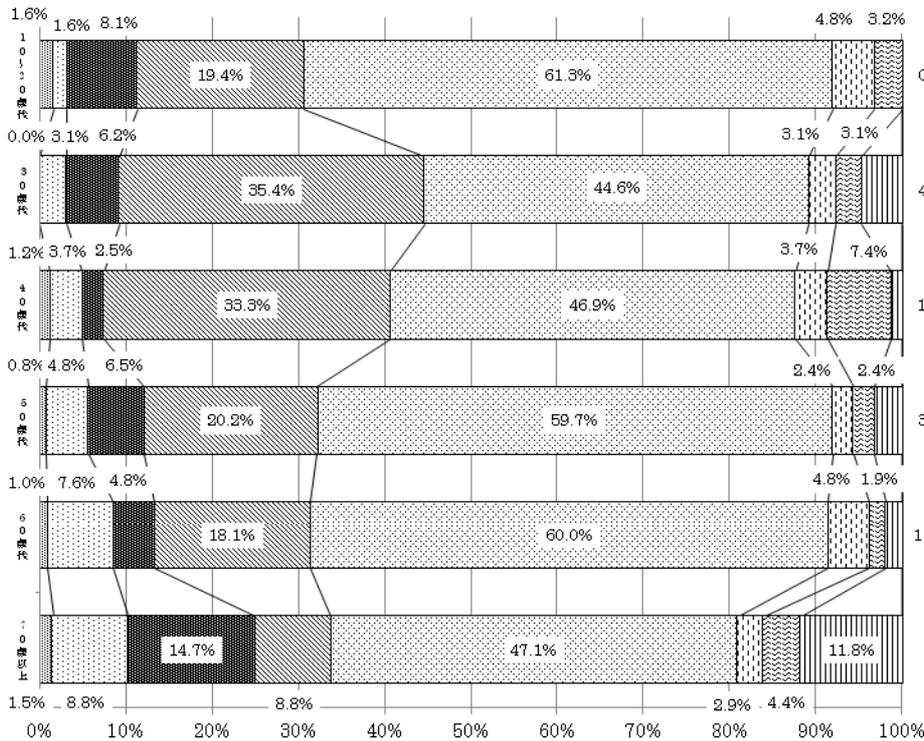


《平成18年度調査》女性が職業を持つことについて（男女別）



- 女性が職業を持たない方がよい
  - 結婚するまでは、職業を持つ方がよい
  - 子どもができるまでは、職業を持つ方がよい
  - 子どもができて、子育てをしながらずっと職業を続けた方がよい
  - 子どもができたなら職業をやめ、子どもが成長したら再び職業を持つ方がよい
  - わからない
  - その他
  - 無回答
- 有効標本数=499  
男性=187  
女性=312

《平成18年度調査》女性が職業を持つことについて（年代別）



- 女性が職業を持たない方がよい
  - 結婚するまでは、職業を持つ方がよい
  - 子どもができるまでは、職業を持つ方がよい
  - 子どもができて、子育てをしながらずっと職業を続けた方がよい
  - 子どもができたなら職業をやめ、子どもが成長したら再び職業を持つ方がよい
  - わからない
  - その他
  - 無回答
- 有効標本数=505

【問10】女性が職業を続ける上でどんな困難がありますか。又は、あると思いますか。次のA～Eの各項目の中から1つずつ選んで番号に○をつけてください。

A 家事

1. 家事が多すぎる
2. 時間に余裕がない
3. 家族が手伝ってくれない
4. 特になし
5. その他

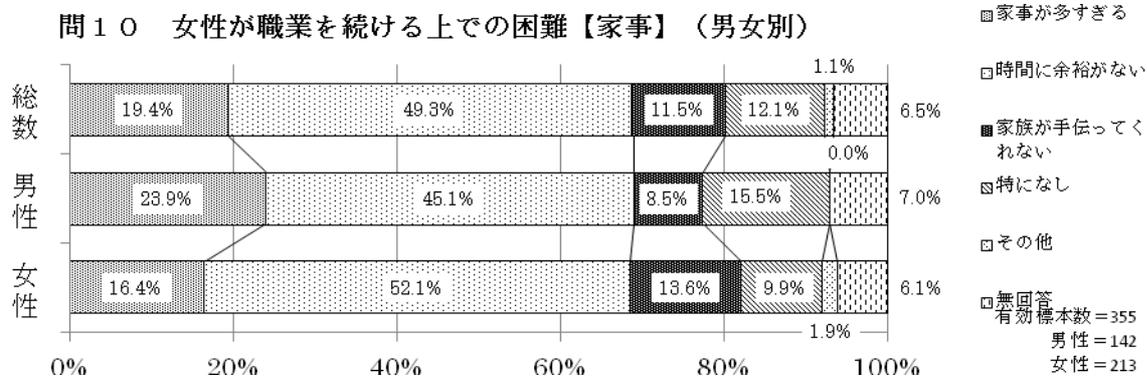
全体をみると「時間に余裕がない」と答えた割合が、49.3%と最も高くなっている。

男女別でみると、「家事が多すぎる」と答えた割合は男性が23.9%、女性が16.4%と、男性の方が7.5ポイント高くなっている。

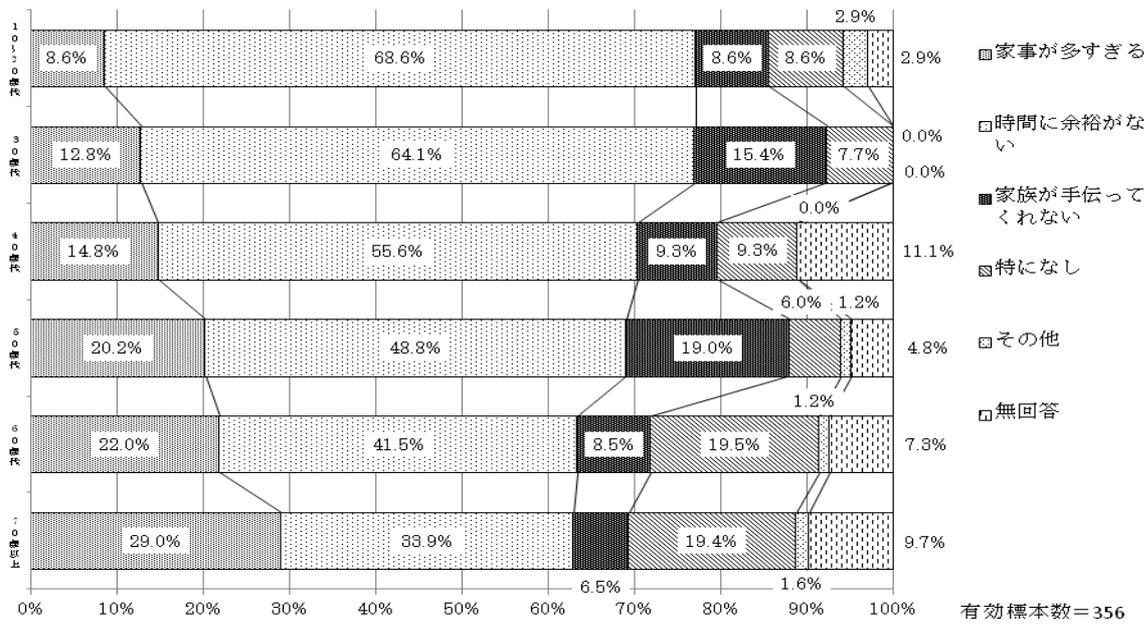
年代別でみると、どの年代についても「時間に余裕がない」と答えた割合が最も高くなっているが、年代が上がるにつれその割合は低くなっている。

平成18年度調査と比較すると、全体的に「家事が多すぎる」と答えた割合は低くなっている。

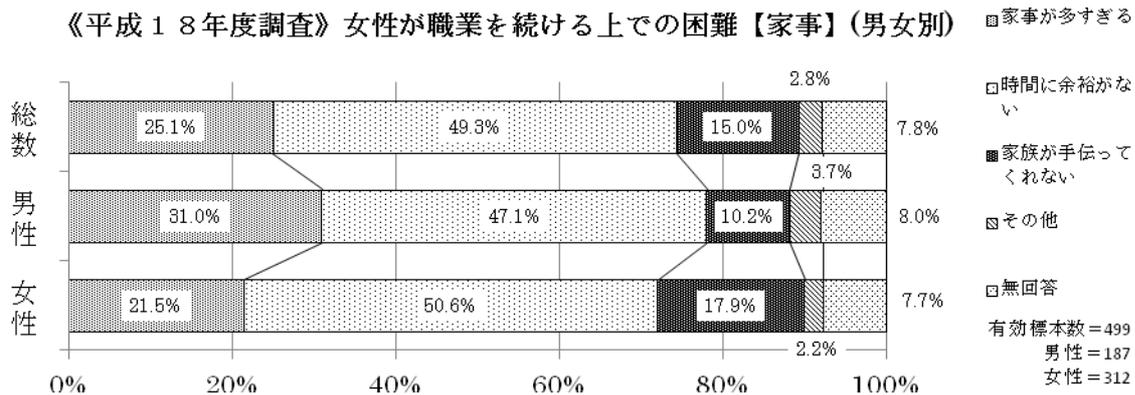
また、「時間に余裕がない」と答えた割合は全体では変わらないものの、年代別にみると10歳～20歳代から50歳代までで高くなっており、特に10～20歳代で15.4ポイント高くなっている。



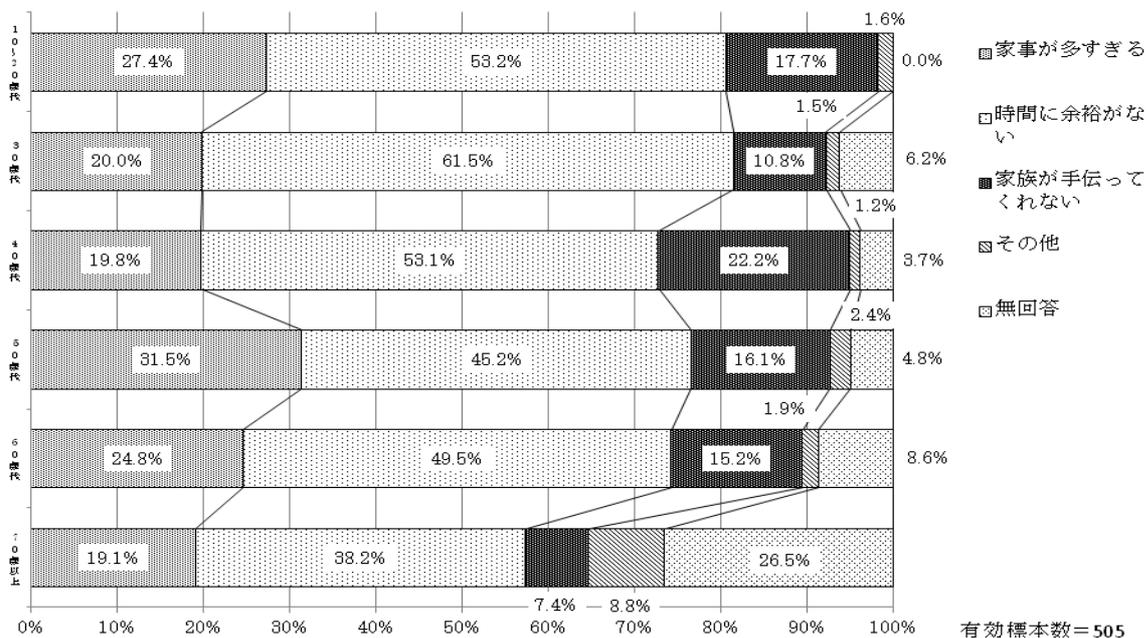
問10 女性が職業を続ける上での困難【家事】（年代別）



《平成18年度調査》女性が職業を続ける上での困難【家事】（男女別）



《平成18年度調査》女性が職業を続ける上での困難【家事】（年代別）



## B 子育て

1. 育児休業制度が完備されていない
2. 延長保育・早朝保育時間が短い
3. 病気の時などの一時預かり施設がない
4. 特になし
5. その他

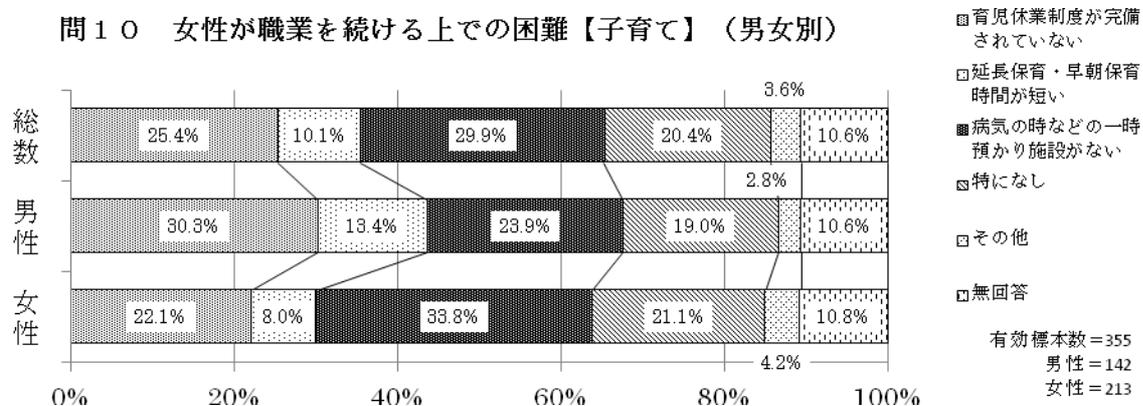
全体でみると「病気の時などの一時預かり施設がない」と答えた割合が、29.9%と最も高くなっており、次いで「育児休業制度が完備されていない」が高くなっている。

男女別にみると、「病気の時などの一時預かり施設がない」と答えた割合は男性が23.9%、女性が33.8%と、女性の方が9.9ポイント高くなっている。

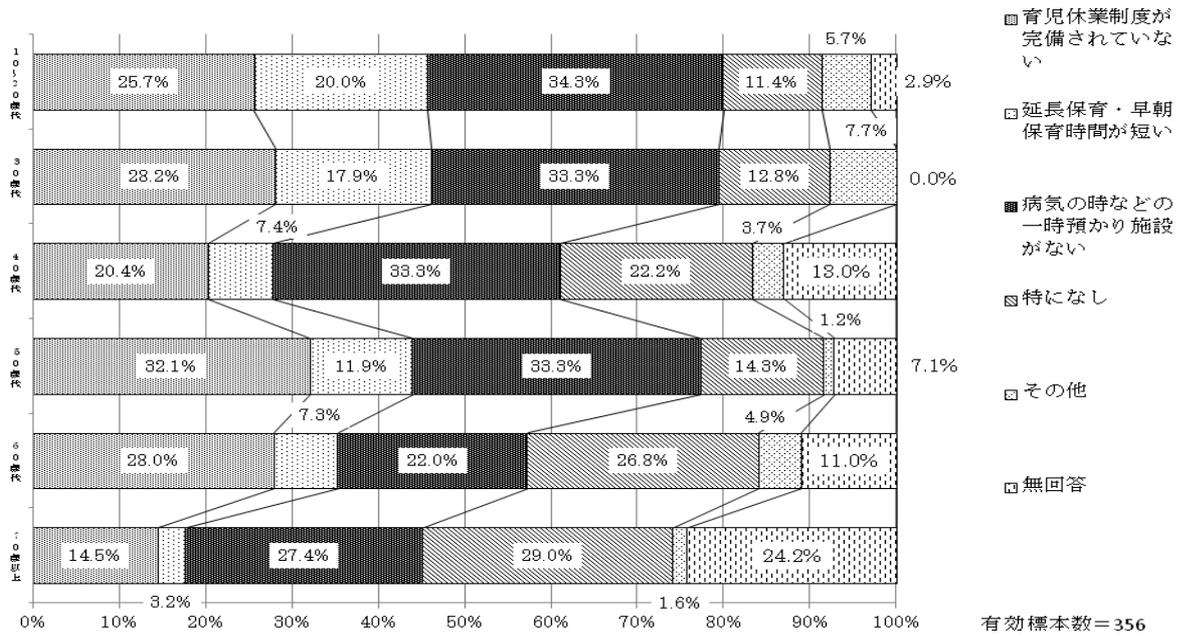
年代別にみると、10歳代から50歳代では「病気の時などの一時預かり施設がない」と答えた割合が高く、60歳代では、「育児休業制度が完備されていない」が高くなっている。

平成18年度調査と比較すると、「育児休業制度が完備されていない」と答えた割合は全体では15.3ポイントとかなり低くなっており、男女別でも年代別でも全体的に低くなっている。

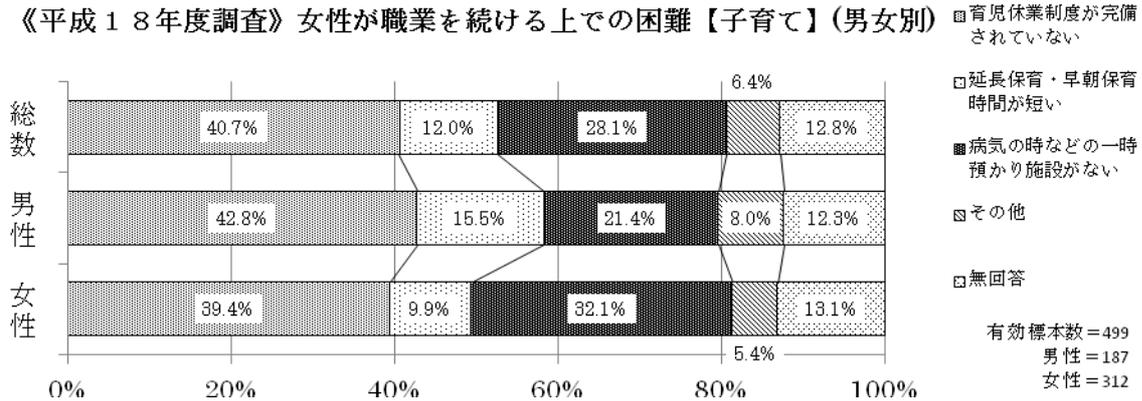
一方、「病気の時などの一時預かり施設がない」と答えた割合は全体ではやや高くなっており、年代別では10～20歳代で13.3ポイントと特に高くなっている。



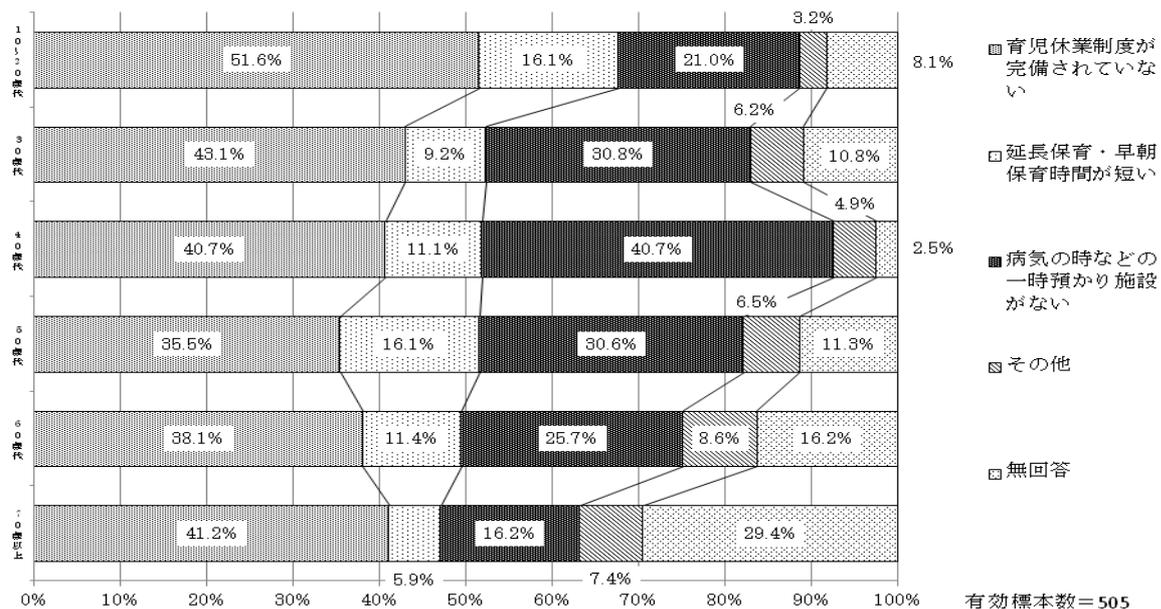
問10 女性が職業を続ける上での困難【子育て】（年代別）



《平成18年度調査》女性が職業を続ける上での困難【子育て】（男女別）



《平成18年度調査》女性が職業を続ける上での困難【子育て】（年代別）



### C 介護

1. 病人や高齢者の世話の必要性がある
2. 介護休業制度が完備されていない
3. 介護休業制度が利用できる雰囲気でない
4. 特になし
5. その他

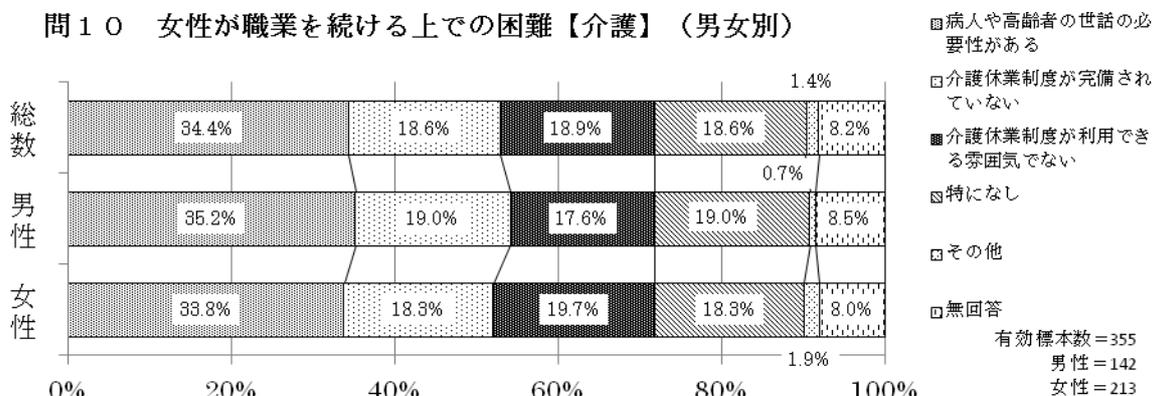
全体でみると、「病人や高齢者の世話の必要性がある」と答えた割合が、34.4%と高くなっている。

男女別でも、「病人や高齢者の世話の必要性がある」と答えた割合が一番多く、他の項目についても男女での回答の差は余りない。

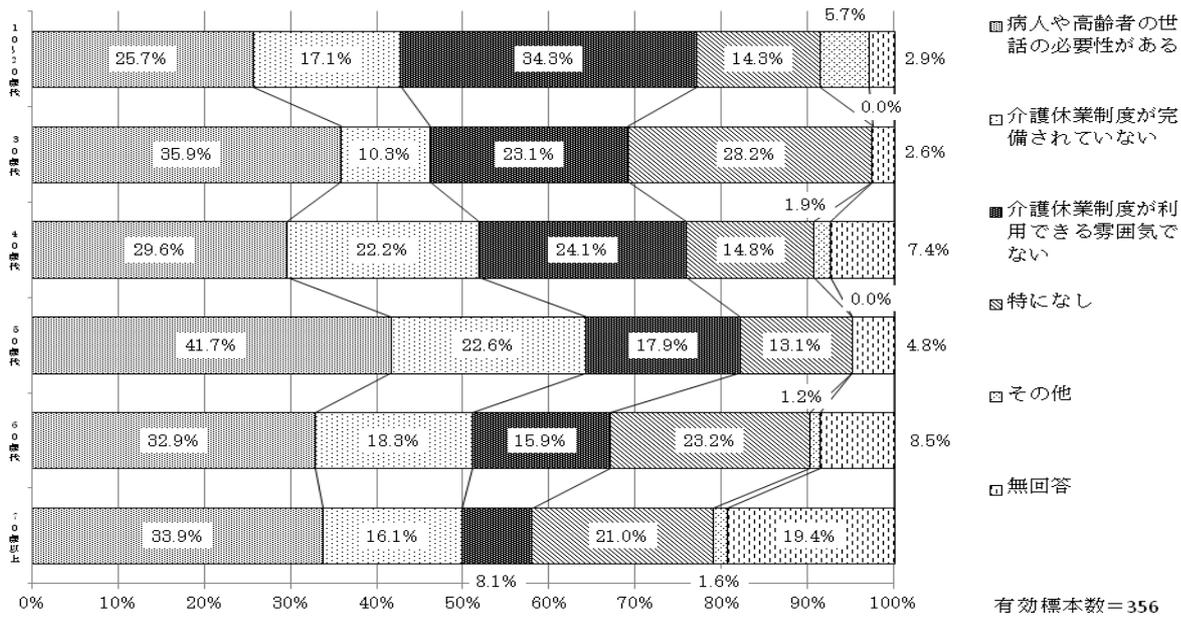
年代別にみると、50歳代では「病人や高齢者の世話の必要性がある」と答えた割合が41.7%と、他の年代より高くなっている。一方、10～20歳代では「介護休業制度が利用できる雰囲気でない」と答えた割合が最も高くなっている。

平成18年度調査と比較すると、全体では「病人や高齢者の世話の必要性がある」と答えた割合が3.6ポイント、「介護休業制度が完備されていない」と答えた割合が3.8ポイント低くなっているものの、全体的にはあまり変化はない。

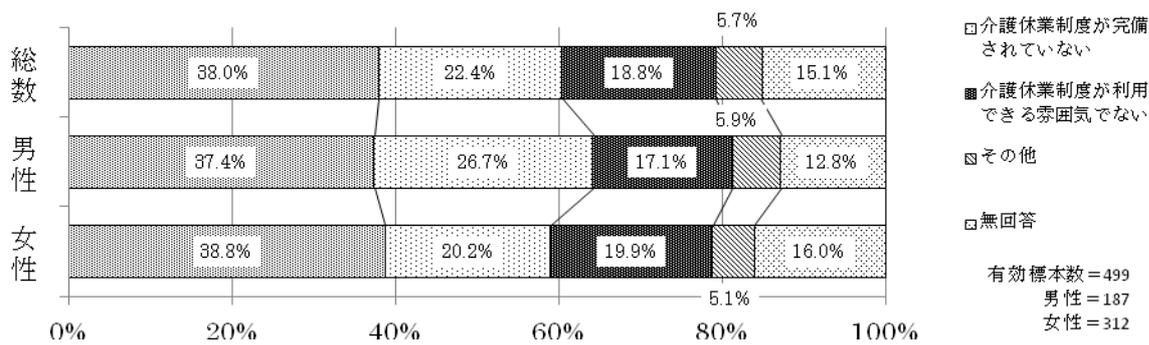
年代別にみると「病人や高齢者の世話の必要性がある」と答えた割合が10～20歳代と40歳代、50歳代で低くなっているものの、30歳代と60歳代、70歳以上では高くなっている。



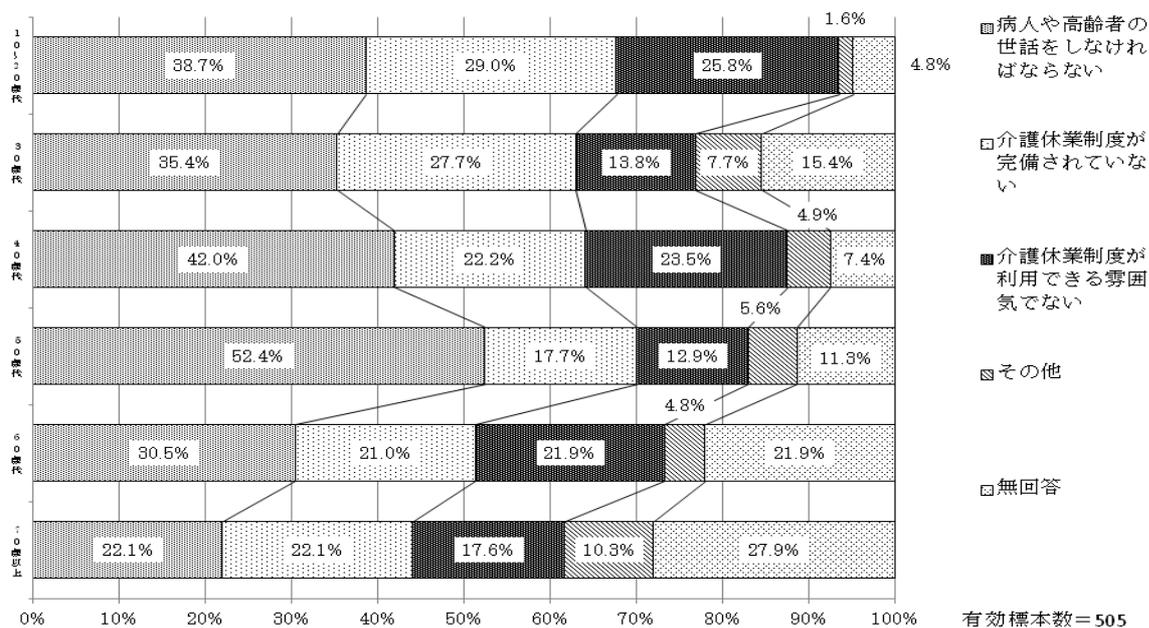
問10 女性が職業を続ける上での困難【介護】（年代別）



《平成18年度調査》女性が職業を続ける上での困難【介護】（男女別）



《平成18年度調査》女性が職業を続ける上での困難【介護】（年代別）



## D 地域活動

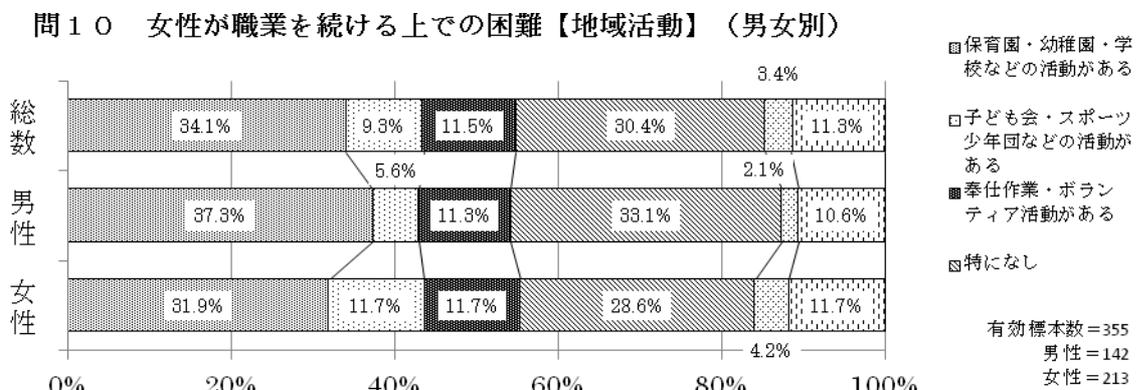
1. 保育園・幼稚園・学校などの活動がある
2. 子ども会・スポーツ少年団などの活動がある
3. 奉仕作業・ボランティア活動がある
4. 特になし
5. その他

全体で見ると、「保育園・幼稚園・学校などの活動がある」が34.1%と、高い割合となっており、次いで「特になし」が30.4%となっている。

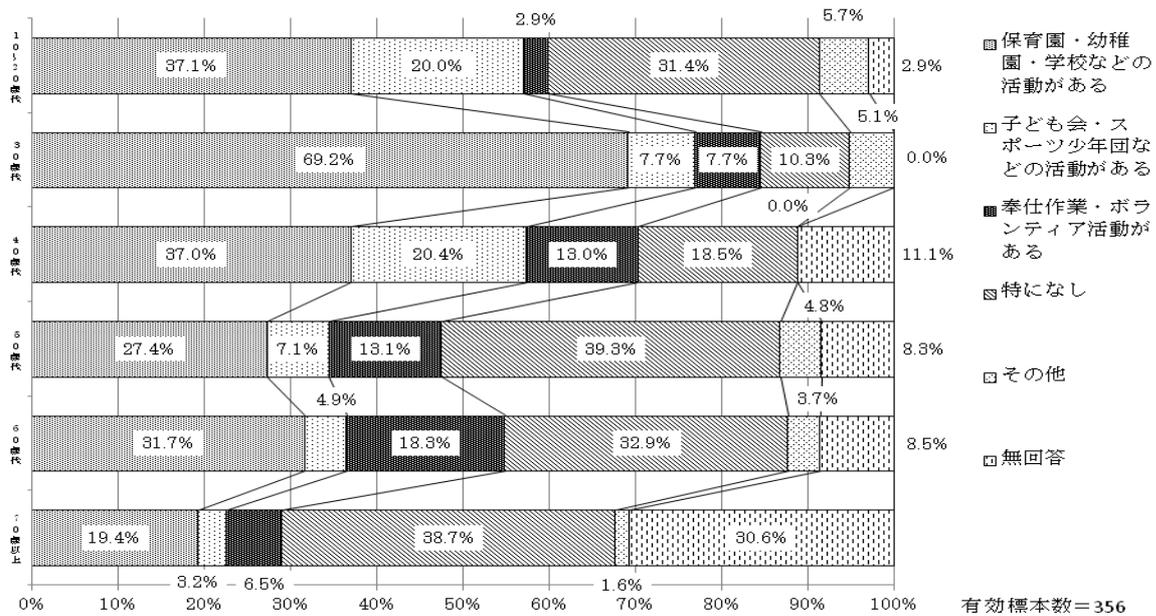
男女別にみると、「保育園・幼稚園・学校などの活動がある」と答えた割合が男性は37.3%、女性は31.9%と、男性が5.4ポイント高い割合となっている。また、「子ども会・スポーツ少年団などの活動がある」と答えた割合が男性は5.6%、女性は11.7%と、女性が6.1ポイント高い割合となっている。

年代別にみると、10～20歳代から40歳代までは「保育園・幼稚園・学校などの活動がある」と答えた割合が最も高くなっているが、50歳代から70歳以上までについては「特になし」と答えた割合が最も高くなっている。

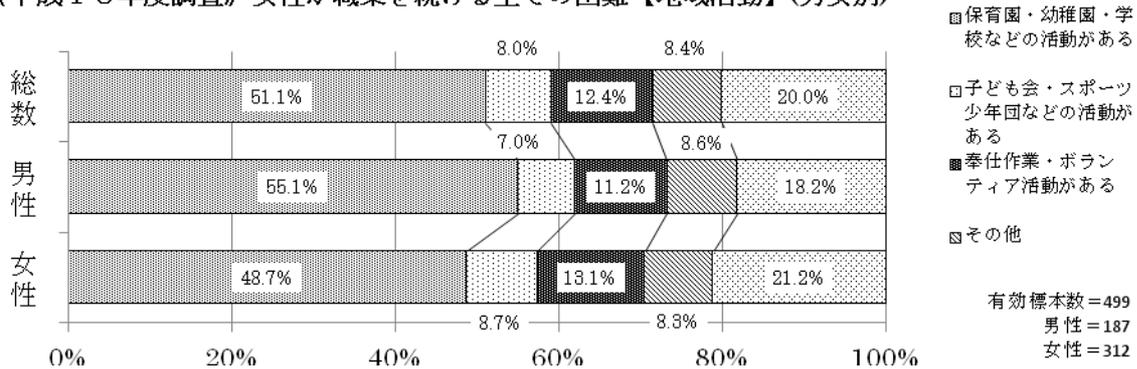
平成18年度調査と比較すると、全体では「保育園・幼稚園・学校などの活動がある」と答えた割合が17ポイントとかなり低くなっている。この項目については、男女とも低くなっており、年代別にみると多くの年代でかなり低くなっているものの、30歳代のみ9.2ポイント高くなっている。



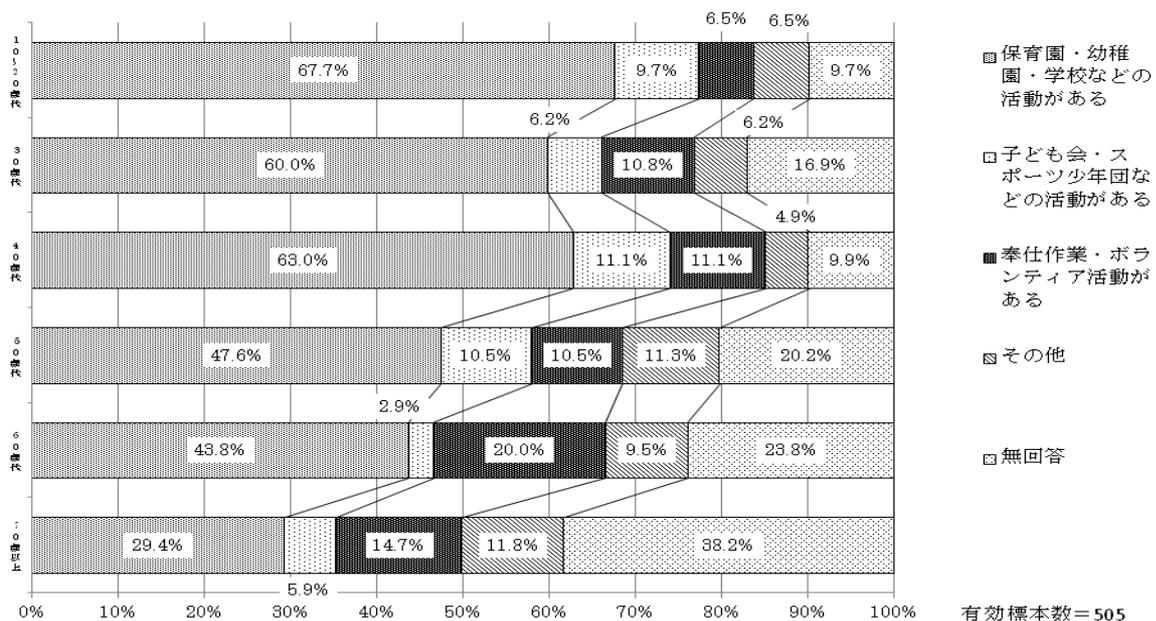
問10 女性が職業を続ける上での困難【地域活動】（年代別）



《平成18年度調査》女性が職業を続ける上での困難【地域活動】（男女別）



《平成18年度調査》女性が職業を続ける上での困難【地域活動】（年代別）



## E 就労条件

1. 労働時間が不規則な場合がある
2. 配置・昇級・昇格に男女格差がある
3. 結婚・出産の際、退職しなければならない雰囲気がある
4. 特になし
5. その他

全体で見ると、「労働時間が不規則な場合がある」と答えた割合が、29.9%と最も高くなっている。

男女別にみると、「特になし」と答えた割合が男性は21.1%、女性は26.3%と、女性が5.2ポイント高くなっている。

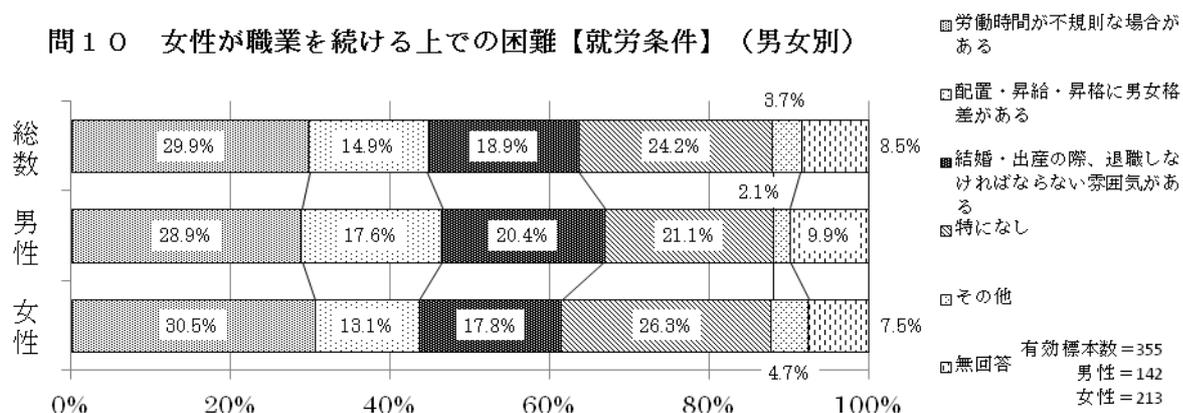
年代別にみると、10歳代から40歳代までで「労働時間が不規則な場合がある」と答えた割合が高くなっている。50歳代では「結婚・出産の際、退職しなければならない雰囲気がある」が最も高くなっている。また、60歳代では「労働時間が不規則な場合がある」と「特になし」が高い割合となっており、70歳以上では「特になし」が高い割合となっている。

平成18年度調査と比較すると、全体では「労働時間が不規則な場合がある」「配置・昇給・昇格に男女差がある」「結婚・出産の際、退職しなければならない雰囲気がある」と答えた割合は、どれも低くなっている。

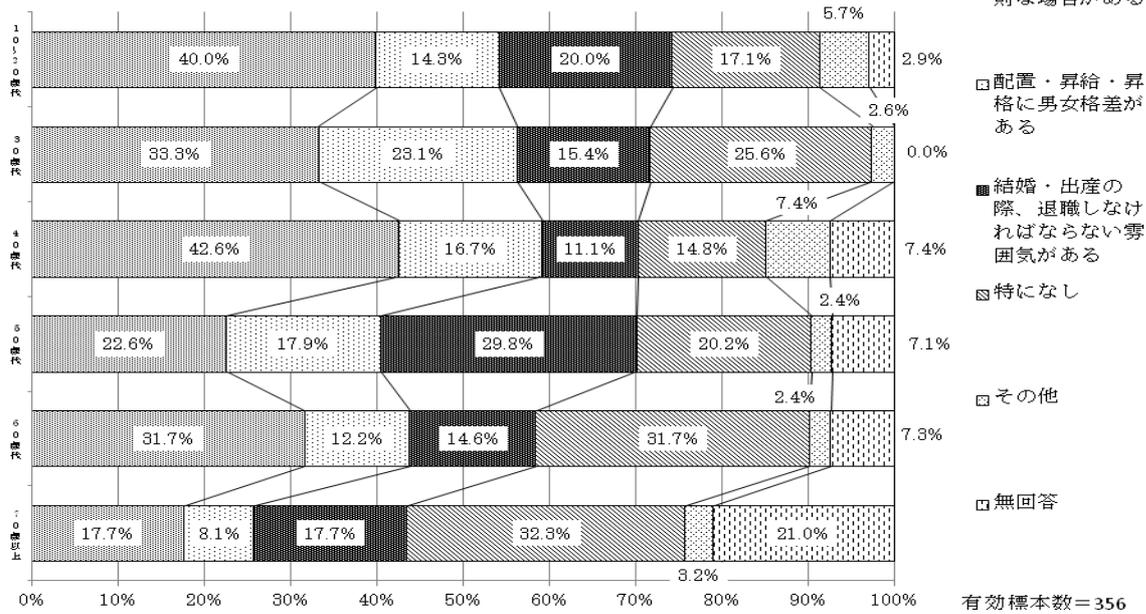
男女別にみても、男女ともこれら3つの項目に関してはどれも低くなっている。

年代別にみても多くの年代で低くなっているが、30歳代で「配置・昇給・昇格に男女差がある」と答えた割合が4.6ポイント、50歳代で「結婚・出産の際、退職しなければならない雰囲気がある」と答えた割合が3.2ポイント高くなっている。

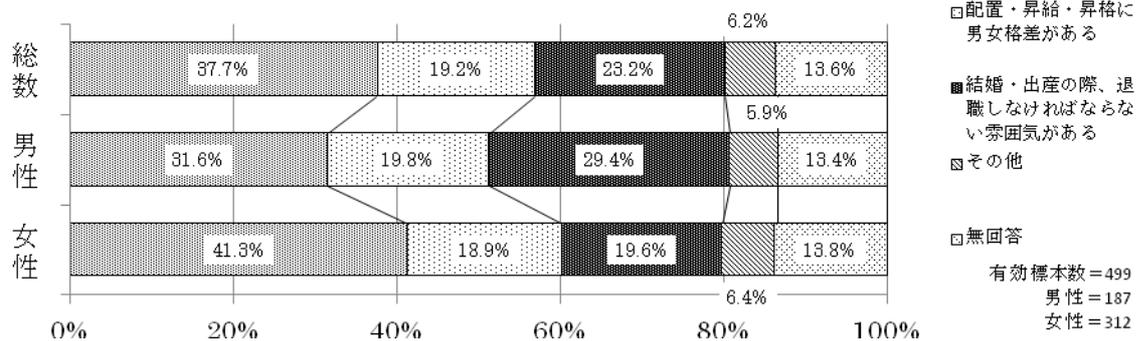
問10 女性が職業を続ける上での困難【就労条件】（男女別）



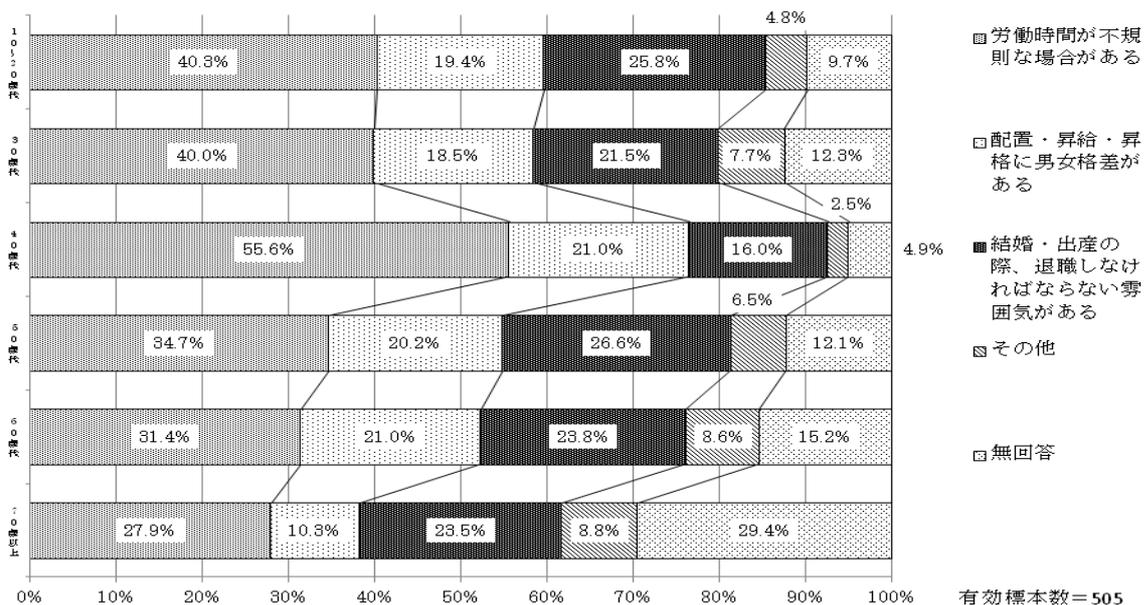
問10 女性が職業を続ける上での困難【就労条件】（年代別）



《平成18年度調査》女性が職業を続ける上での困難【就労条件】（男女別）



《平成18年度調査》女性が職業を続ける上での困難【就労条件】（年代別）



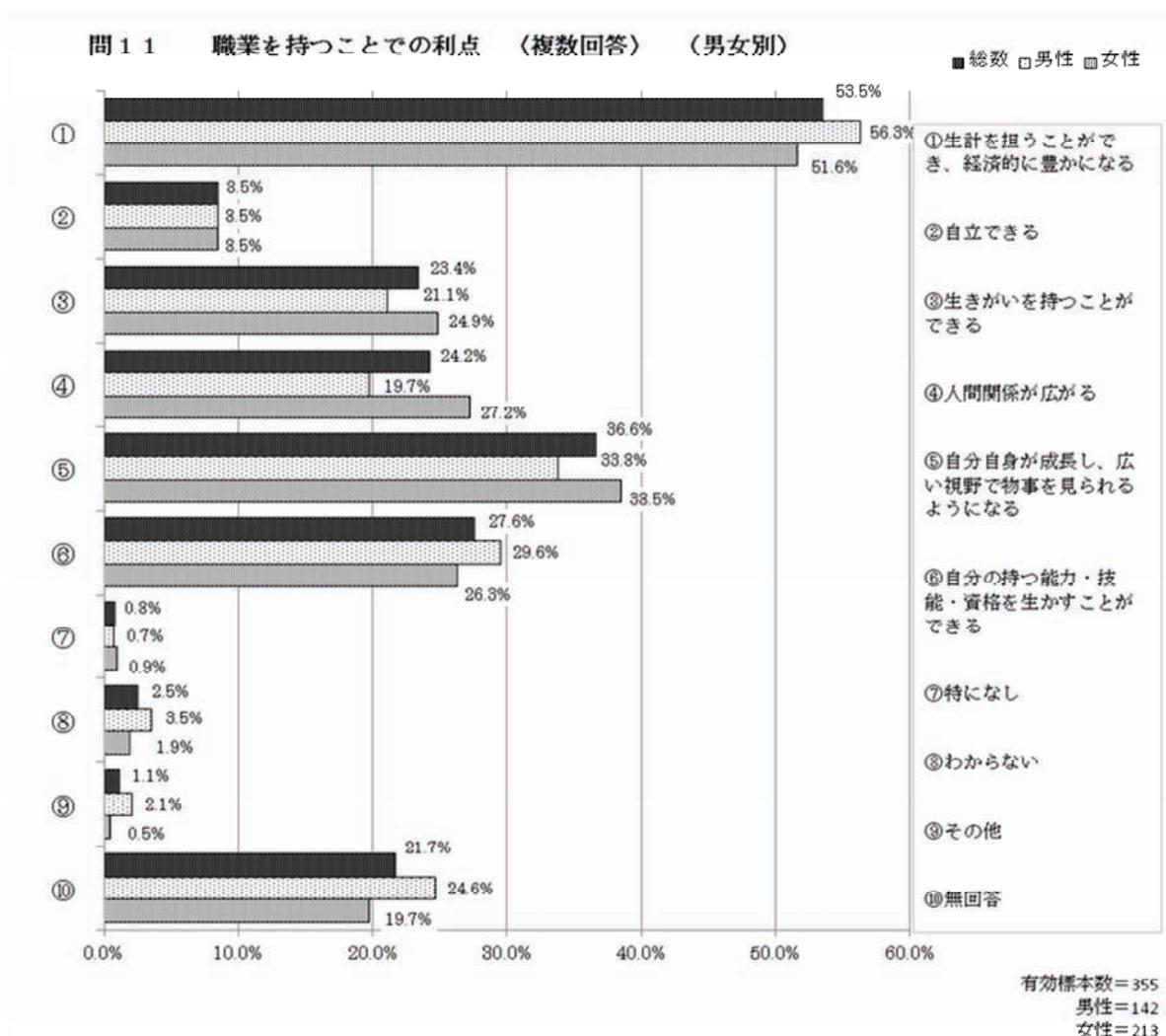
【問11】あなたは、女性が職業を持つことでどんな利点があると思いますか。次の中から2つ選んで番号に○をつけてください。

全体でみると、「①生計を担うことができ、経済的に豊かになる」と答えた割合が53.5%と最も高く、次いで「⑤自分自身が成長し、広い視野で物事を見られるようになる」が36.6%となっている。

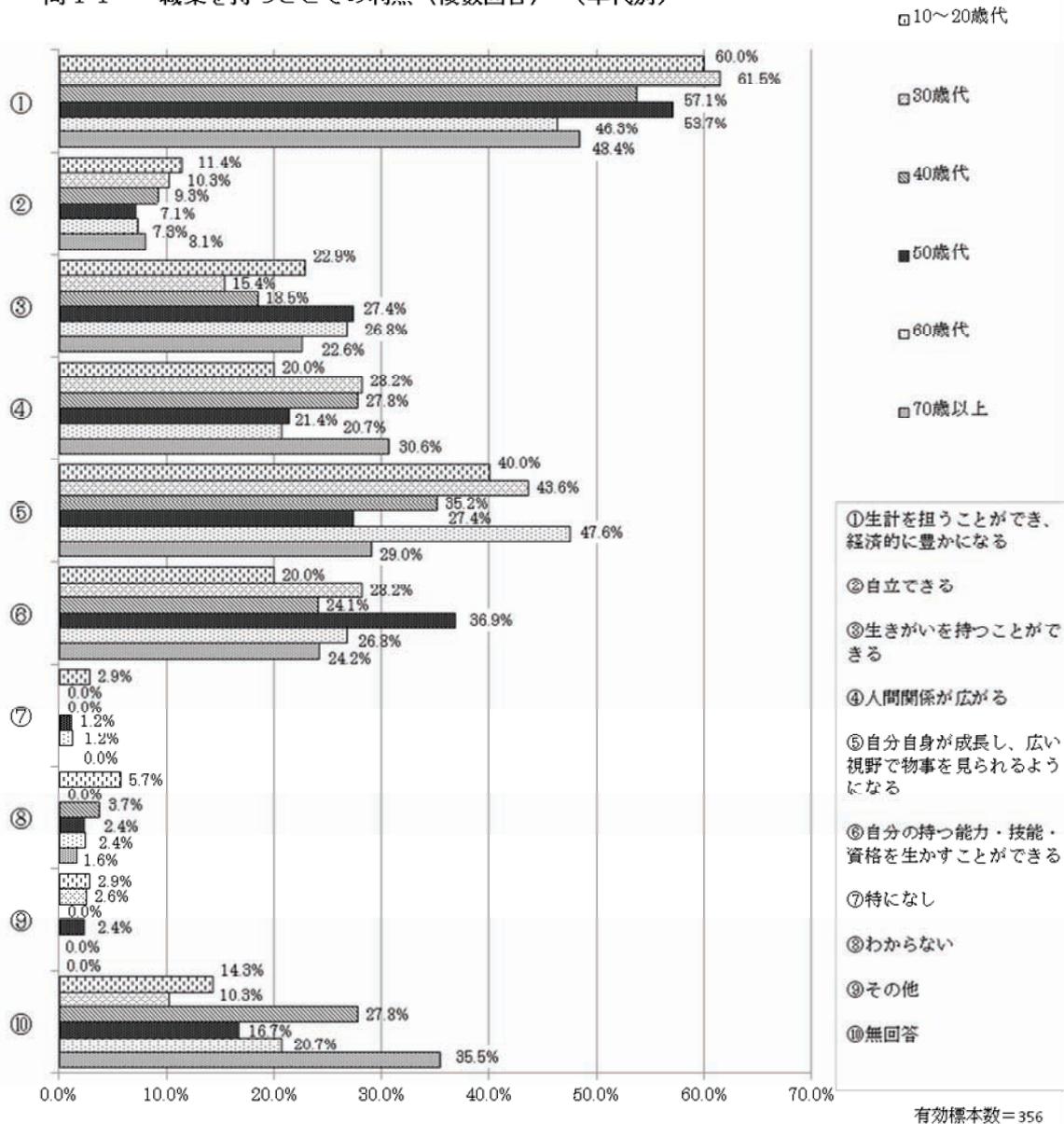
男女別にみると、「④人間関係が広がる」と答えた割合が男性は19.7%、女性は27.2%と、女性が7.5ポイント高い割合となっている。

年代別にみると、10～20歳代から50歳代までと70歳以上では「①生計を担うことができ、経済的に豊かになる」と答えた割合が高くなっており、60歳代では「⑤自分自身が成長し、広い視野で物事を見られるようになる」と答えた割合が高くなっている。

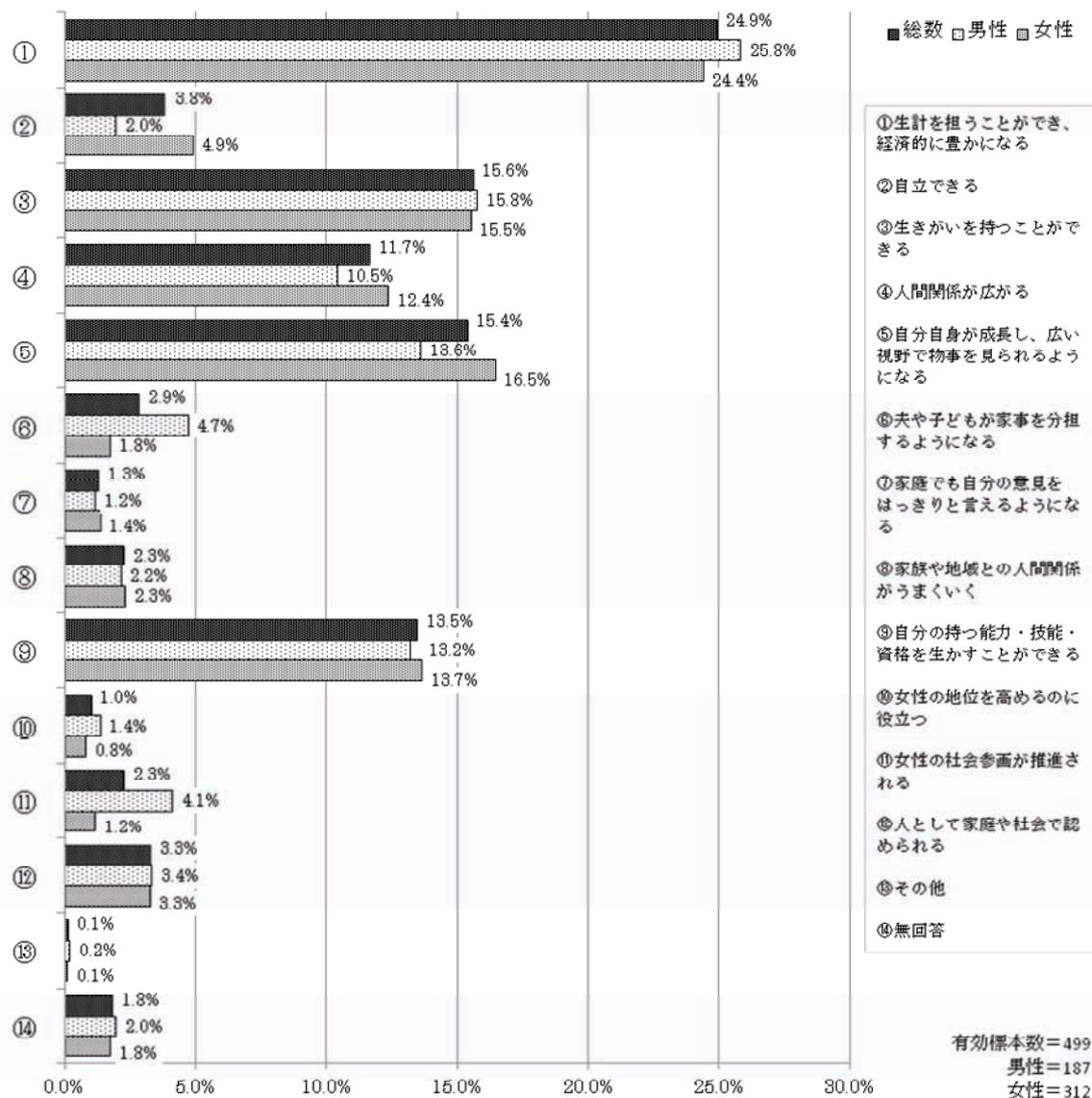
平成18年度調査と比較しても、「①生計を担うことができ、経済的に豊かになる」と答えた割合が最も高く、次いで「⑤自分自身が成長し、広い視野で物事を見られるようになる」と答えた割合が高いことは変わらない。



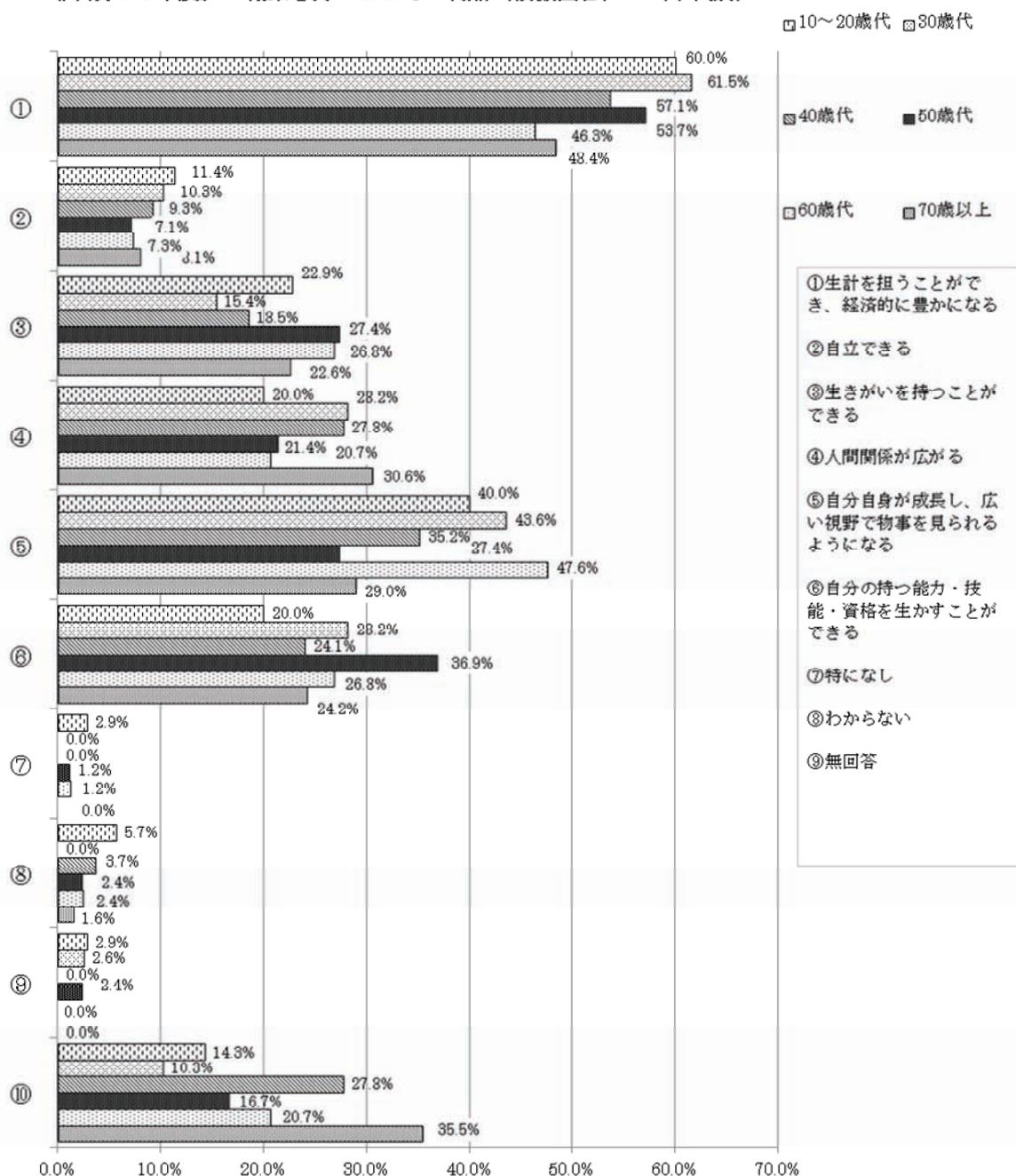
問 1 1 職業を持つことでの利点〈複数回答〉（年代別）



《平成18年度調査》 職業を持つことでの利点（複数回答） （男女別）



《平成18年度》 職業を持つことでの利点〈複数回答〉 〈年代別〉



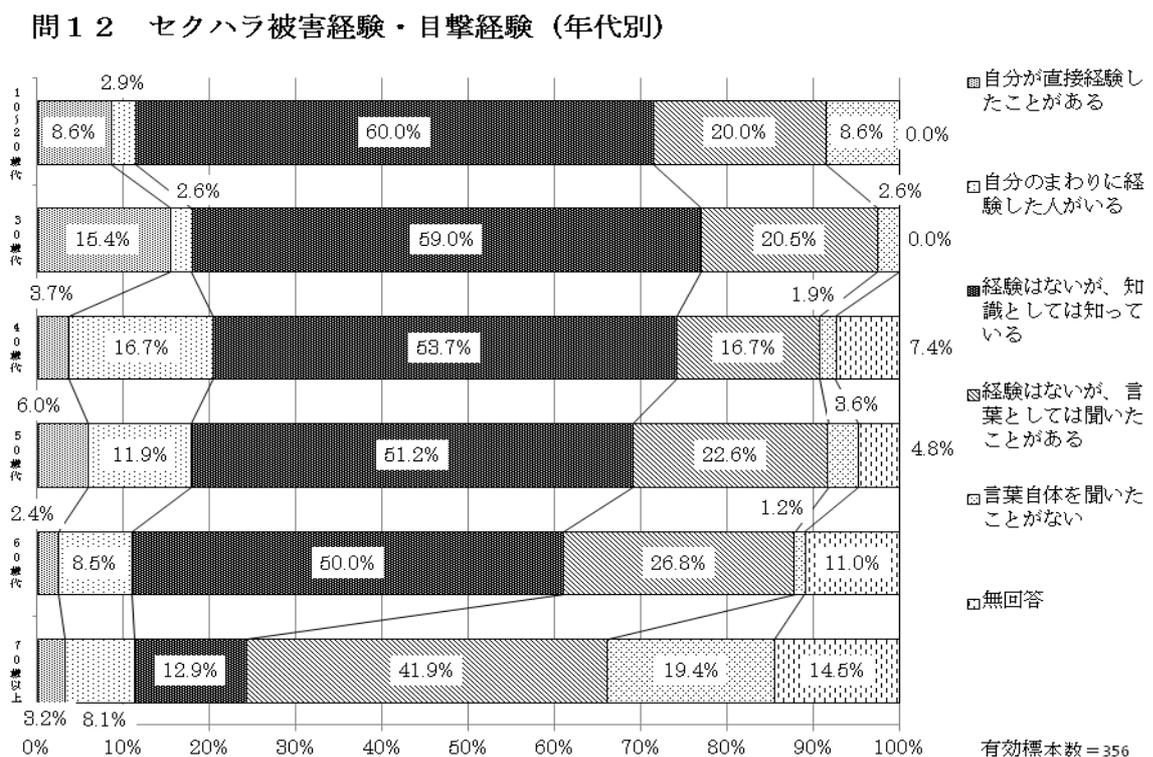
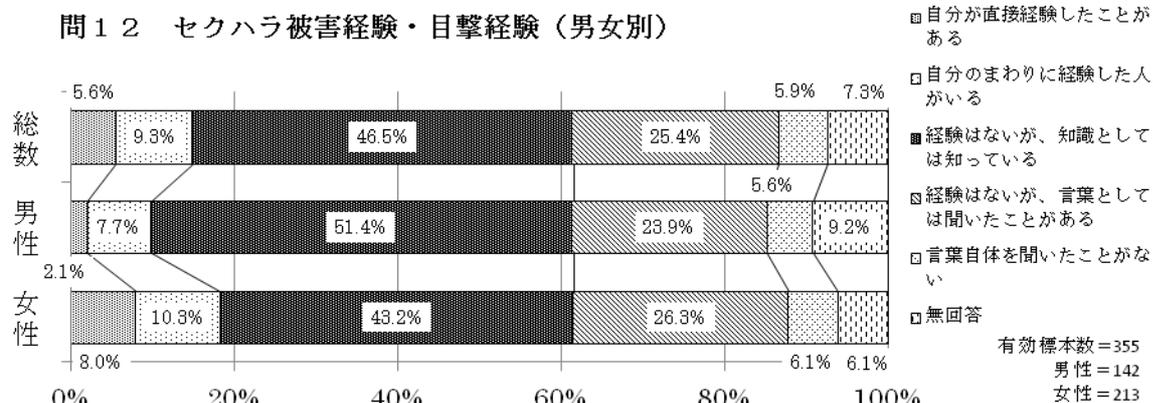
有効標本数=505

【問12】あなたは職場や学校などで性的嫌がらせ（セクシュアル・ハラスメント）を受けた経験はありますか。又は、そのような場面を見聞きしたことがありますか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

全体でみると、「自分が直接経験したことがある」、「自分のまわりに経験した人がいる」を合わせた回答が、14.9%となる。

男女別にみると、「自分が直接経験したことがある」の男性は2.1%、女性は8.0%と、女性の方が5.9ポイント高くなっている。一方、「経験はないが、知識としては知っている」と答えた割合が男性は51.4%、女性は43.2%と、男性の方が8.2ポイント高くなっている。

年代別にみると、10～20歳代と30歳代で「自分が直接経験したことがある」と答えた割合が、他の年代より高くなっている。年代が上がるにつれ、「経験はないが、知識としては知っている」の割合が低くなっている。



## 4. 男女平等に関する意識について

【問13】あなたは、次にあげるア～ケまでの言葉のうち、その内容について知っているものはありますか。次の①～③の中から選んであてはまる欄に○をつけてください。

- ア. 男女共同参画社会    イ. 女性差別撤廃条約  
ウ. 男女共同参画社会基本法    エ. 男女雇用機会均等法  
オ. 育児・介護休業法    カ. ポジティブ・アクション(積極的改善措置)  
キ. ワークライフバランス(仕事と生活の調和)  
ク. ジェンダー-(社会的・文化的につくられた性別)  
ケ. 山県市男女共同参画プラン

- ①内容を知っている    ②内容は知らないが、聞いたことはある  
③知らない

男女ともに「内容を知っている」と答えた割合が高いものは、『エ. 男女雇用機会均等法』、『オ. 育児・介護休業法』となっている。

逆に「知らない」と答えた割合が高く、認知度が低いと考えられるものは、『カ. ポジティブ・アクション』、『ク. ジェンダー』、『ケ. 山県市男女共同参画プラン』となっている。

男女別にみると、女性より男性の方が比較的どの項目も「内容を知っている」と答えた割合が高くなっている。

岐阜県調査と比較すると、山県市調査では『男女共同参画社会』、『ポジティブ・アクション』、『ジェンダー』について、「内容を知っている」と答えた割合は岐阜県調査より低くなっている。また、『女子差別撤廃条約』、『男女雇用機会均等法』については、「知らない」と回答した割合が岐阜県調査に比べ低くなっている。

『男女共同参画社会』については、全体では「内容を知っている」と答えた割合が19.2%、「内容は知らないが、聞いたことはある」は39.4%となっている。年代別にみると、60歳代で「知らない」と答えた割合が最も低く、18.3%となっている。

『女子差別撤廃条約』については、全体では「内容を知っている」と答えた割合が10.7%、「内容は知らないが、聞いたことはある」は34.1%となっている。年代別にみると、40歳代で「知らない」と答えた割合が最

も高く、61.1%となっている。

『男女共同参画社会基本法』については、全体では「内容を知っている」と答えた割合が8.2%、「内容は知らないが、聞いたことはある」は31.8%となっている。年代別にみると、30歳代で「内容を知っている」と答えた割合が0%となっている。

『男女雇用機会均等法』については、全体では「内容を知っている」と答えた割合が40.0%、「内容は知らないが、聞いたことはある」は35.5%となっている。年代別にみると、10～20歳代と30歳代で「内容を知っている」と答えた割合が5割を超えている。

『育児・介護休業法』については、全体では「内容を知っている」と答えた割合が38.3%、「内容は知らないが、聞いたことはある」は43.1%となっている。年代別にみると、30歳代で「内容を知っている」と回答した割合が5割を超えている。

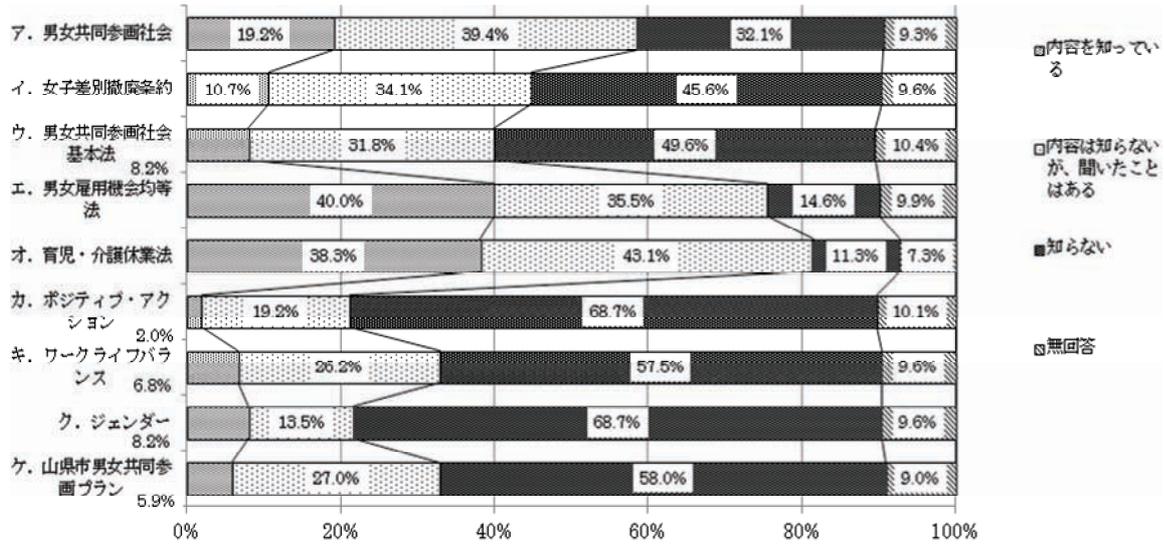
『ポジティブ・アクション』については、全体では「内容を知っている」と答えた割合が2.0%、「内容は知らないが、聞いたことはある」と答えた割合は19.2%となっている。年代別にみると、70歳以上で「内容を知っている」と答えた割合は0%となっており、どの年代についても「知らない」と答えた割合が、最も高くなっている。

『ワークライフバランス』については、全体では「内容を知っている」と答えた割合が6.8%、「内容は知らないが、聞いたことはある」は26.2%となっている。年代別にみると、50歳代で「知らない」と答えた割合が65.5%と最も高くなっている。

『ジェンダー』については、全体では「内容を知っている」と答えた割合が8.2%、「内容は知らないが、聞いたことはある」は13.5%となっている。年代別にみると、10～20歳代で「内容を知っている」と答えた割合は25.7%で、年代が上がるにつれてその割合は低くなり、70歳以上では0%となっている。

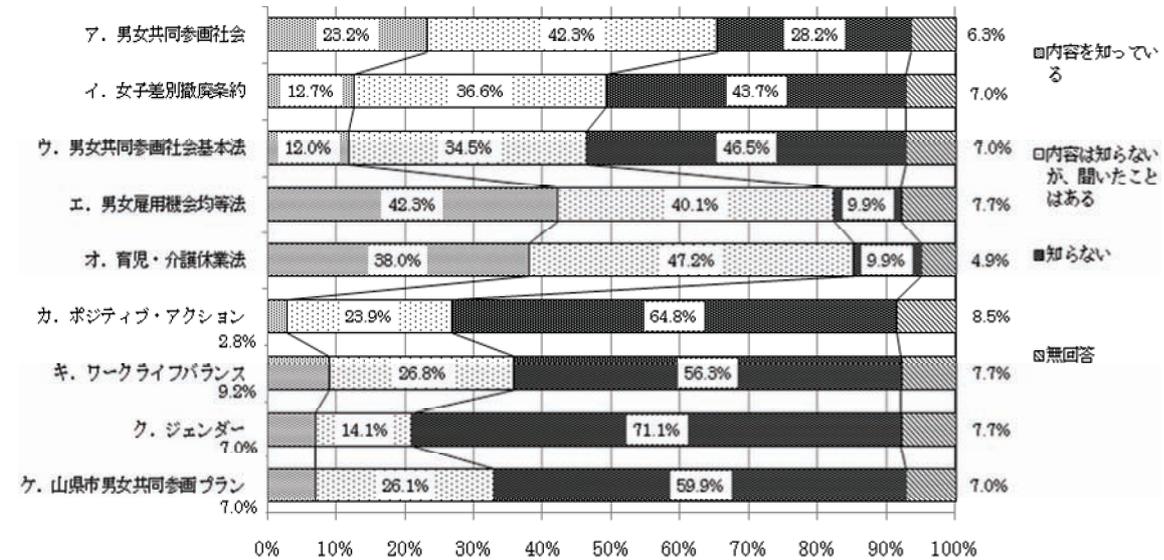
『山県市男女共同参画プラン』については、全体では「内容を知っている」と答えた割合が5.9%、「内容は知らないが、聞いたことはある」は27.0%となっている。年代別にみると、10～20歳代で「内容を知っている」と答えた割合は0%となっており、「知らない」と答えた割合は82.9%と非常に高くなっている。

問13 男女共同参画に関する言葉の認知度【全体】



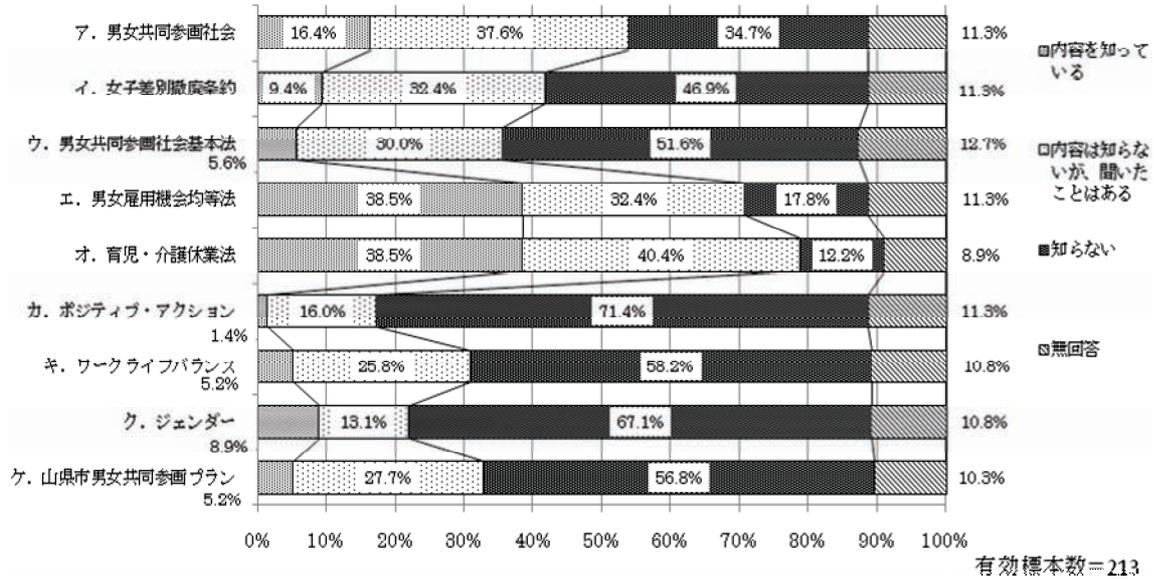
有効標本数=142

問13 男女共同参画に関する言葉の認知度【男性】

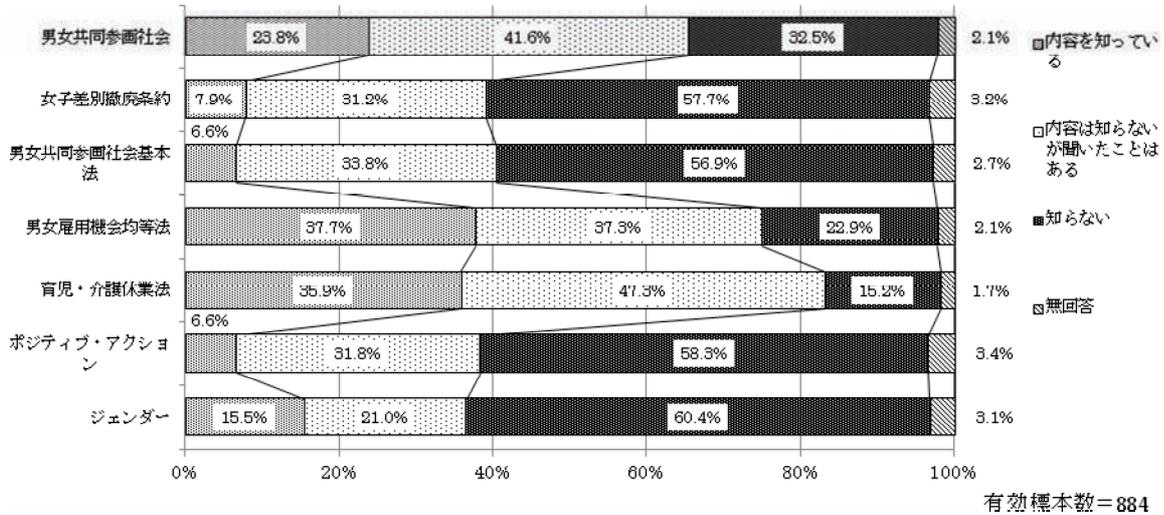


有効標本数=142

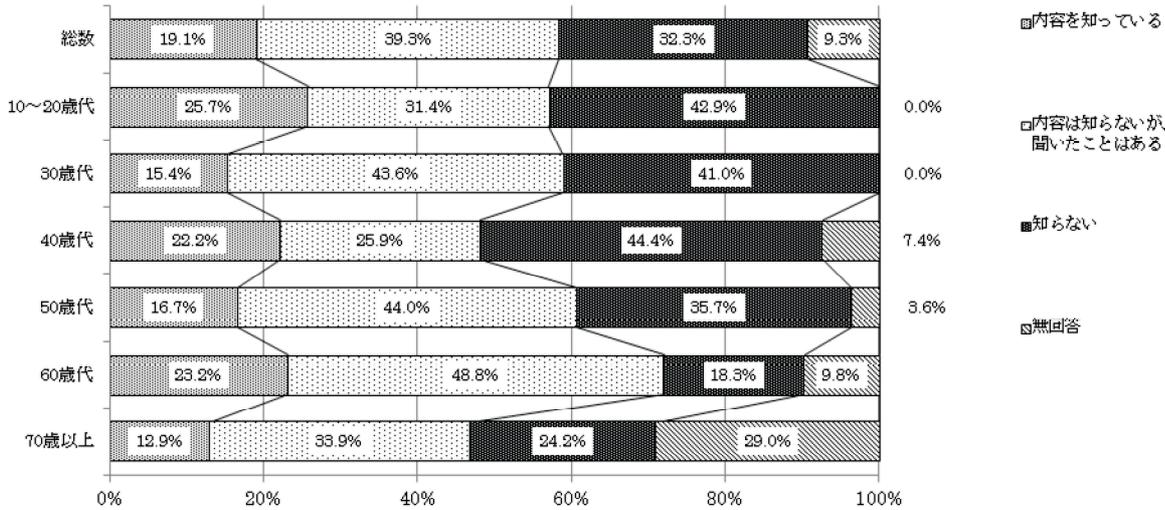
問13 男女共同参画に関する言葉の認知度【女性】



《参考》 岐阜県 男女共同参画に関する県民意識調査（平成20年2月実施）

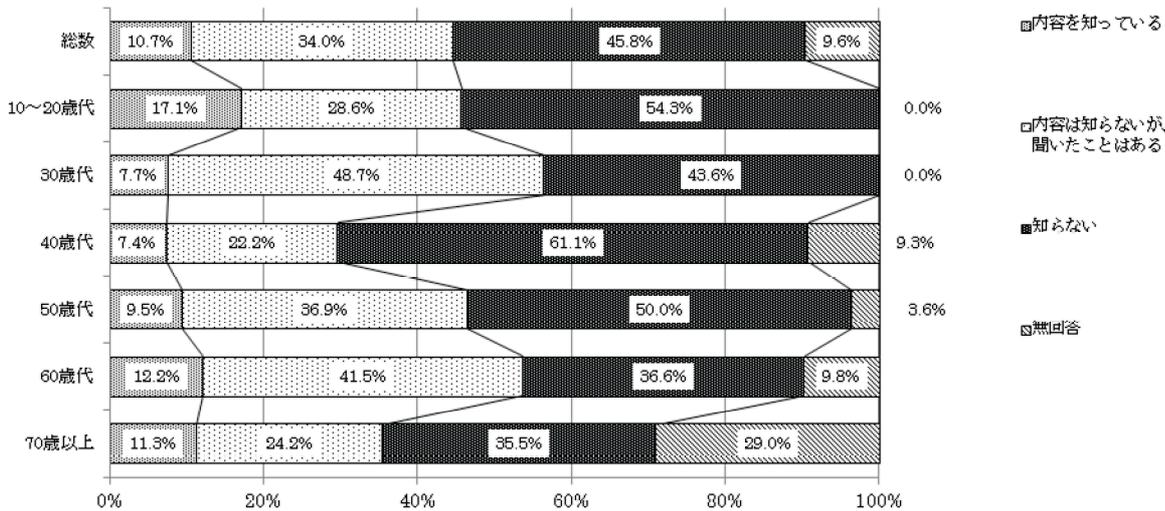


問13 男女共同参画に関する言葉の認知度【ア. 男女共同参画社会】（年代別）



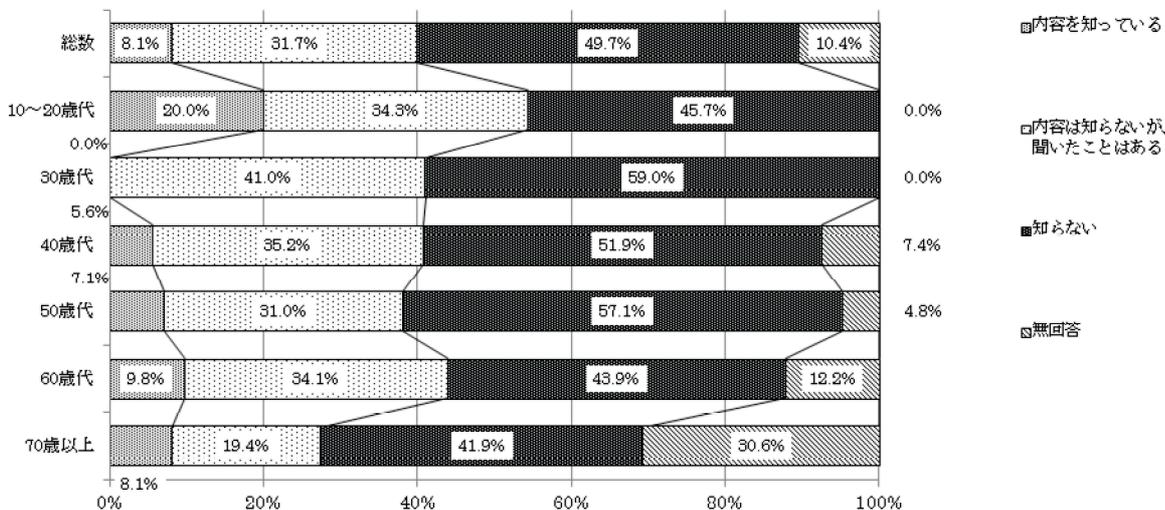
有効標本数=356

問13 男女共同参画に関する言葉の認知度【イ. 女子差別撤廃条約】（年代別）



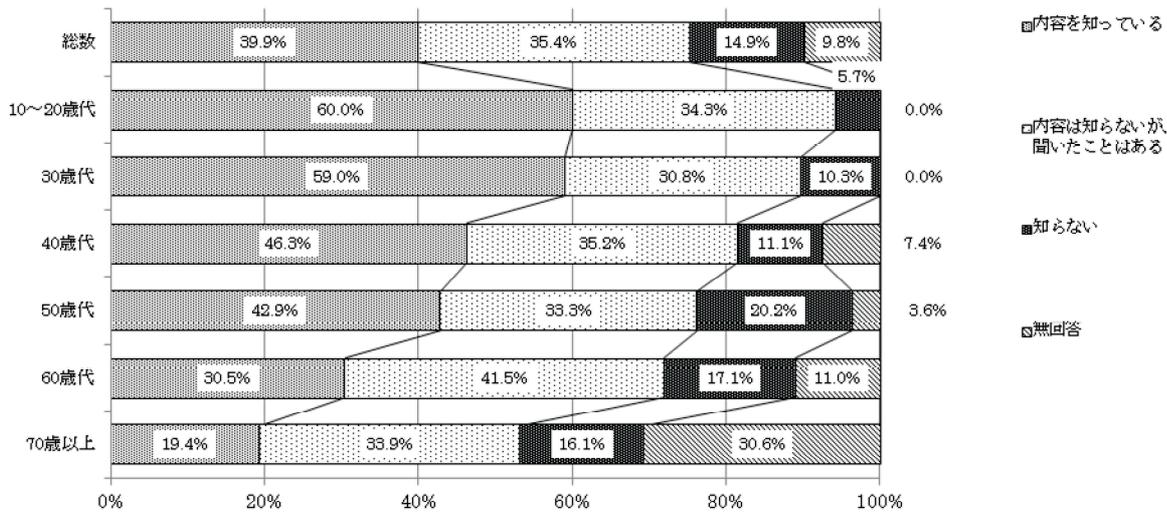
有効標本数=356

問13 男女共同参画に関する言葉の認知度【ウ. 男女共同参画社会基本法】（年代別）



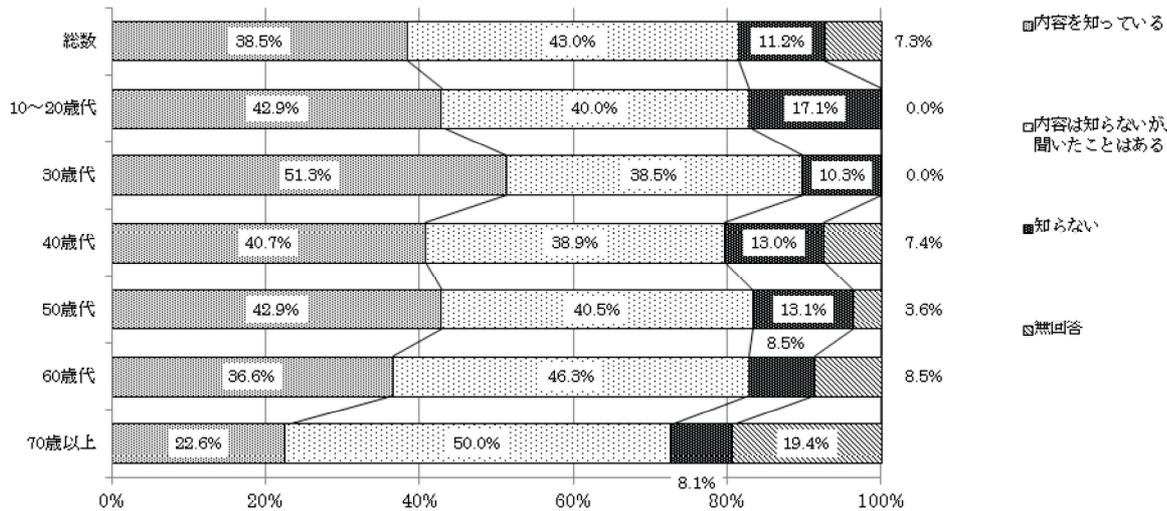
有効標本数=356

問13 男女共同参画に関する言葉の認知度【エ. 男女雇用機会均等法】(年代別)



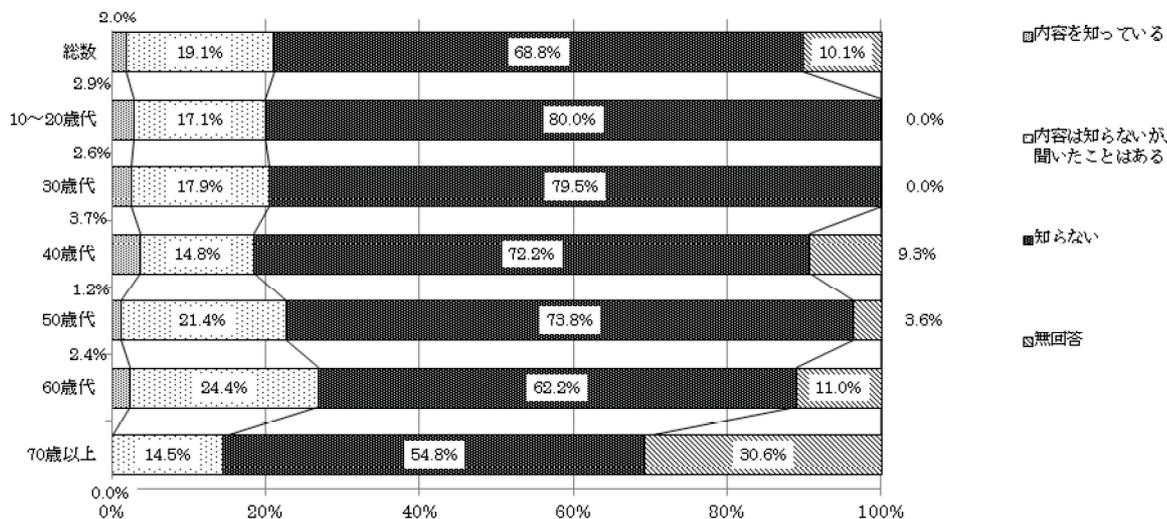
有効標本数=356

問13 男女共同参画に関する言葉の認知度【オ. 育児・介護休業法】(年代別)



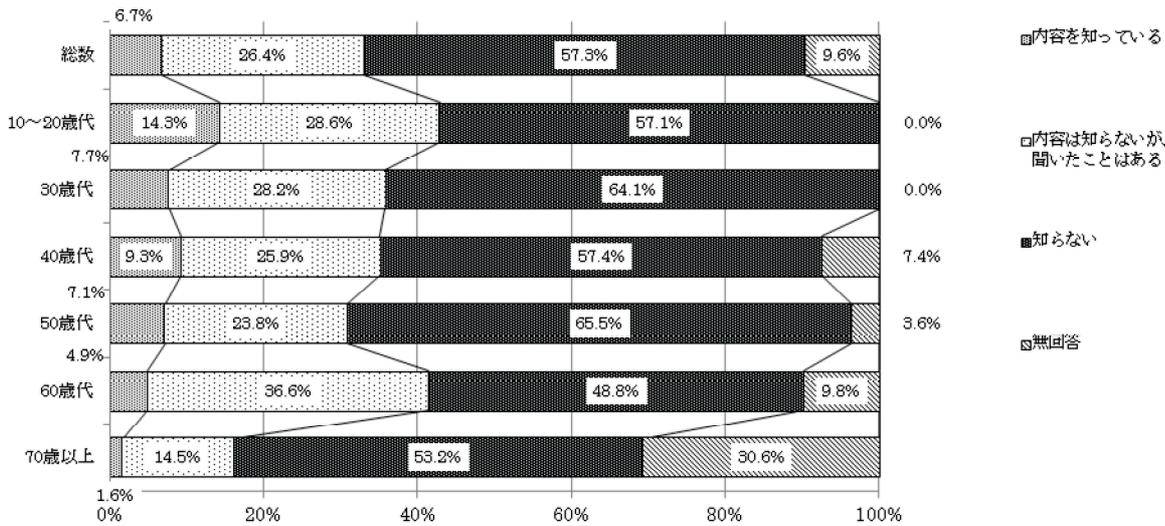
有効標本数=356

問13 男女共同参画に関する言葉の認知度【カ. ポジティブ・アクション】(年代別)



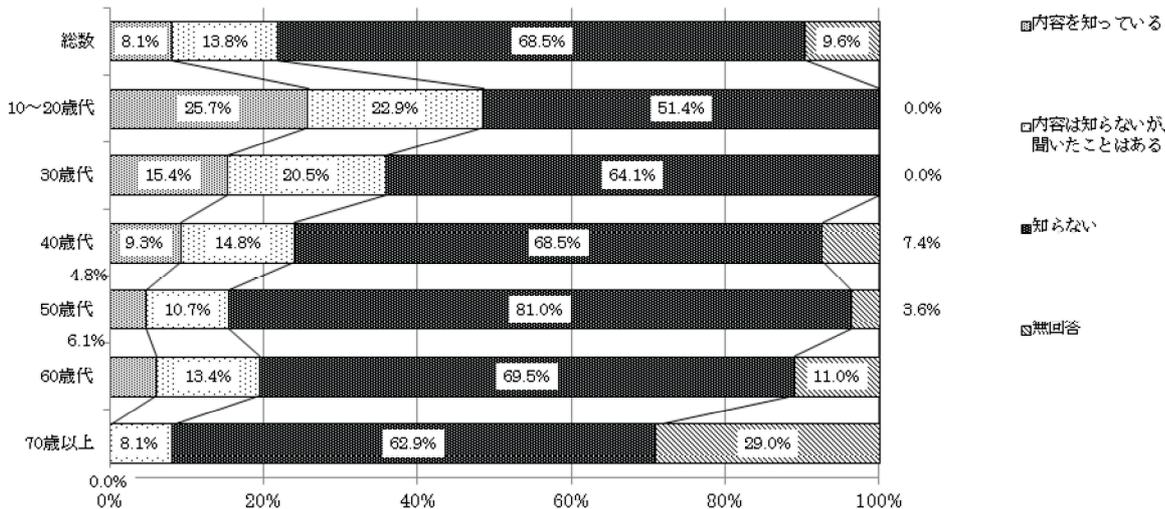
有効標本数=356

問13 男女共同参画に関する言葉の認知度【キ. ワークライフバランス】(年代別)



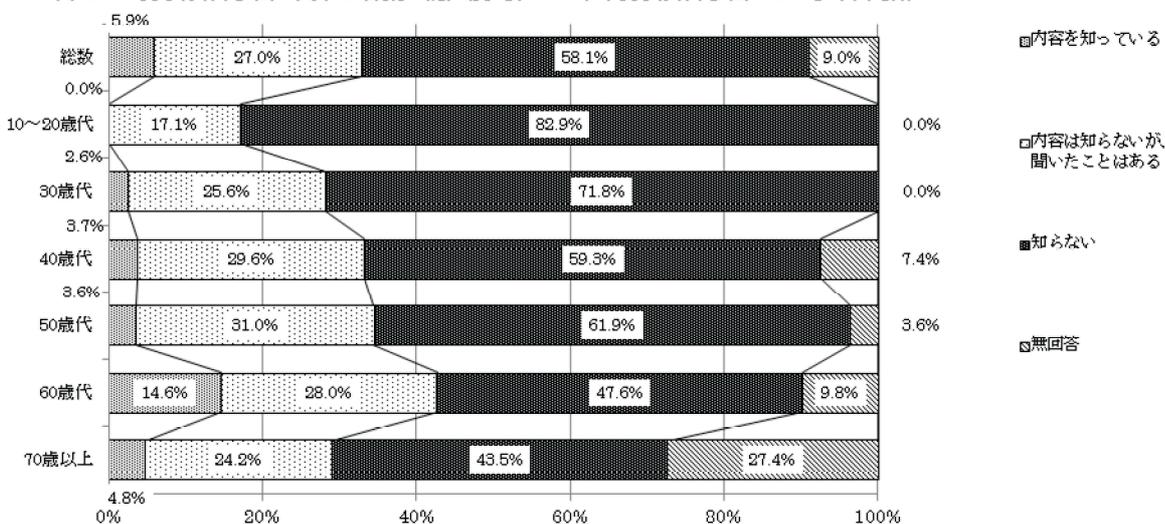
有効標本数=356

問13 男女共同参画に関する言葉の認知度【ク. ジェンダー】(年代別)



有効標本数=356

問13 男女共同参画に関する言葉の認知度【ケ. 山県市男女共同参画プラン】(年代別)



有効標本数=356

【問14】あなたは、次にあげるア～コで男女の地位は平等になっていると思いますか。次の①～⑥の中から選んであてはまる欄に○をつけてください。

ア．家庭生活の中    イ．職業の選択や職場    ウ．学校教育の場  
エ．政治の場    オ．法律上や制度上    カ．社会通念・習慣・しきたり  
キ．家業の後継者選び    ク．地域の中  
ケ．ボランティアなど団体活動の場    コ．社会全体

①男性が優遇    ②どちらかといえば男性が優遇    ③平等  
④どちらかといえば女性が優遇    ⑤女性が優遇    ⑥わからない

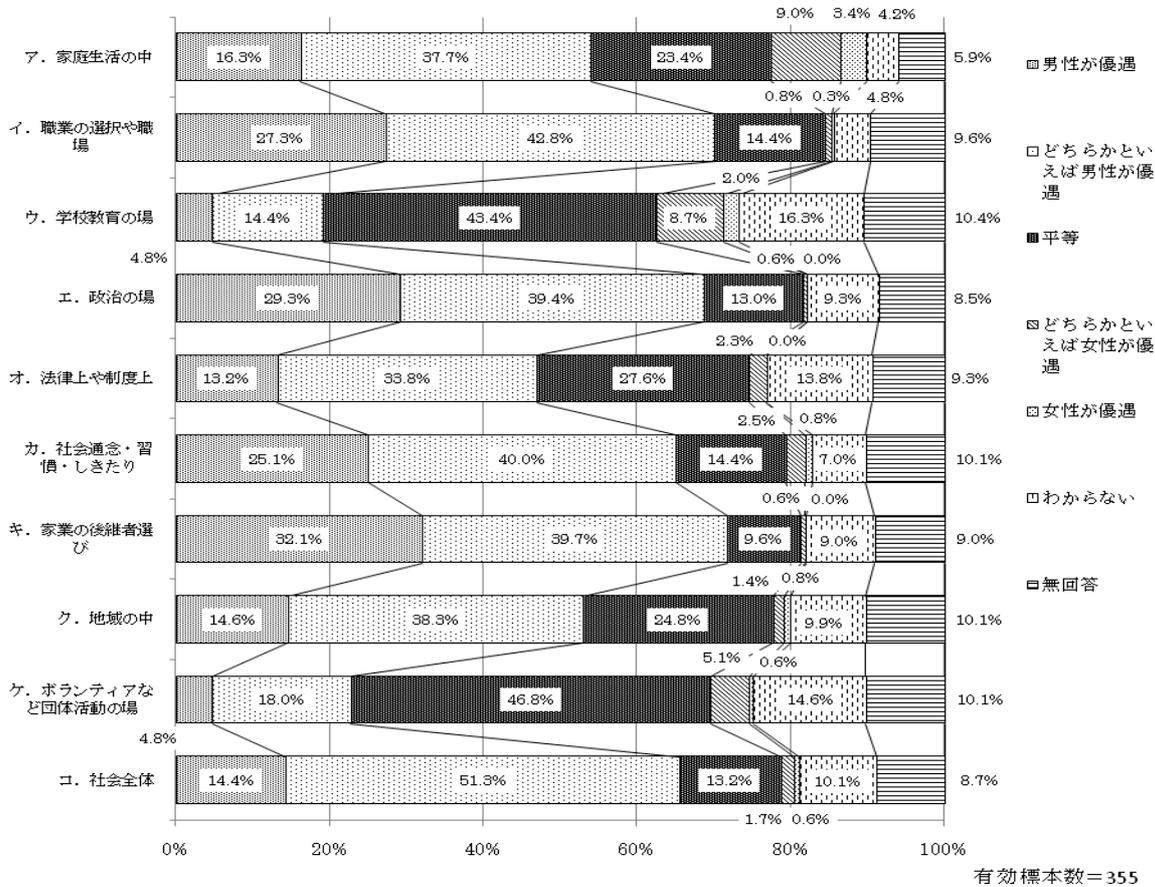
全体で見ると、『ウ．学校教育の場』、『ケ．ボランティアなど団体活動の場』以外の項目では「男性が優遇」、「どちらかといえば男性が優遇」と答えた割合が高くなっている。

男女別にみると、どの項目についても「平等」と答えた割合が、女性より男性の方が高くなっている。一方、すべての項目において「男性が優遇」、「どちらかといえば男性が優遇」と答えた割合が、男性より女性の方が高くなっている。

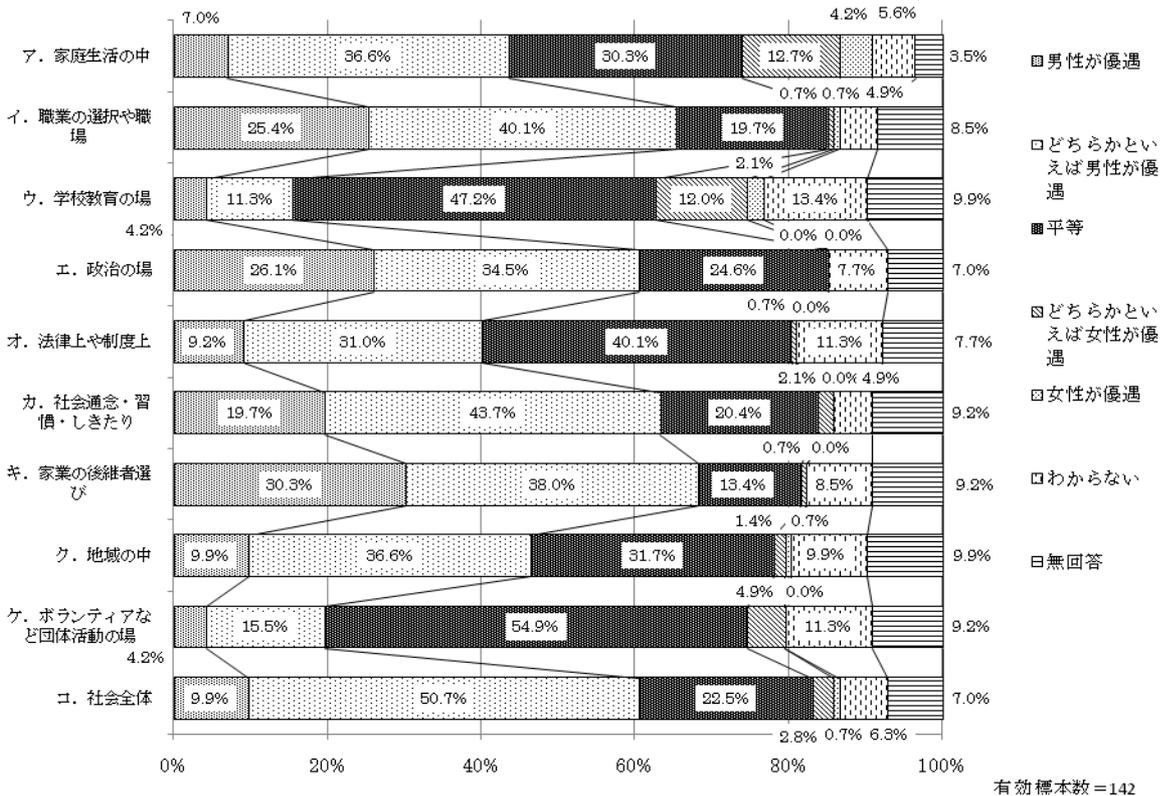
平成18年度調査と比較すると、男性については、どの項目についても「男性が優遇」と答えた割合が低くなっている。しかし女性については、『ア．家庭生活の中』、『イ．職業選択や職場』、『ウ．学校教育の場』において、「男性が優遇」と答えた割合が前回より高くなっている。

『ク．地域の中』については、男女とも「平等」と答えた割合が高くなっている。しかし、『オ．法律上や制度上』、『ケ．ボランティアなど団体活動の場』、『コ．社会全体』については、男性は「平等」と答えた割合が前回より高くなっているが、女性では低くなっている。

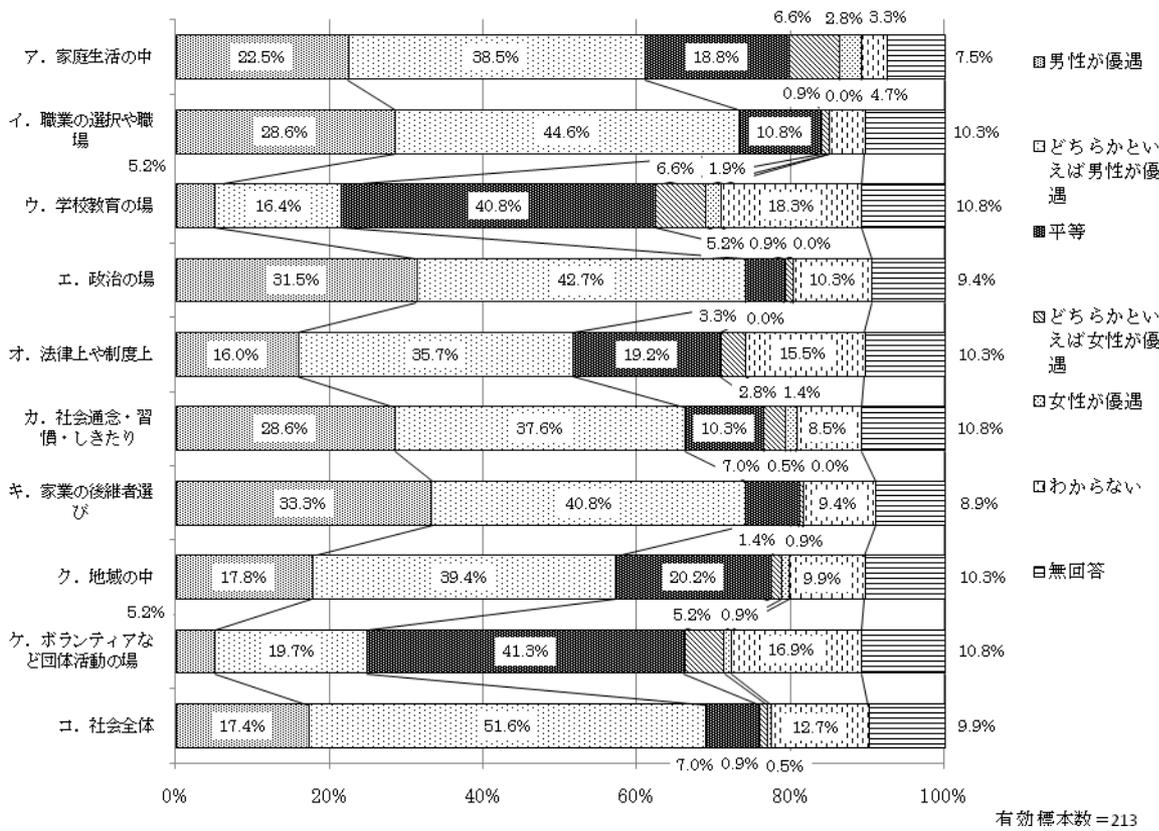
問 1 4 男女の地位の平等感【全体】



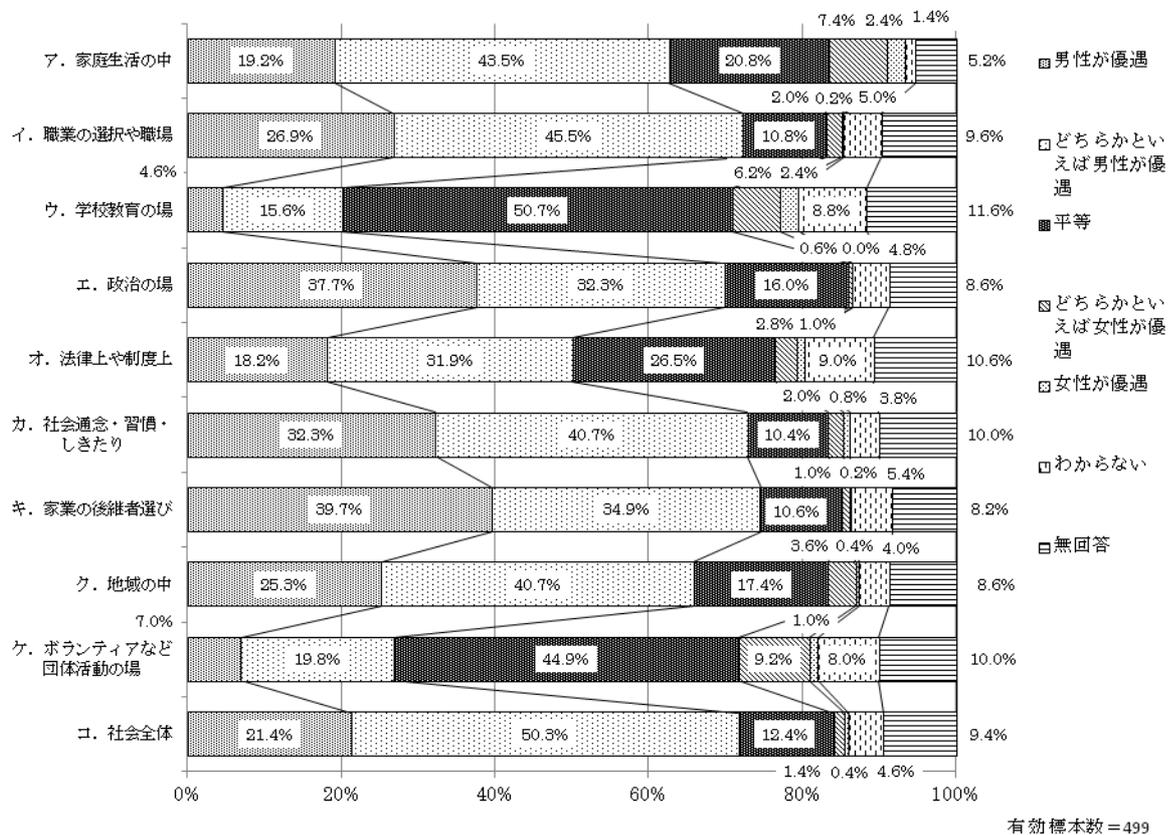
問 1 4 男女の地位の平等感【男性】



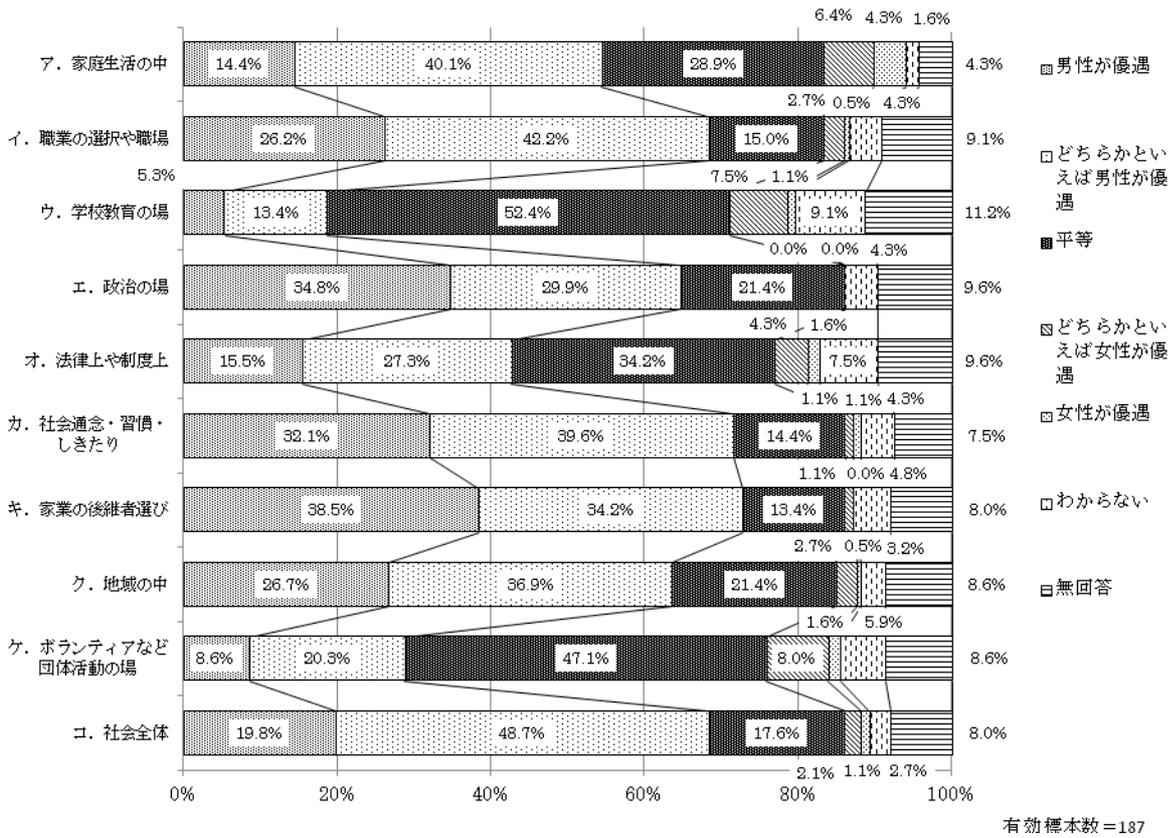
### 問 1 4 男女の地位の平等感【女性】



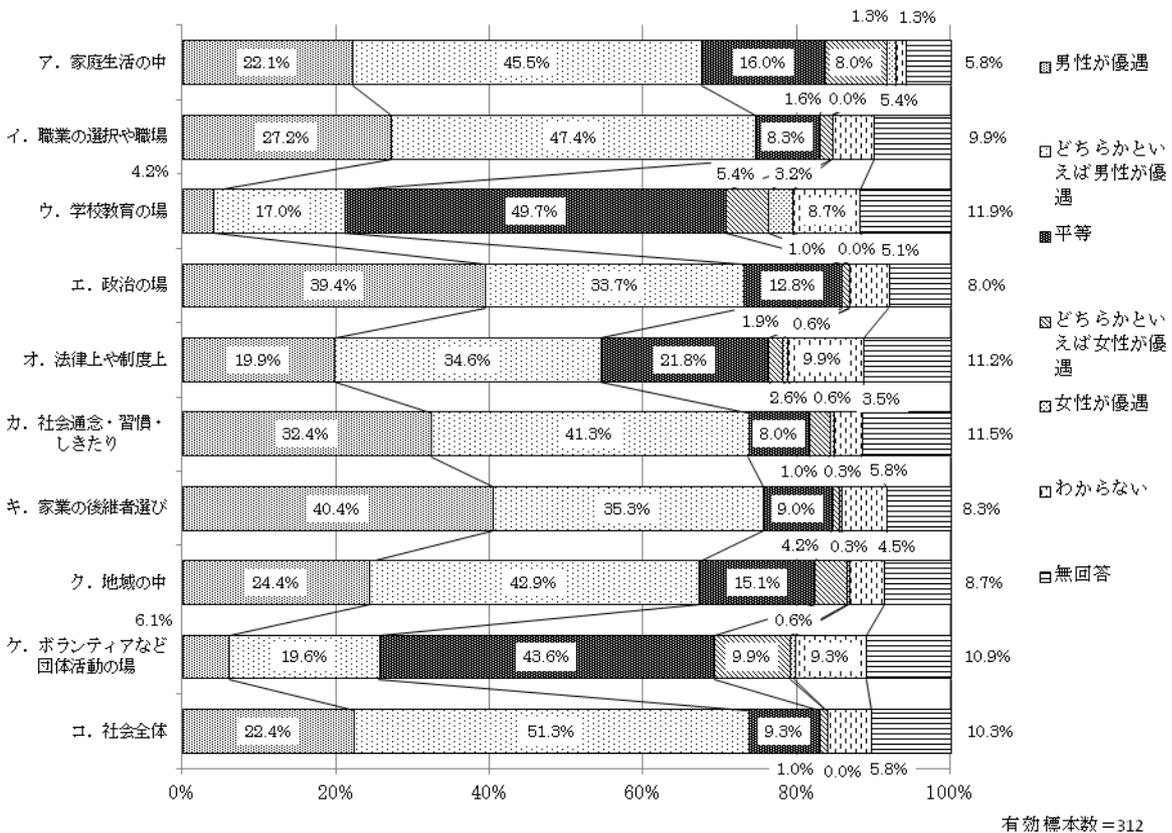
### 《平成18年度調査》 男女の地位の平等感【全体】



《平成18年度調査》 男女の地位の平等感【男性】



《平成18年度調査》 男女の地位の平等感【女性】

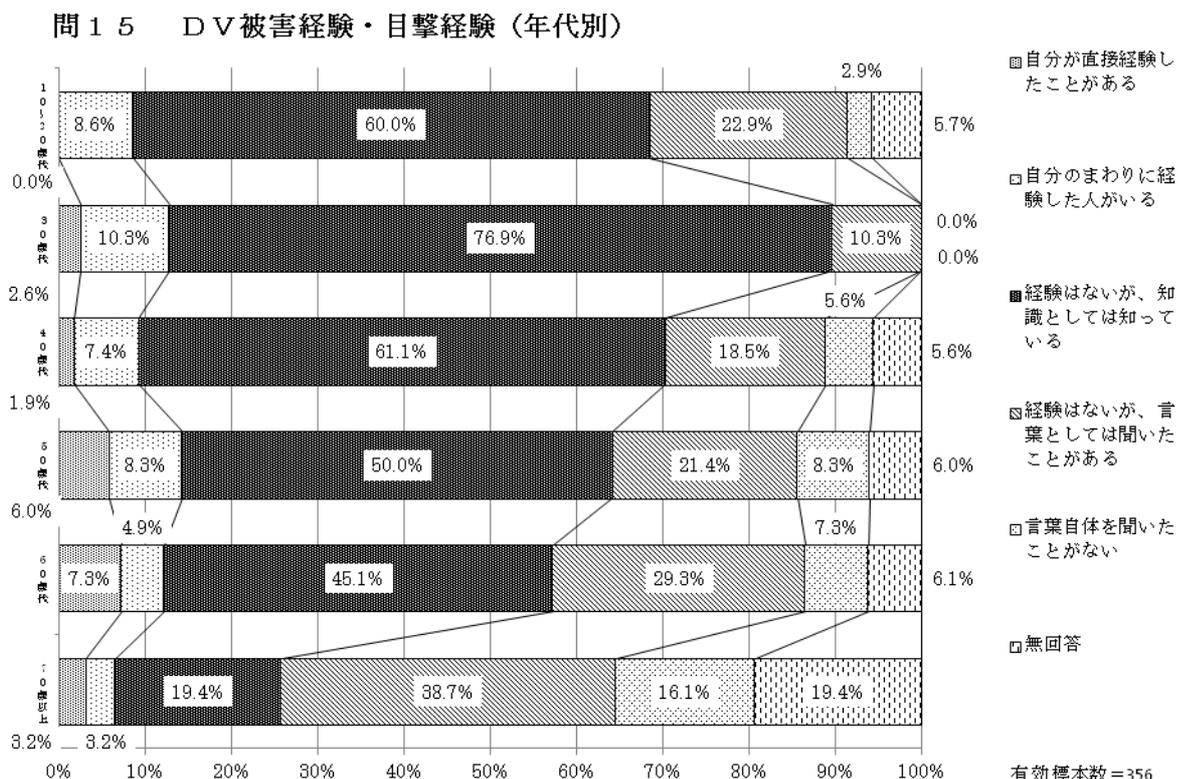
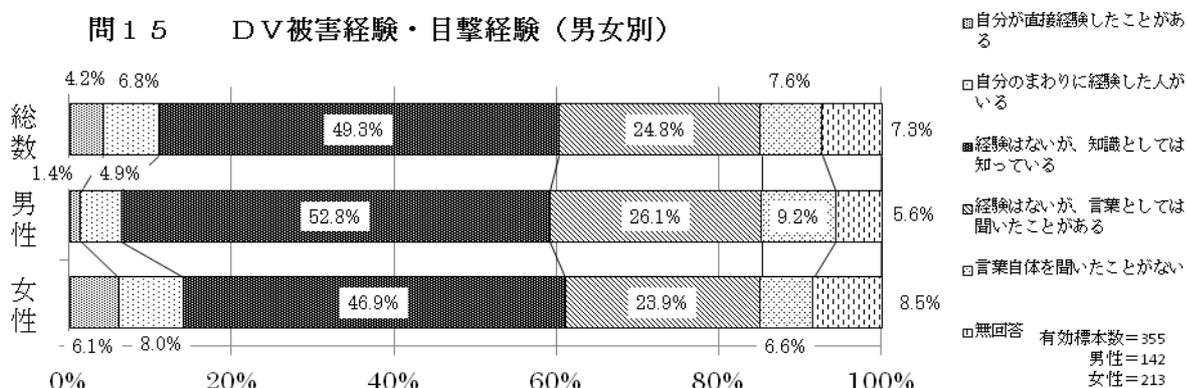


【問15】あなたは、この1年間に配偶者や恋人からDV（ドメスティック・バイオレンス）を受けたことがありますか。又は、そのような場面を見たことがありますか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

全体でみると、「自分が直接経験したことがある」、「自分のまわりに経験した人がある」と答えた割合を合わせると、全体の1割を占めている。

男女別にみると、「自分が直接経験したことがある」、「自分のまわりに経験した人がある」と答えた割合を合わせると、男性は6.3%、女性は14.1%と、女性が7.8ポイント高くなっている。

年代別にみると、年代が高くなると「言葉自体を聞いたことがない」と答えた割合が高くなる傾向がある。



## 5. 子どもの教育・将来像について

【問16】子どもの育て方についてあなたはどのように思いますか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

全体で見ると、「その子に合った育て方がよい」と答えた割合が、60.8%と最も高くなっている。

男女別にみると、「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる」と答えた割合が男性は29.6%、女性は16.4%と、男性の方が13.2ポイント高くなっている。また、「その子に合った育て方がよい」と答えた割合については、男性が52.1%、女性は66.7%と、女性の方が14.6ポイント高くなっている。

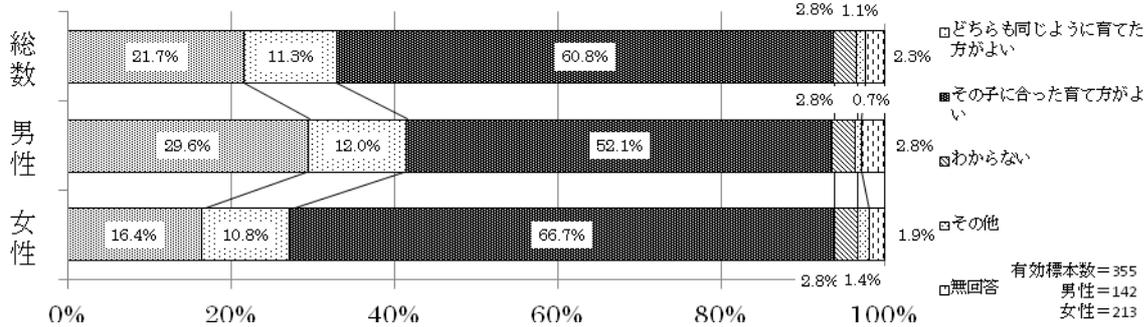
年代別にみると、70歳以上を除き、「その子に合った育て方がよい」と答えた割合が最も高くなっている。70歳以上については、「男の子は男らしく、女の子は女の子らしく育てる」と答えた割合が、他の年代に比べ高くなっている。

平成18年度調査と比較すると、全体で見ると、「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる」と答えた割合が6.2ポイント低くなり、「その子に合った育て方がよい」と答えた割合については4.1ポイント高くなっている。

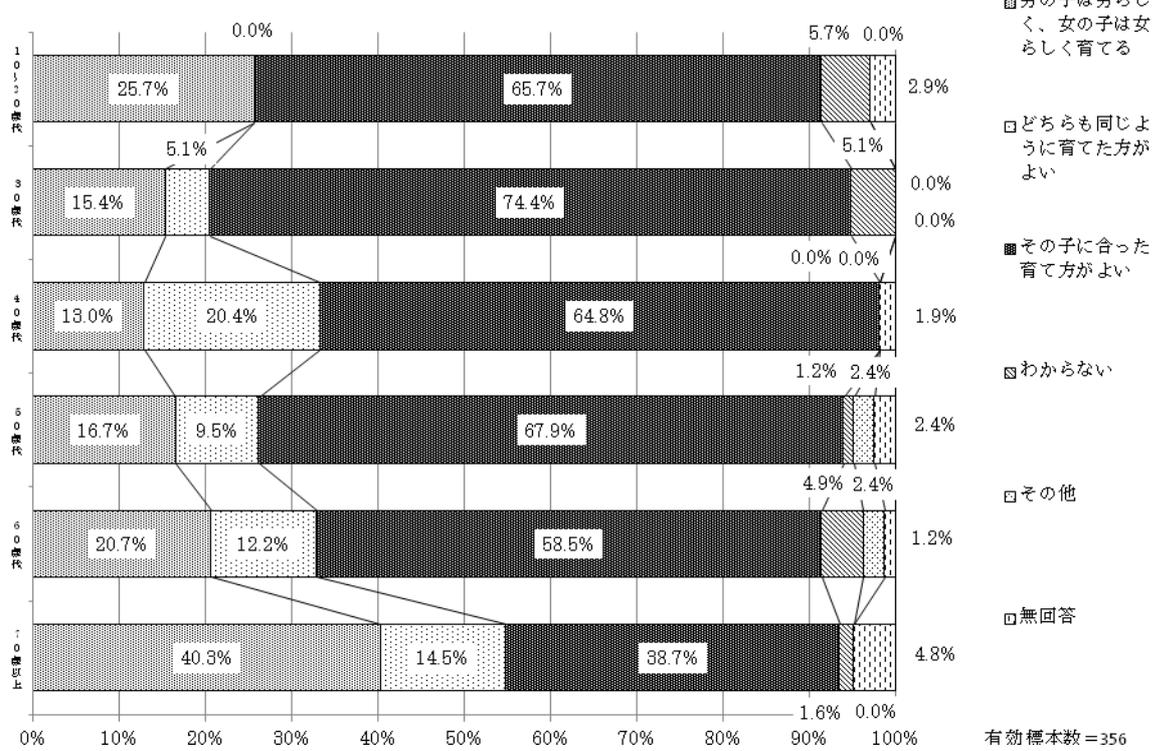
男女別にみると、女性については「その子に合った育て方がよい」と答えた割合が、7.1ポイント高くなっている。

年代別にみると、10～20歳代以外の年代で「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる」と答えた割合が低くなっている。その中でも50歳代と60歳代については、10ポイント以上低くなっている。

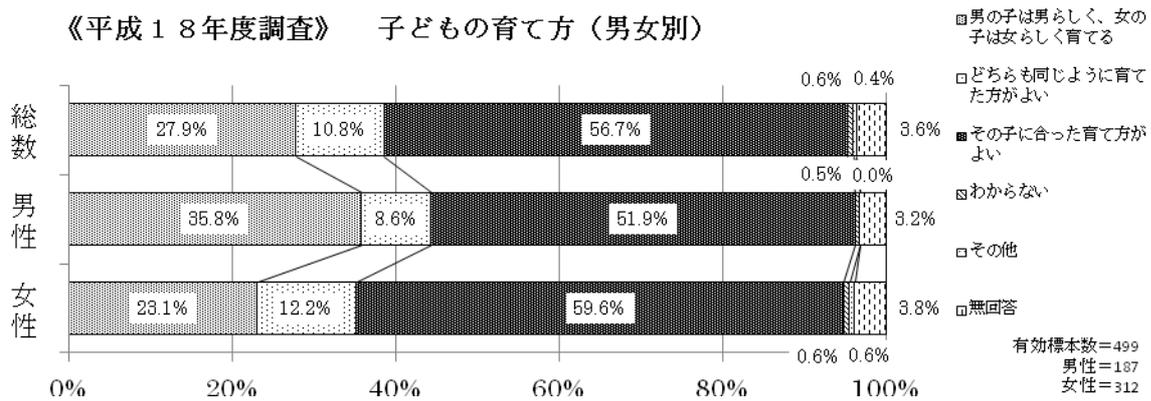
問16 子どもの育て方（男女別）



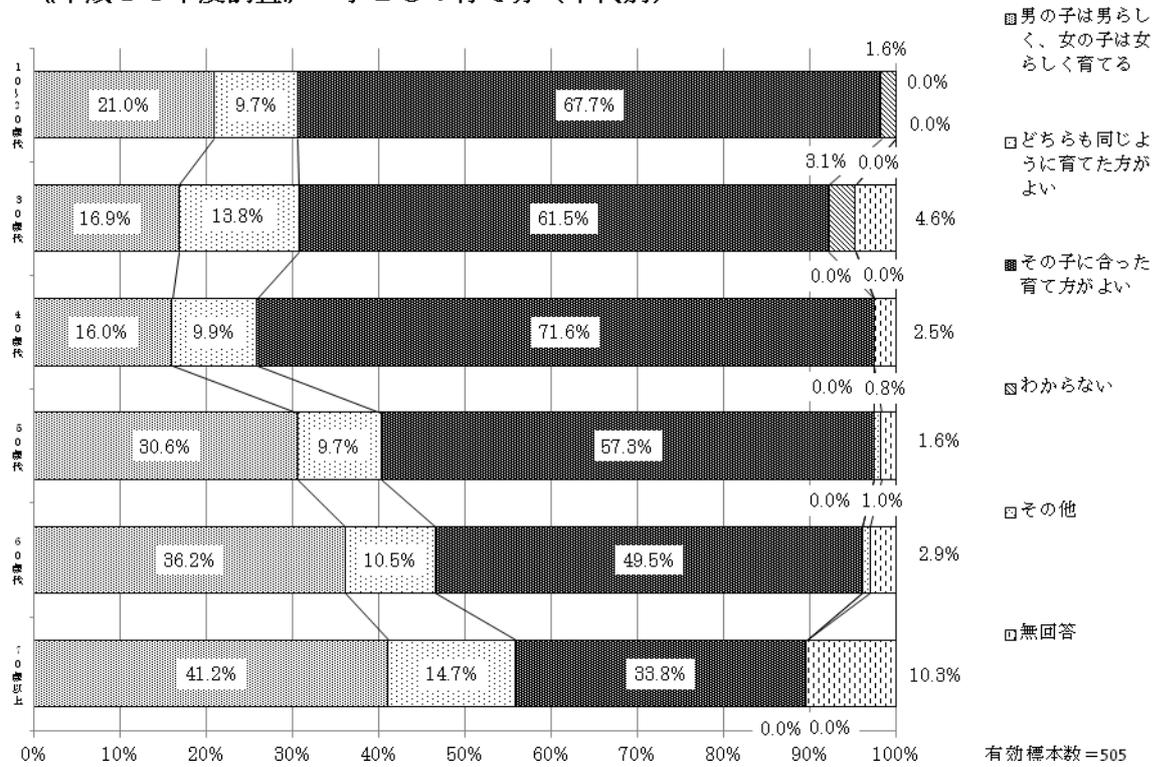
問16 子どもの育て方（年代別）



《平成18年度調査》 子どもの育て方（男女別）



《平成18年度調査》 子どもの育て方（年代別）



【問17】あなたは、自分の子ども又は、自分に子どもがあると仮定した場合にその子にどの程度の教育を受けさせるのが望ましいと思いますか。男の子、女の子別に次のア～クの中から1つ選んであてはまる欄に○をつけてください。

ア. 中学    イ. 高校    ウ. 専門学校    エ. 高専    オ. 短大  
カ. 大学    キ. 大学院    ク. 学歴にこだわらない

全体で見ると、男の子も女の子も「大学」と答えた割合が最も高くなっているが、男の子と女の子で比較してみると、男の子に関しては5割を超えているのに対して、女の子に関しては3割程度となっている。

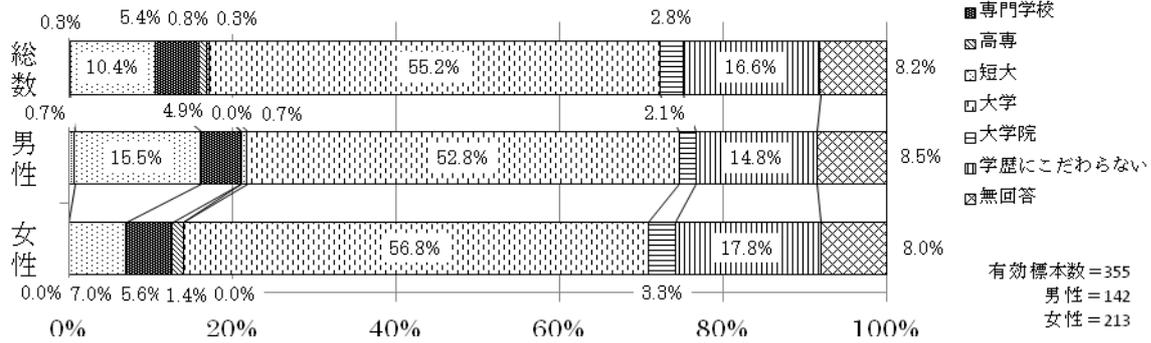
「専門学校」「短大」について比較してみると、女の子の方が「専門学校」「短大」と答えた割合が高くなっている。

男女別にみると、男の子については「高校」と答えた割合は、男性が15.5%、女性が7.0%と、男性が8.5ポイント高い割合となっている。

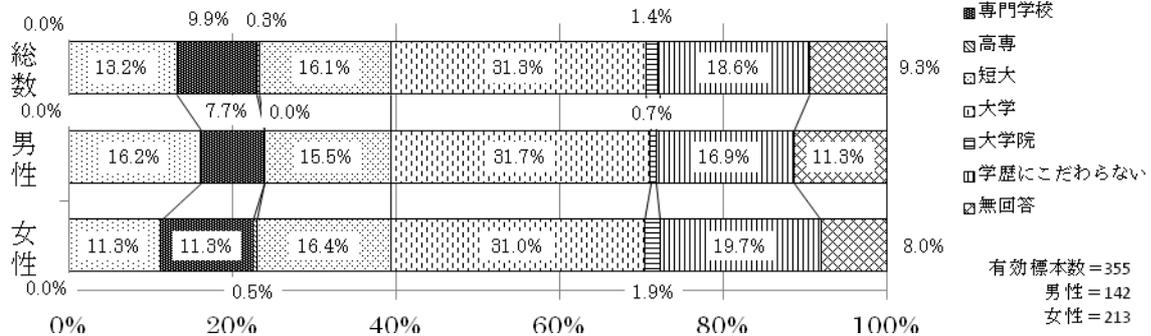
平成18年度調査と比較しても、男の子も女の子も「(四年制)大学」と答えた割合が最も高く、男の子に関してはその割合が5割を超えていることに変わりはなく、女の子に関しても変わらず3割程度である。

ただ、女の子に関しては「短大」と答えた割合が全体では6.7ポイント低くなっており、男女別にみても、男性、女性とも低くなっている。

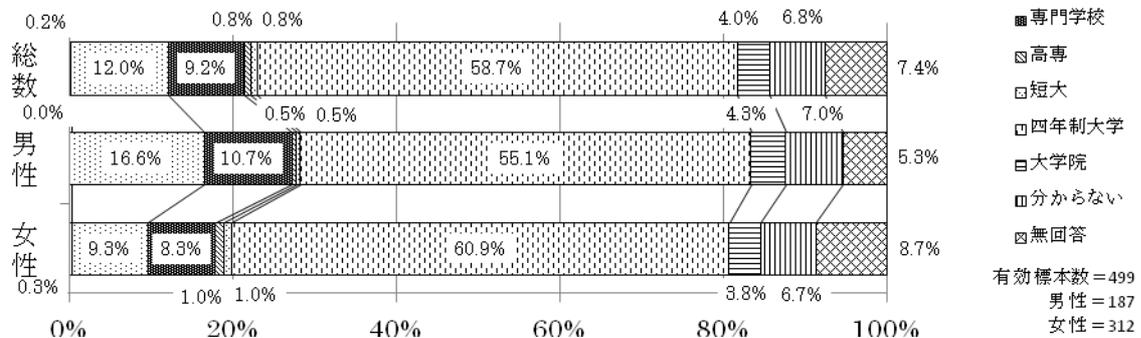
問 1 7 教育の程度【男子】



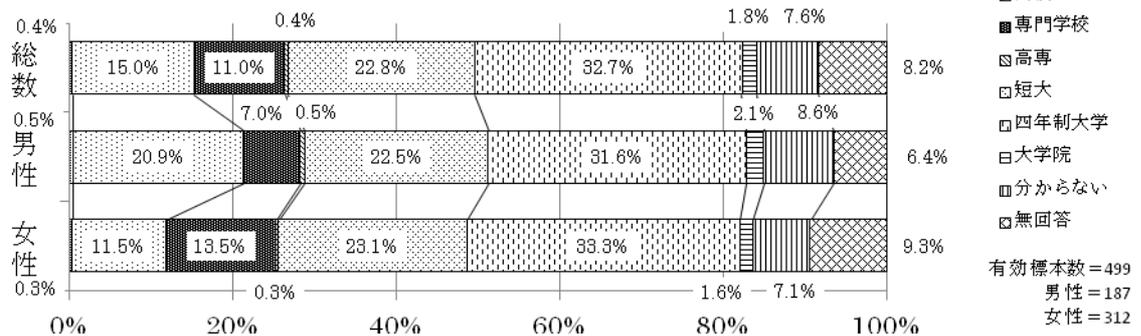
問 1 7 教育の程度【女子】



《平成18年度調査》 教育の程度【男子】



《平成18年度調査》 教育の程度【女子】



## 6. 少子・高齢社会について

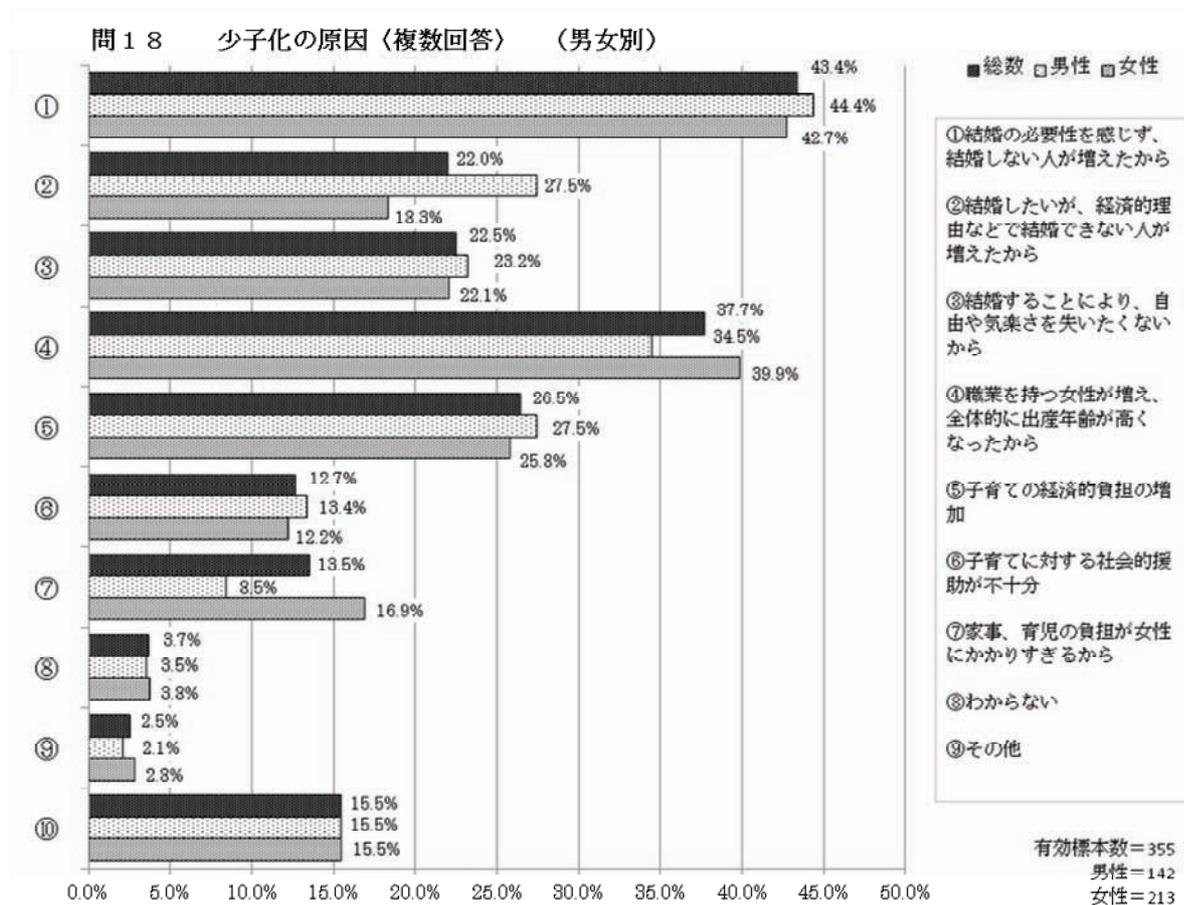
【問18】少子化がますます進んでいますがその原因はどこにあると思いますか。次の中から2つ選んで番号に○をつけてください。

全体でみると、「①結婚の必要性を感じず、結婚しない人が増えたから」と答えた割合が最も高く、43.4%となっている。次いで、「④職業を持つ女性が増え、全体的に出産年齢が高くなったから」が37.7%となっている。

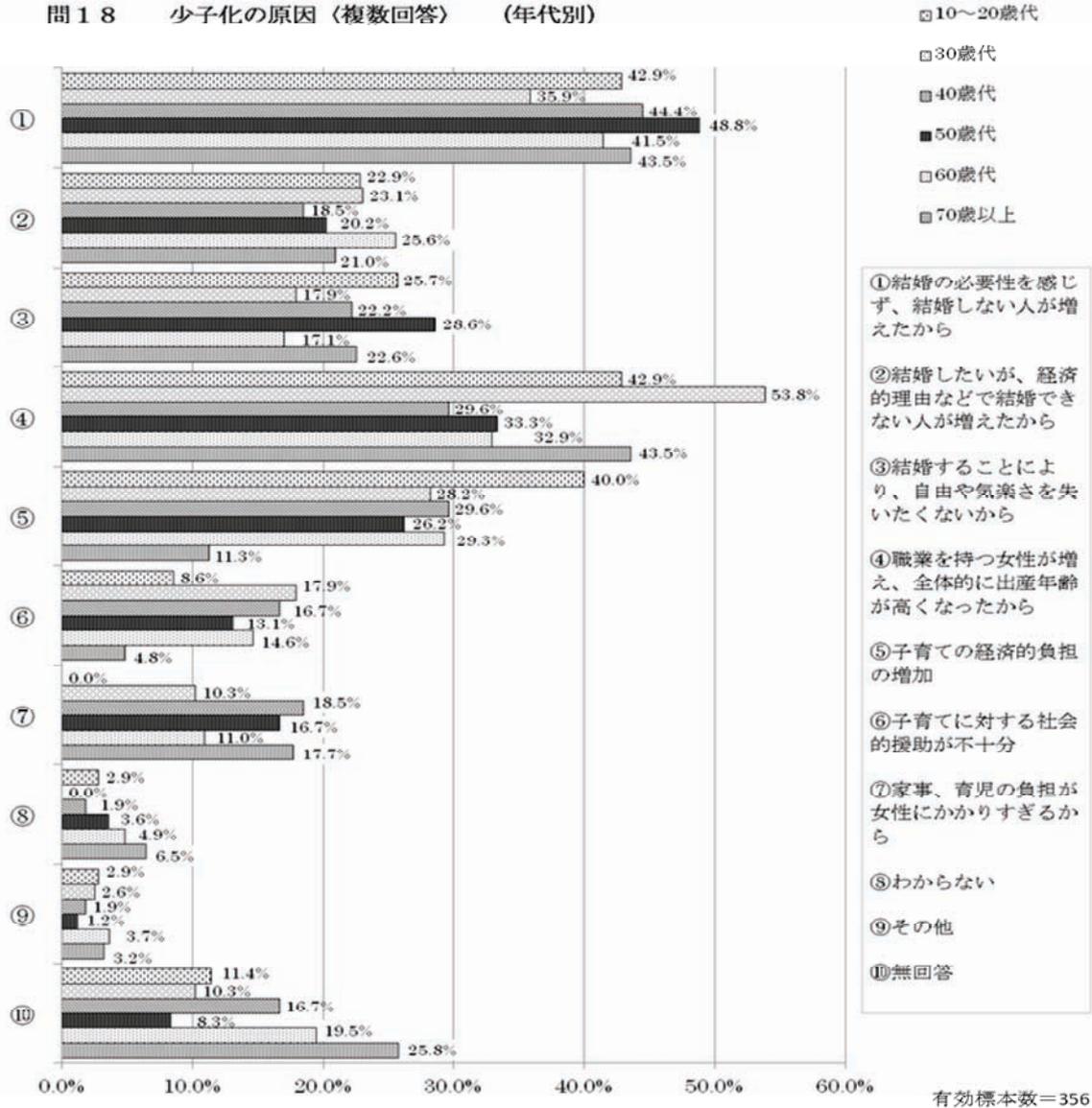
男女別にみると、「②結婚したいが、経済的理由などで結婚できない人が増えたから」と答えた割合は男性は27.5%、女性は18.3%と、男性が9.2%ポイント高くなっている。

また、「⑦家事、育児の負担が女性にかかりすぎているから」と答えた割合については、男性が8.5%、女性は16.9%と、女性の方が8.4ポイント高くなっている。

年代別にみると、30歳代以外の年代で「①結婚の必要性を感じず、結婚しない人が増えたから」と答えた割合が高くなっているが、30歳代については、「④職業を持つ女性が増え、全体的に出産年齢が高くなったから」と答えた割合が最も高くなっている。



問18 少子化の原因（複数回答）（年代別）



【問19】家族等の介護は、従来、女性の負担となりがちでしたが、それについてどう思いますか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

全体でみると、「介護保険サービス（デイサービスなど）を利用し負担を減らす（社会全体で支え合う）」の割合が、57.2%と最も高くなっている。

男女別にみると、「介護保険サービス（デイサービスなど）を利用し負担を減らす（社会全体で支え合う）」と答えた割合は、男性が50.0%、女性が62.0%と、女性の方が12ポイント高い割合となっている。

また、「改善すべきである（家族みんなで介護するなど）」と答えた割合は男性が29.6%、女性は20.7%と、男性の方が8.9ポイント高くなっている。

年代別にみると、年代が高くなるにつれ、「改善すべきである（家族みんなで介護するなど）」の割合が低くなっている。一方、「介護保険サービス（デイサービスなど）を利用し負担を減らす（社会全体で支え合う）」については、年代が高くなるにつれ、その割合は高くなっている。

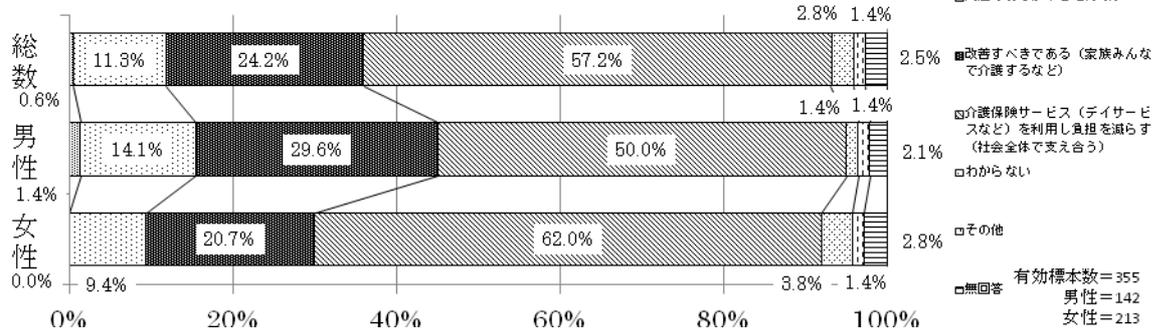
平成18年度調査と比較すると、全体的には「介護保険サービス（デイサービスなど）を利用し負担を減らす（社会全体で支え合う）」（「介護保険制度を利用する」）と答えた割合が25.3ポイント高くなり、「問題であるがやむを得ない」と答えた割合は、13.8ポイント低くなっている。

男女別にみると、男性より女性の方が「改善すべきである」と答えた割合が低くなっている。

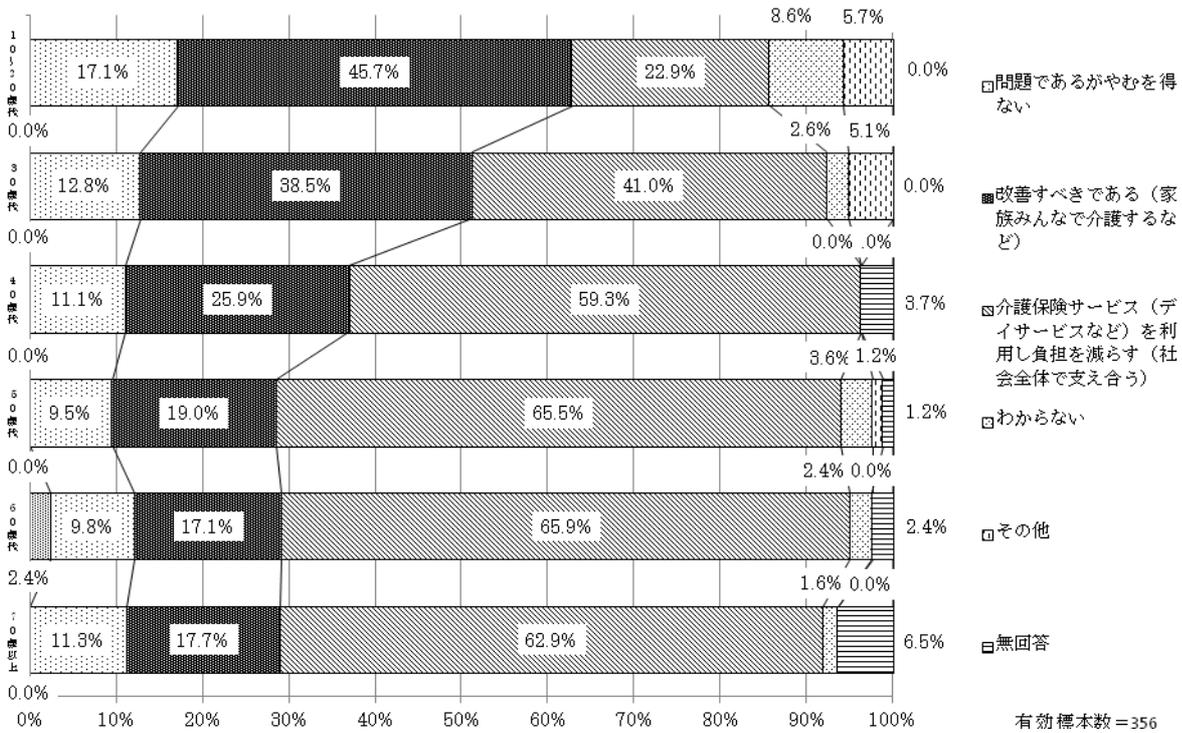
年代別にみると、70歳以上を除いてどの年代でも「改善すべきである（家族みんなで介護するなど）」と答えた割合が低くなり、「介護保険サービス（デイサービスなど）を利用し負担を減らす（社会全体で支え合う）」（「介護保険制度を利用する」）と答えた割合が高くなっている。

また、「問題であるがやむを得ない」については、どの年代も低くなっている。

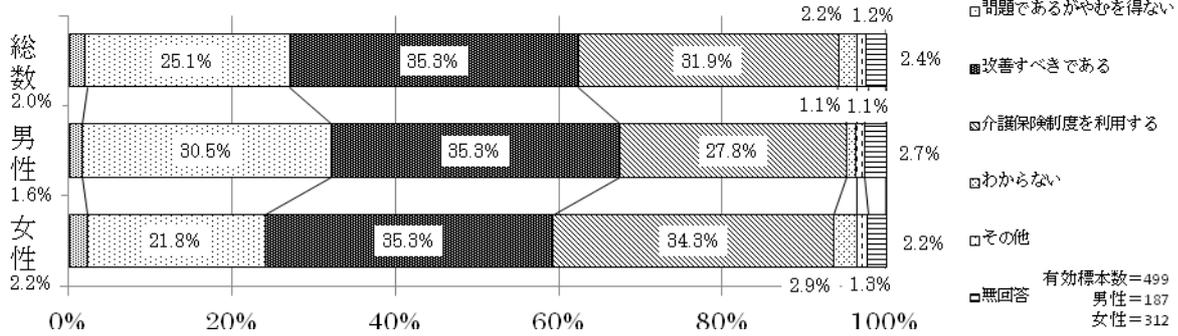
問 19 介護の女性負担（男女別）



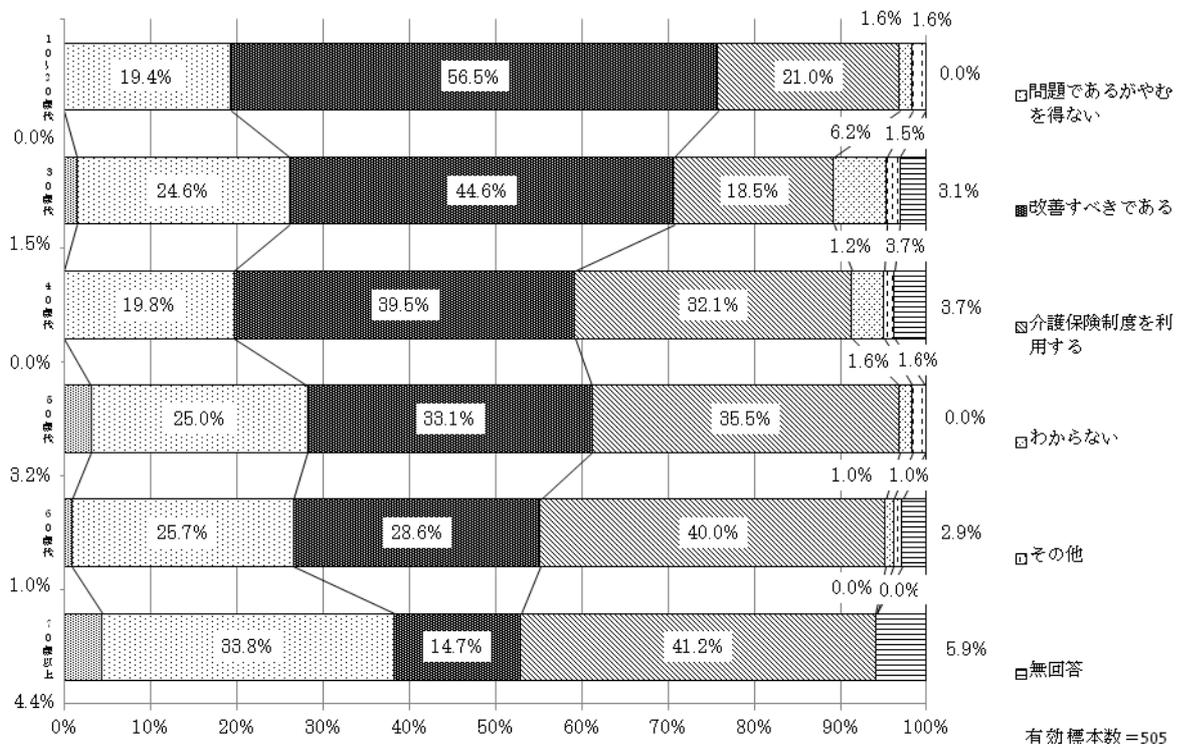
問 19 介護の女性負担（年代別）



《平成18年度調査》 介護の女性負担（男女別）



《平成18年度調査》 介護の女性負担（年代別）



## 7. 社会参加について

【問20】あなたは現在、地域でどのような活動に参加していますか。あてはまるものすべて選んで番号に○をつけてください。

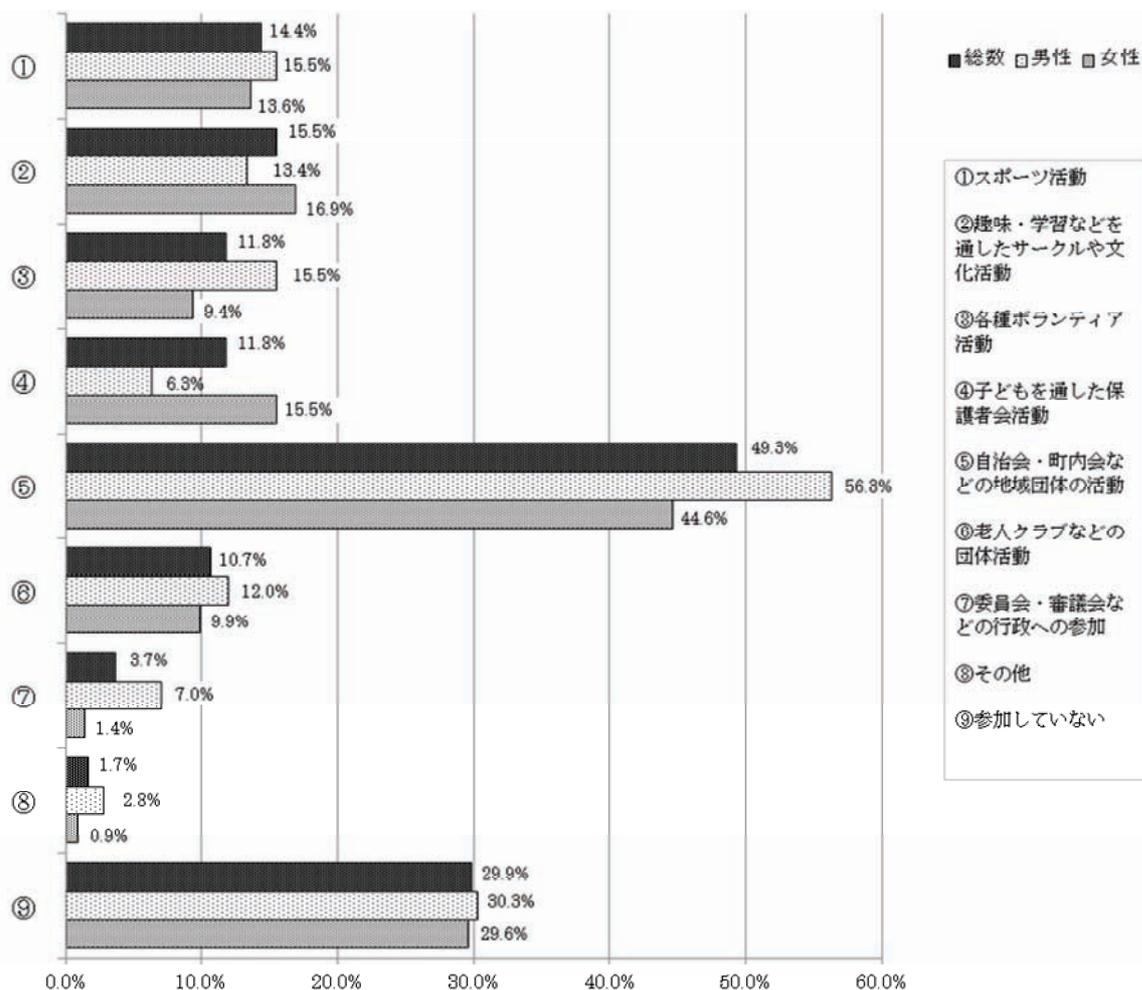
全体で見ると、「⑤自治会・町内会などの地域団体の活動」の割合が、49.3%と最も高くなっている。次いで、「⑨参加していない」が29.9%と、高くなっている。

男女別にみると、「⑤自治会・町内会などの地域団体の活動」と答えた割合は男性が56.3%、女性が44.6%と、男性の方が11.7ポイント高くなっている。また、「④子どもを通した保護者会活動」と答えた割合は男性が6.3%、女性が15.5%と、女性の方が9.2ポイント高くなっている。

年代別にみると、10～20歳代と70歳以上を除いた年代で「⑤自治会・町内会などの地域団体の活動」と答えた割合が最も高くなっている。10～20歳代では「⑨参加していない」と答えた割合が最も高く、70歳以上では「⑥老人クラブなどの団体活動」、「⑨参加していない」と答えた割合が高くなっている。

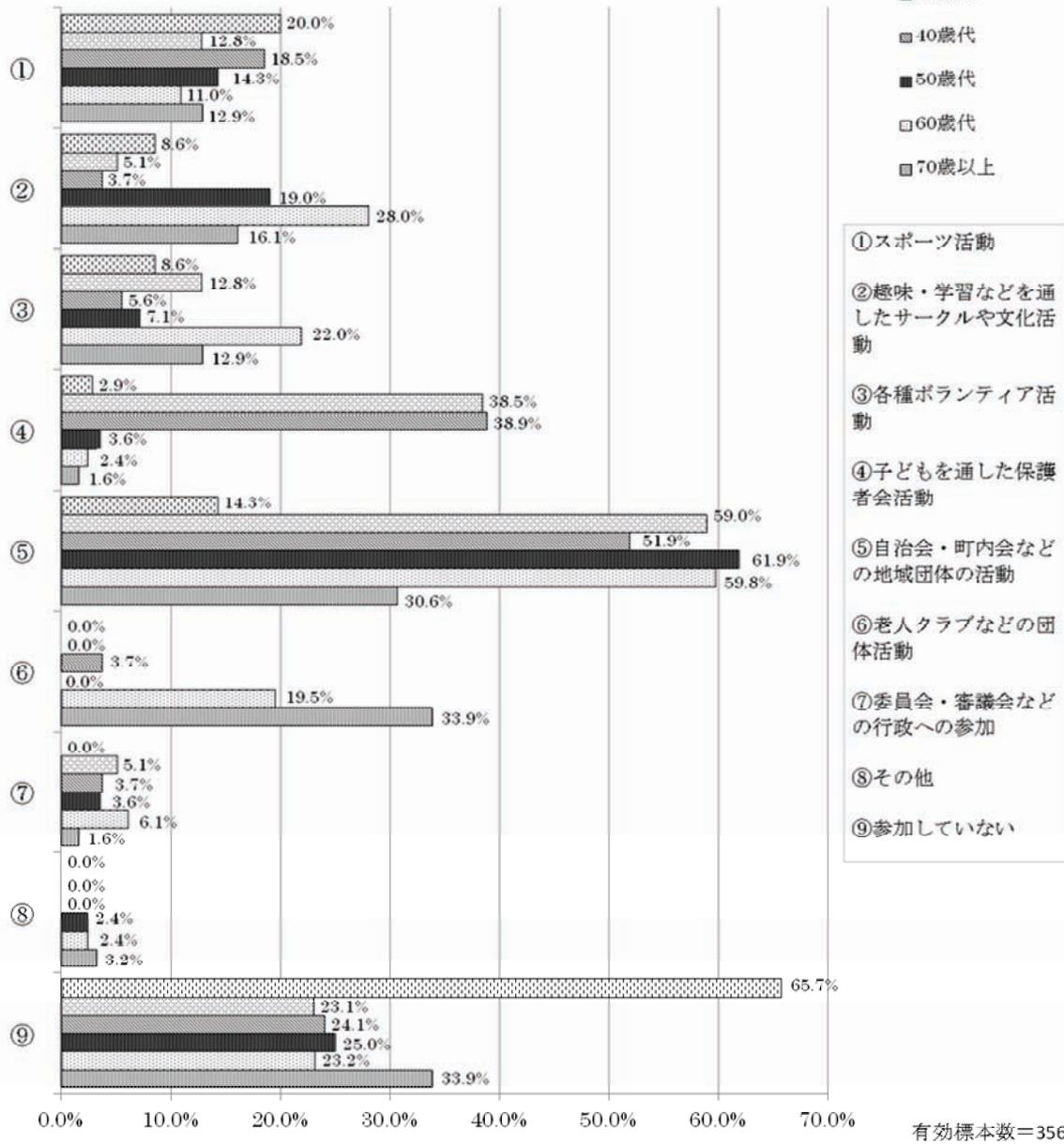
また、「④子どもを通した保護者会活動」と答えた割合については、30歳代と40歳代が高く、「②趣味・学習などを通したサークルや文化活動」と答えた割合については、50歳代から70歳以上までが高くなっている。

問20 地域活動の参加状況（複数回答）（男女別）



有効標本数 = 355  
 男性 = 142  
 女性 = 213

問20 地域活動の参加状況（複数回答）（年代別）



【問 2 1】女性の行政への参加が少しずつ進んでいます。山口市では審議会等の委員 310 名中女性委員は 102 名（32.9%）となっています。あなたはこのことをどう思いますか。次の中から 1 つ選んで番号に○をつけてください。

全体でみると、「性別よりも資質・人柄を優先した方がよい」と答えた割合が 50.4% と最も高くなっている。

男女別にみると、「男女半々まで増えた方がよい」と答えた割合は男性が 21.1%、女性は 12.2% と、男性の方が 8.9 ポイント高くなっている。「今のままでよい」と答えた割合についても、男性が 13.4%、女性は 6.6% と、男性の方が 6.8 ポイント高くなっている。

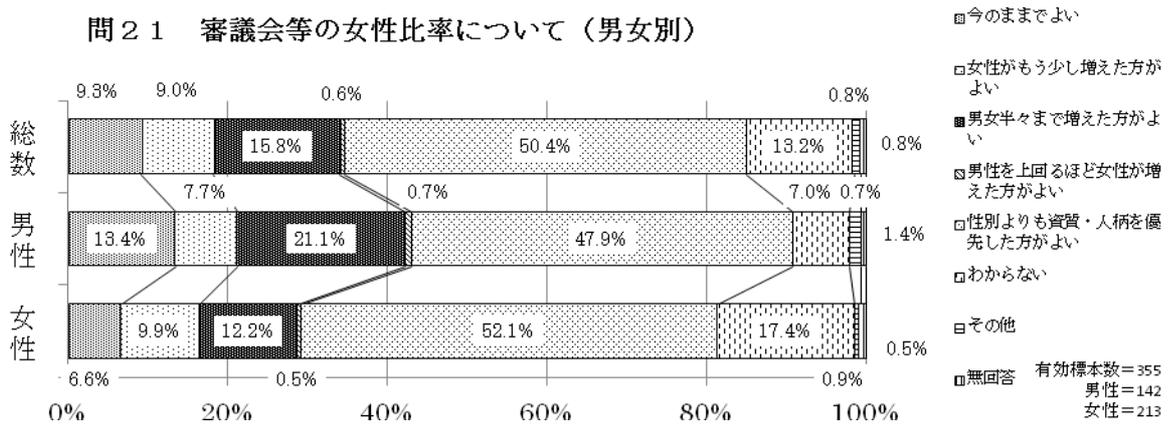
年代別にみると、どの年代も「性別よりも資質・人柄を優先した方がよい」が最も高い割合となっている。

また、「男女半分まで増えた方がよい」と答えた割合が 10～20 歳代から 60 歳代までは 15% 以上あるが、70 歳以上のみ 4.8% と低くなっている。70 歳以上では「今のままでよい」と答えた割合が、他の年代よりも高くなっている。

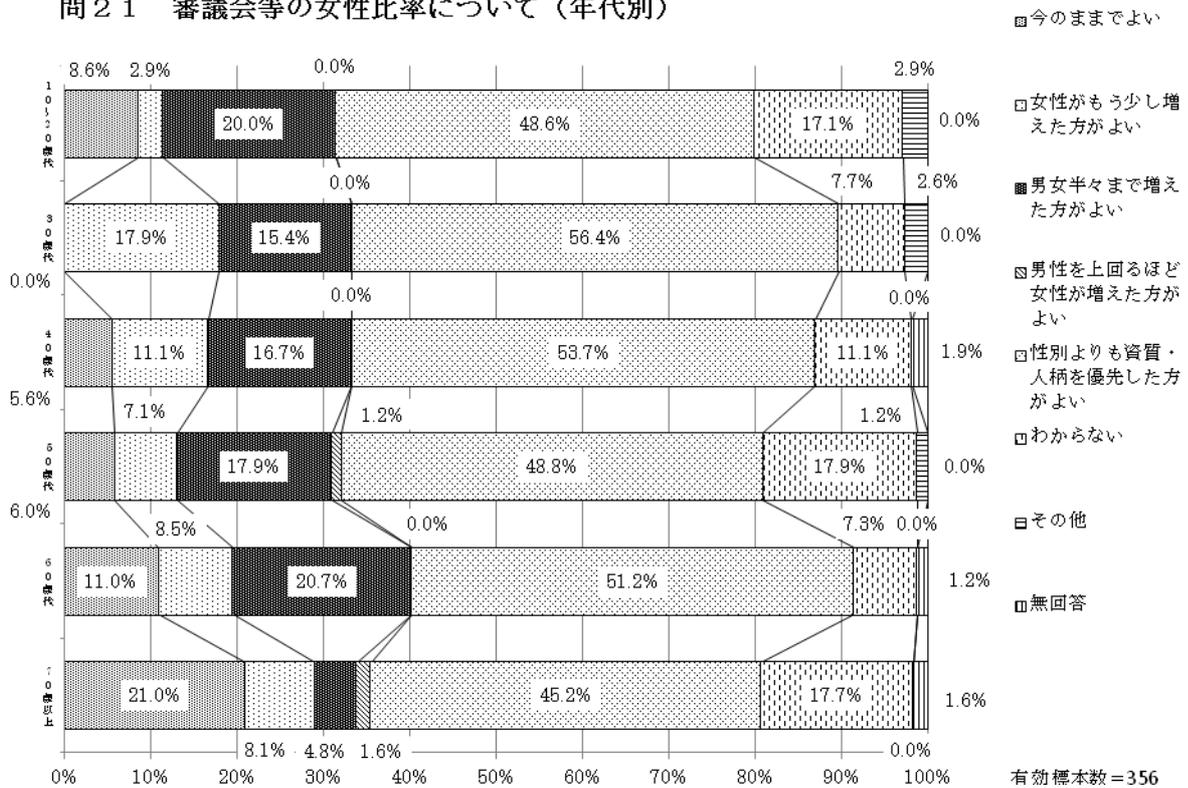
平成 18 年度調査と比較すると、「女性がもう少し増えた方がよい」と答えた割合は、全体では 23.1 ポイントとかなり低くなっており、男女別にみても男女とも、年代別にみてもどの年代とも低くなっている。

また、「男女半々まで増えた方がよい」と答えた割合は全体では 9.8 ポイント高くなっており、男女別にみると男女とも、年代別にみると 10～20 歳代から 60 歳代までで高くなっている。

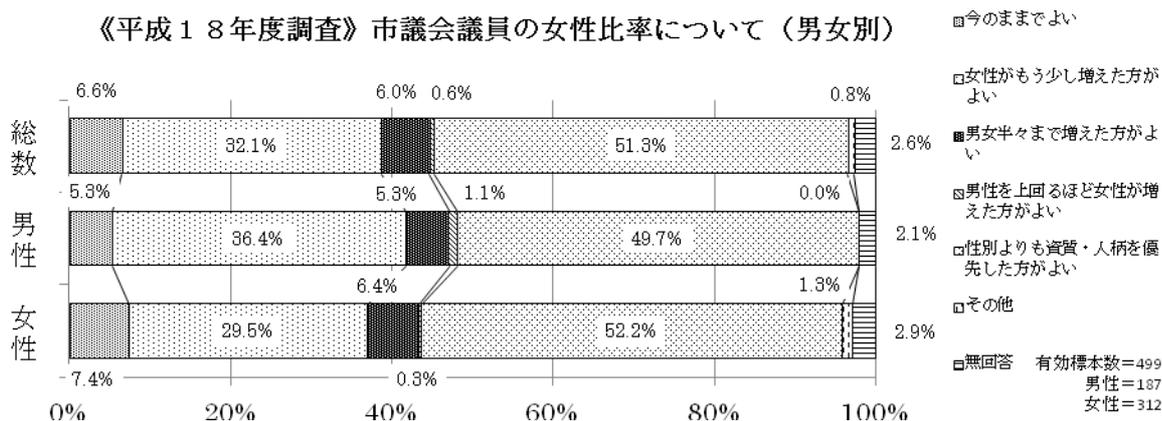
### 問 2 1 審議会等の女性比率について（男女別）



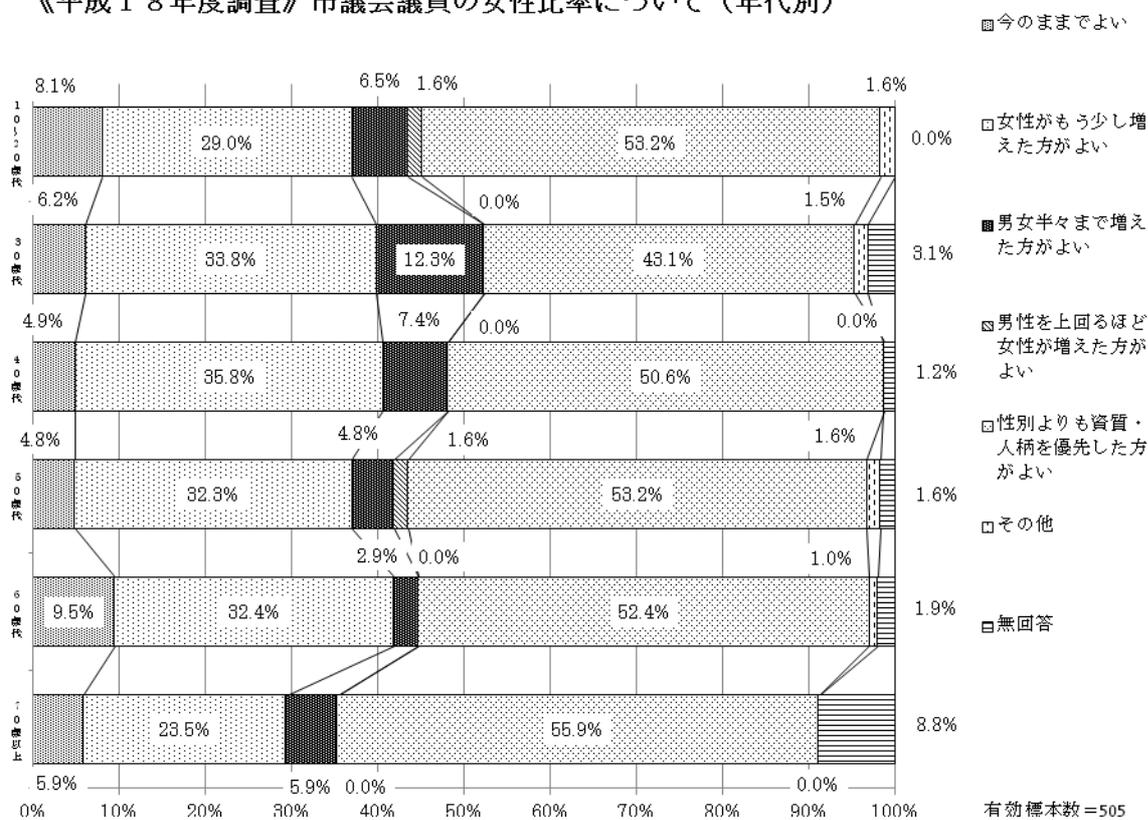
### 問 2 1 審議会等の女性比率について（年代別）



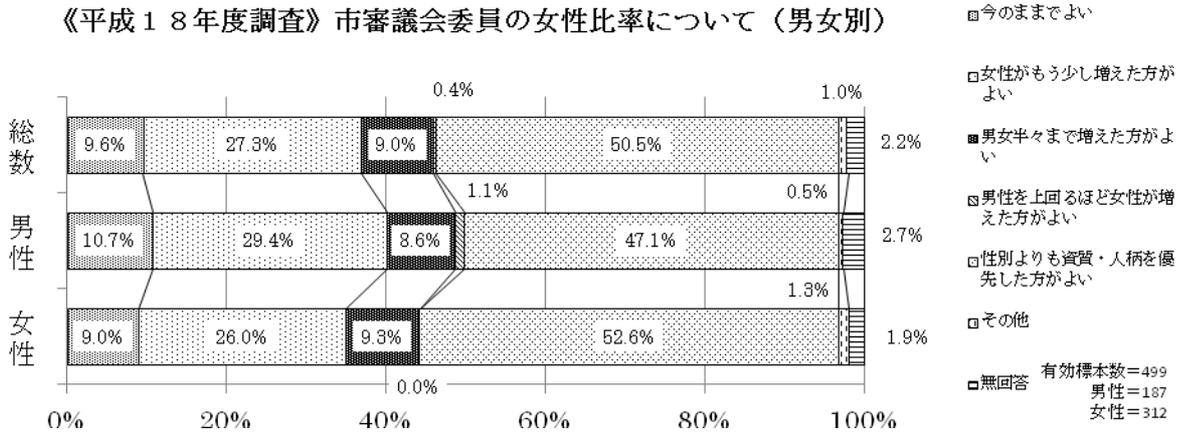
《平成18年度調査》市議会議員の女性比率について（男女別）



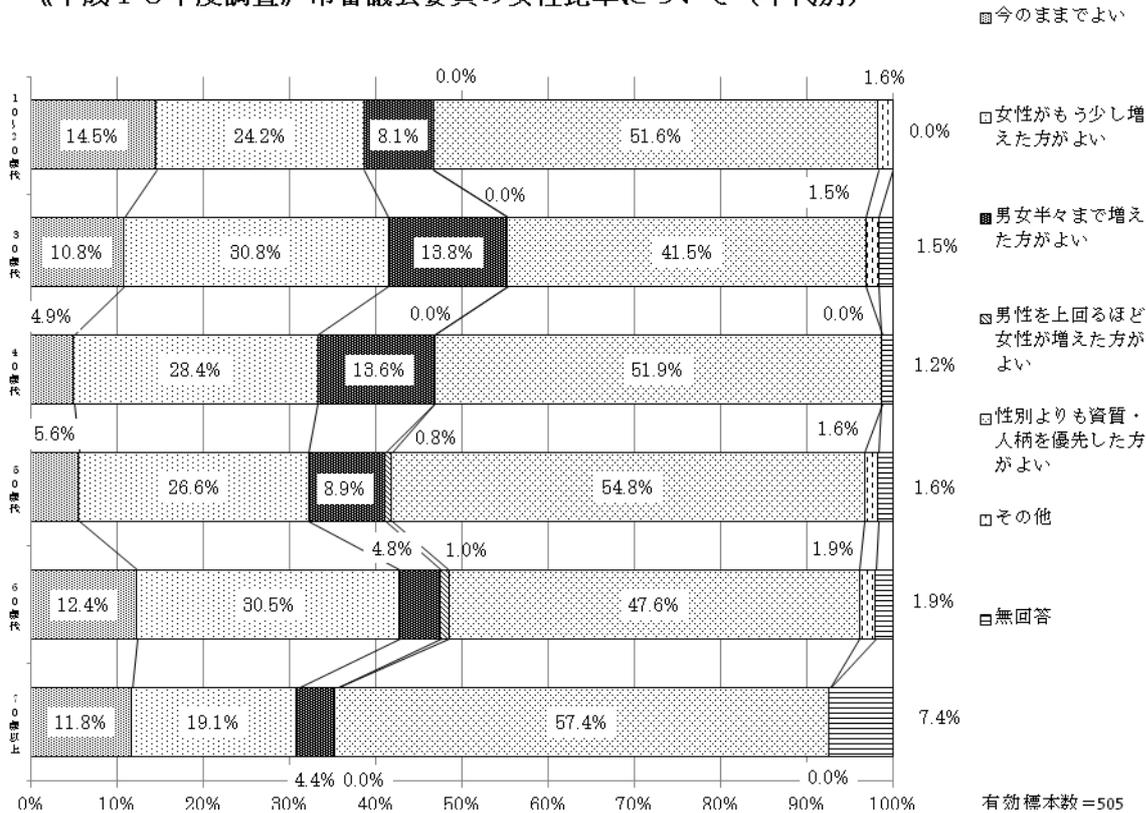
《平成18年度調査》市議会議員の女性比率について（年代別）



《平成18年度調査》市審議会委員の女性比率について（男女別）



《平成18年度調査》市審議会委員の女性比率について（年代別）



【問22】今後、行政より審議会委員等の公募がありましたら、あなたは応募しますか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

全体で見ると、「応募しない」と答えた割合が、54.6%と最も高くなっている。次いで、「わからない」が高くなっている。

男女別にみると、「応募しない」と答えた割合は男性が46.5%、女性が60.1%と、女性の方が13.6ポイント高くなっている。

また、「応募する」と答えた割合は男性が6.3%、女性は3.8%と、男性の方が2.5ポイント高くなっている。

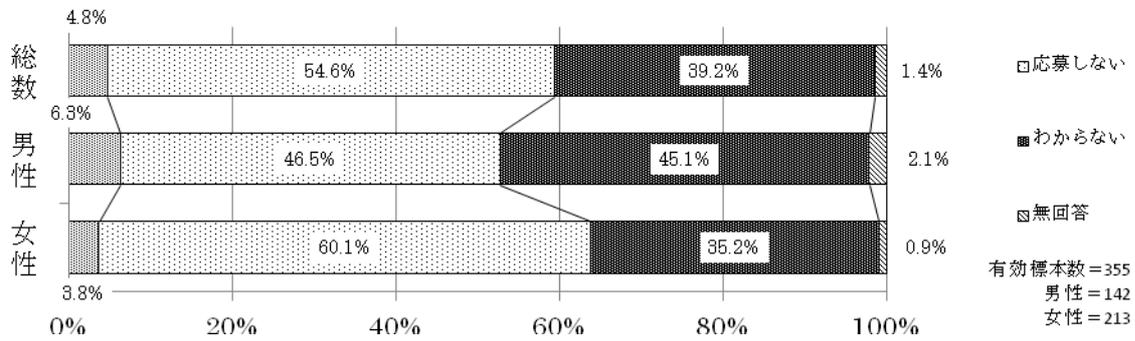
年代別にみると、60歳代以外の年代で「応募しない」と答えた割合が最も高く、30歳代では「応募する」と答えた割合が0%となっている。

平成18年度調査と比較すると、全体的には「応募しない」と答えた割合が4.5ポイント低くなっており、「応募する」と答えた割合も3ポイント低くなっている。

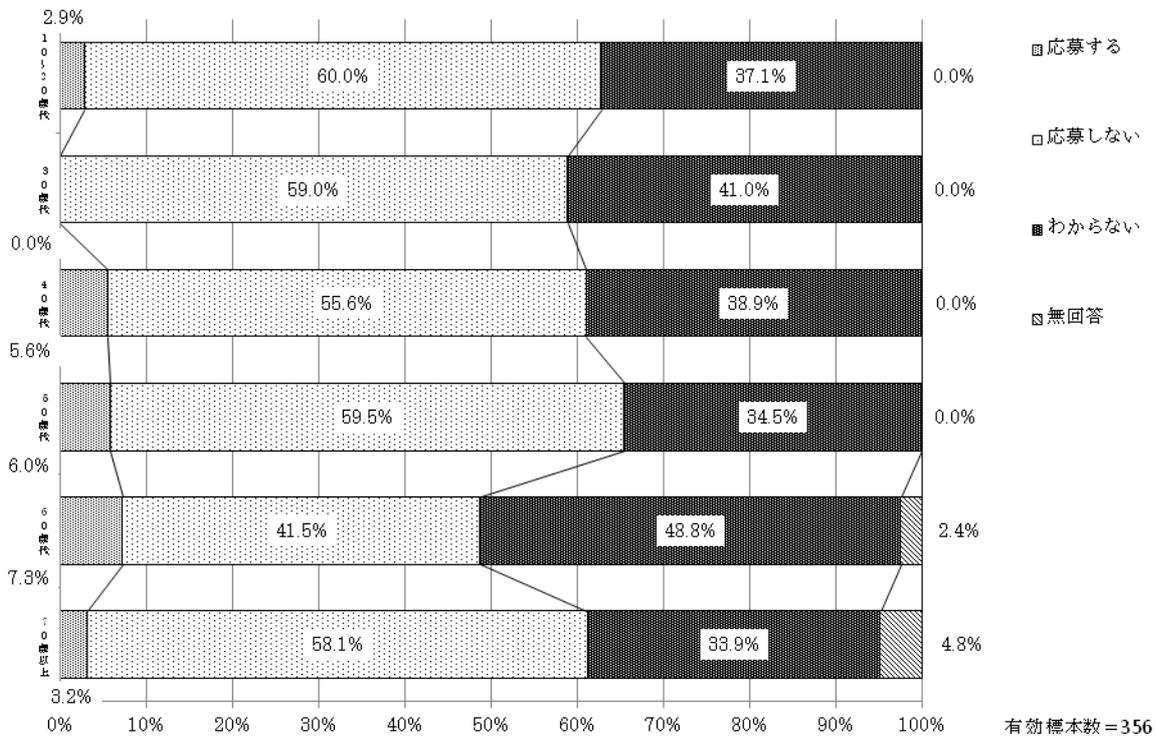
男女別にみると、女性より男性の方が「応募する」と答えた割合は高いが、平成18年度調査時よりは4.9ポイント低くなっている。

年代別にみると、40歳代以外の年代で「応募する」と答えた割合が低くなっている。また、「わからない」と答えた割合については、30歳代以外の年代で高くなっている。

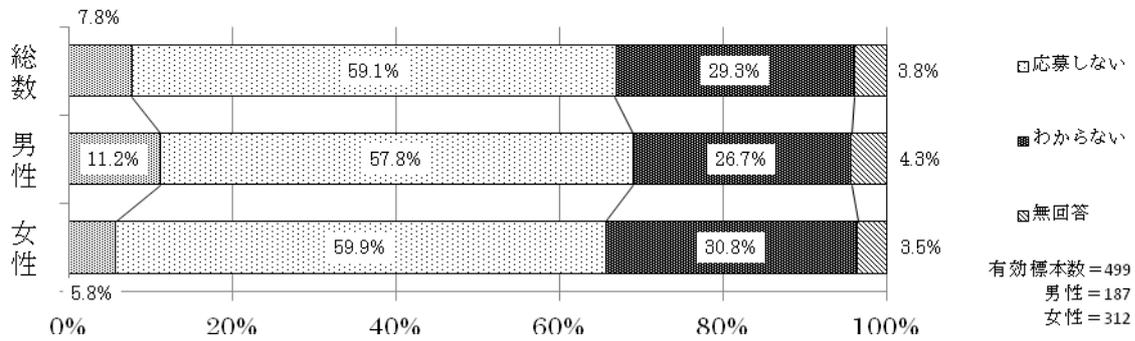
問 2 2 公募に対する応募意志（男女別）



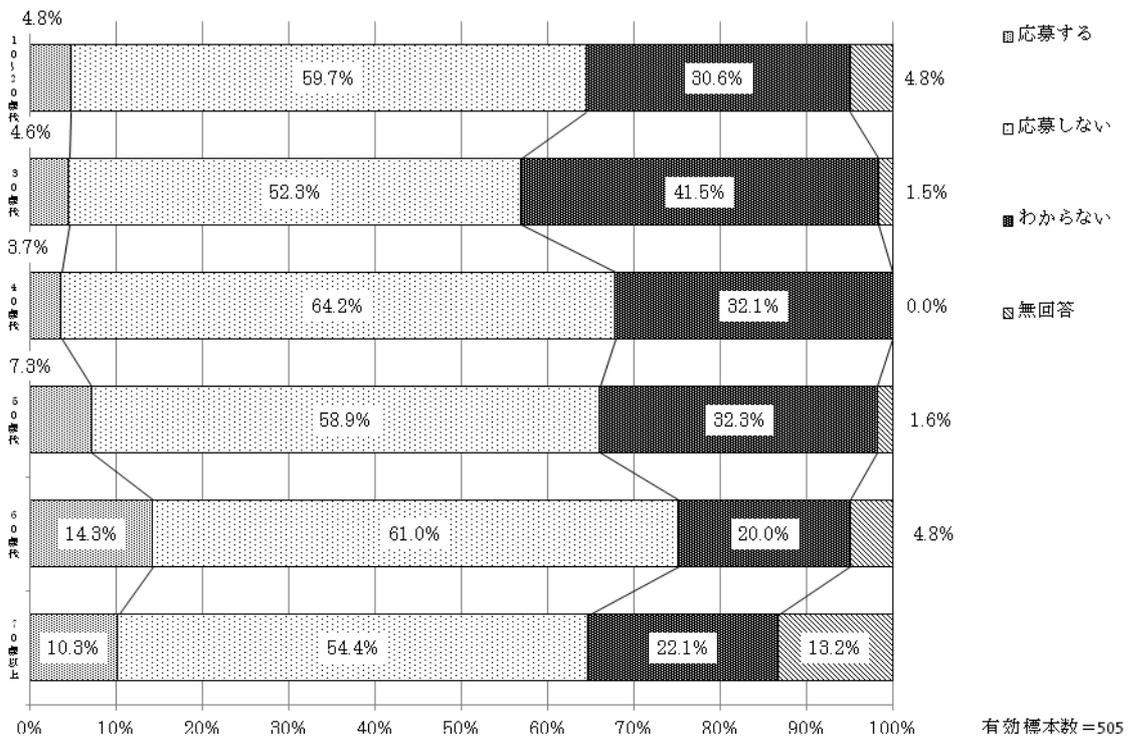
問 2 2 公募に対する応募意志（年代別）



《平成18年度調査》 公募に対する応募意志（男女別）



《平成18年度調査》 公募に対する応募意志（年代別）



【問23】問22で「応募しない」又は「わからない」と答えた方におたずねします。その理由を、次の中のあてはまるものすべて選んで番号に○をつけてください。

全体でみると、「⑤自信がない」と答えた割合が39.6%と最も高く、次いで「①仕事が忙しい」と答えた割合が32.1%となっている。

男女別にみると、「①仕事が忙しい」と答えた割合は男性が40.0%、女性は27.1%と、男性の方が12.9ポイント高くなっている。一方「②家事・育児が忙しい」と答えた割合は男性が2.3%、女性が20.2%と、女性の方が17.9ポイント高くなっている。

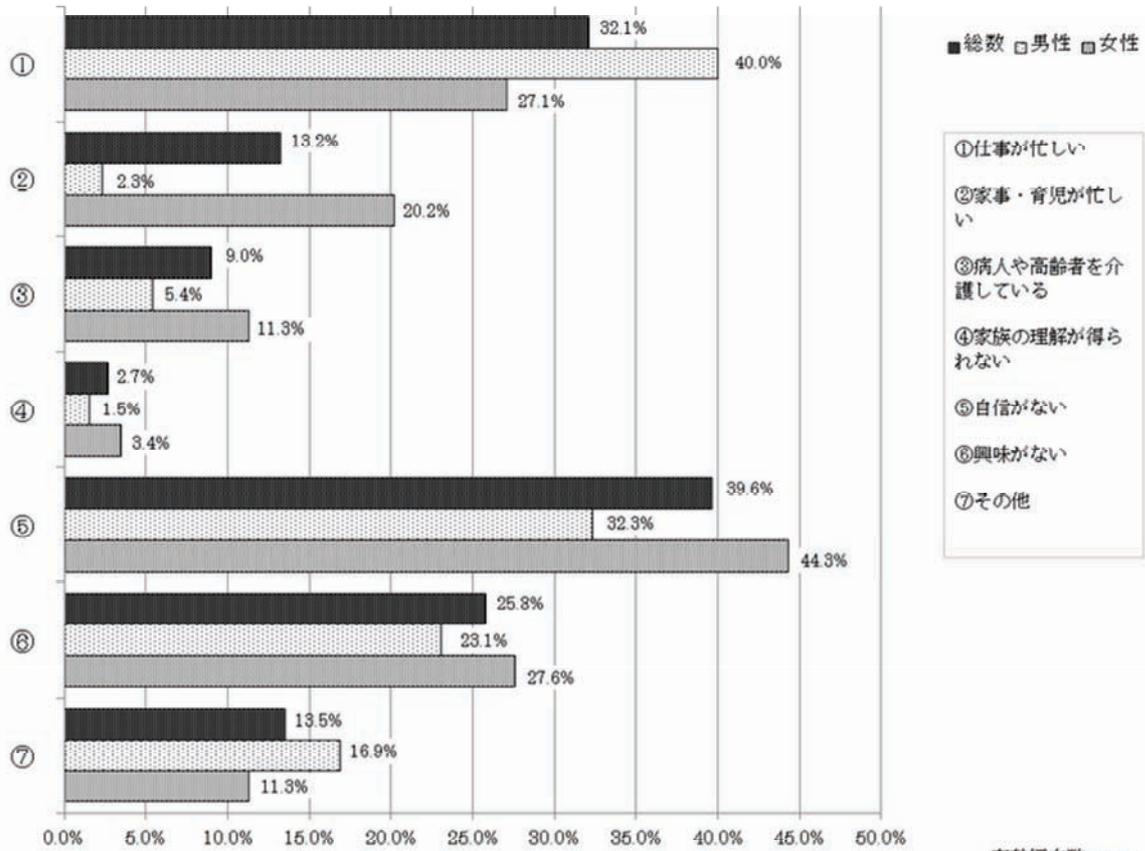
また、「⑤自信がない」と答えた割合は男性が32.3%、女性が44.3%と、女性の方が12ポイント高くなっている。

年代別にみると、30歳代から50歳代まででは、「①仕事が忙しい」と答えた割合が高く、60歳代から70歳代まででは「⑤自信がない」と答えた割合が高くなっている。また、50歳代では「③病人や高齢者を介護している」と答えた割合が、他の年代より高くなっている。

平成18年度調査と比較しても、男女別でみると、男性では「①仕事が忙しい」と答える割合が最も高く、女性は「⑤自信がない」と答える割合が最も高かったことは変わらない。

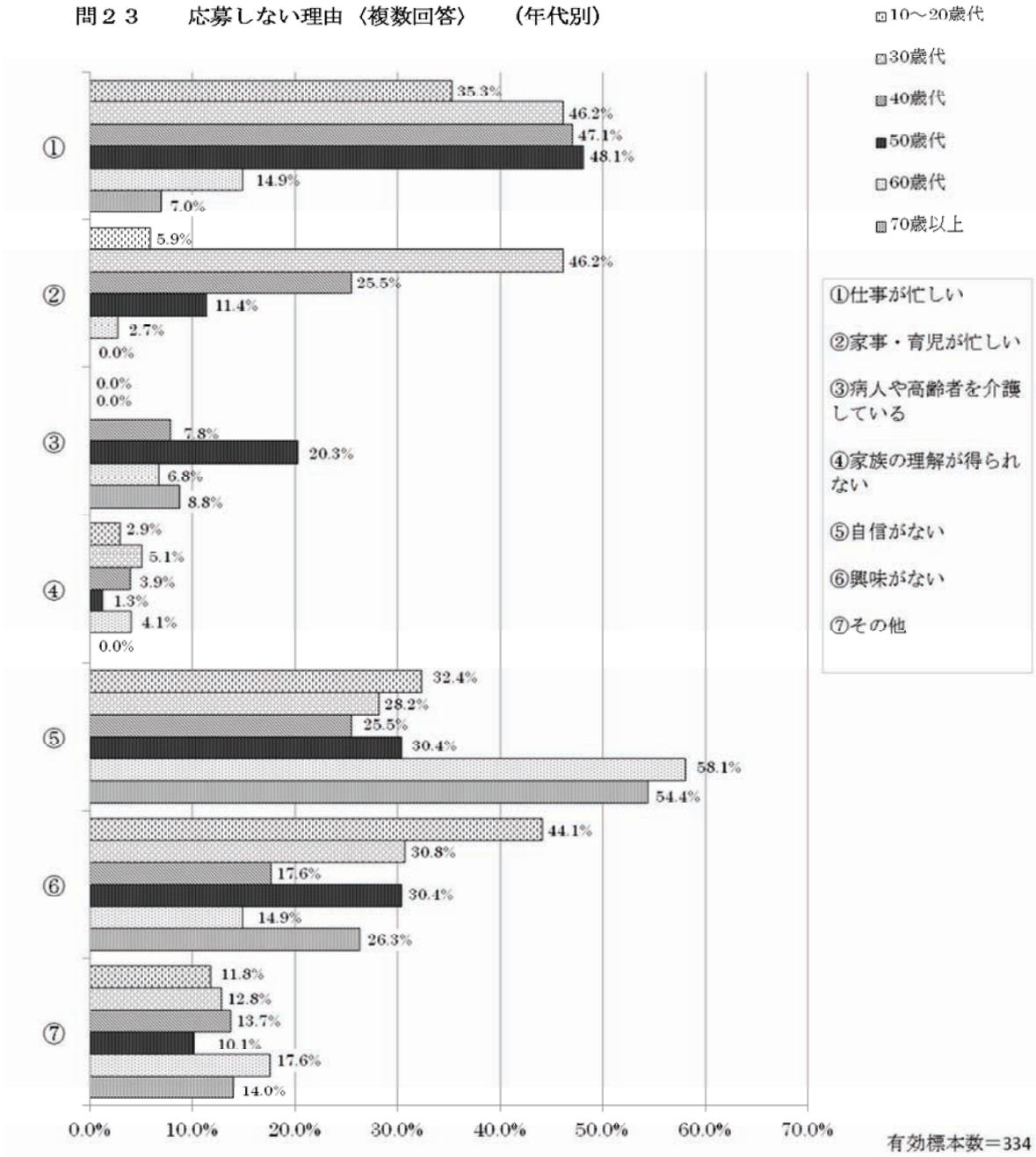
年代別でみると、10～20歳代から50歳代までで「⑤自信がない」と答えた割合は低くなっている。

問23 応募しない理由〈複数回答〉 (男女別)

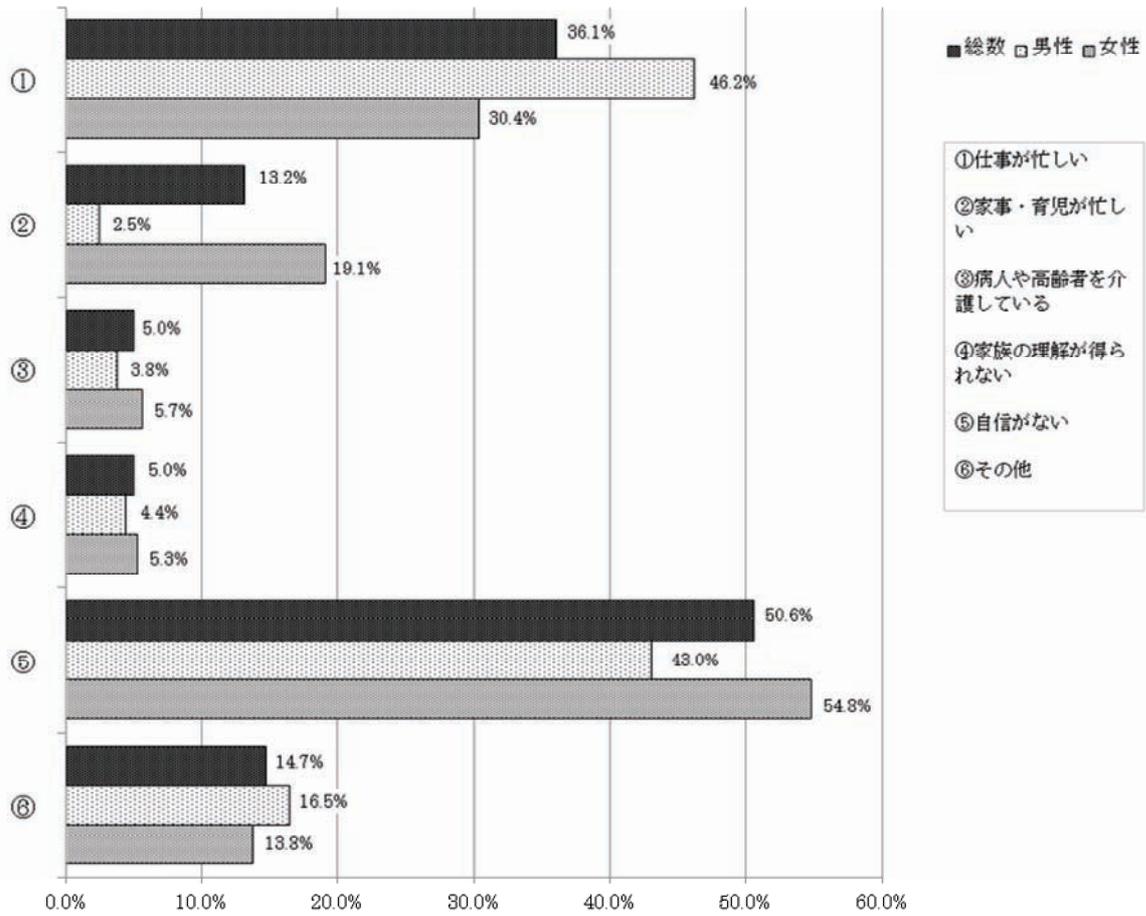


有効標本数=333  
 男性=130  
 女性=203

問23 応募しない理由（複数回答）（年代別）

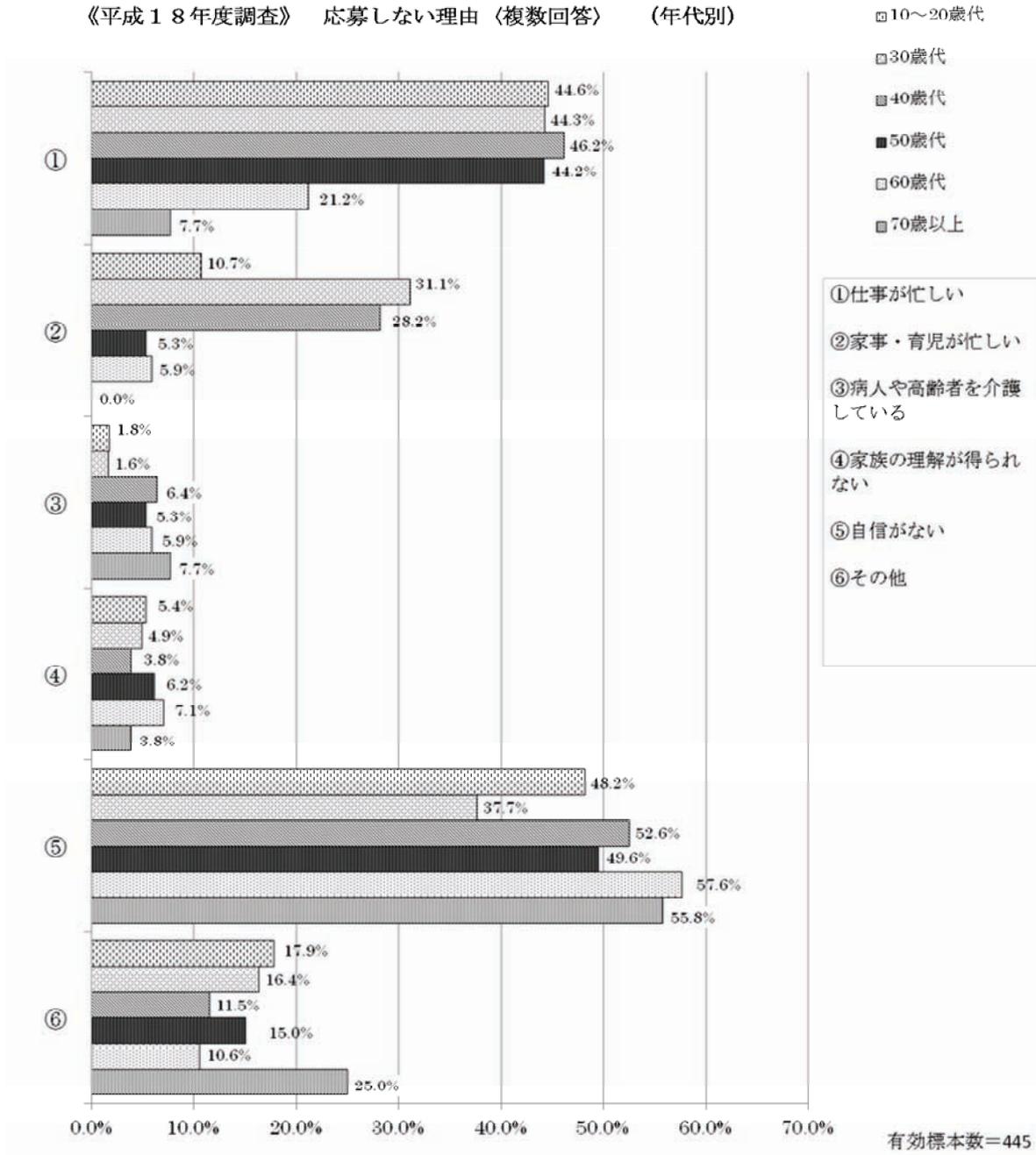


《平成18年度調査》 応募しない理由〈複数回答〉 (男女別)



有効標本数=441  
 男性=158  
 女性=283

《平成18年度調査》 応募しない理由〈複数回答〉 (年代別)



## 8. 今後取り組むべきことについて

【問24】男女共同参画社会の実現のために、行政の取り組みとして重要な施策は何だと思えますか。次の中から3つ選んで番号に○をつけてください。

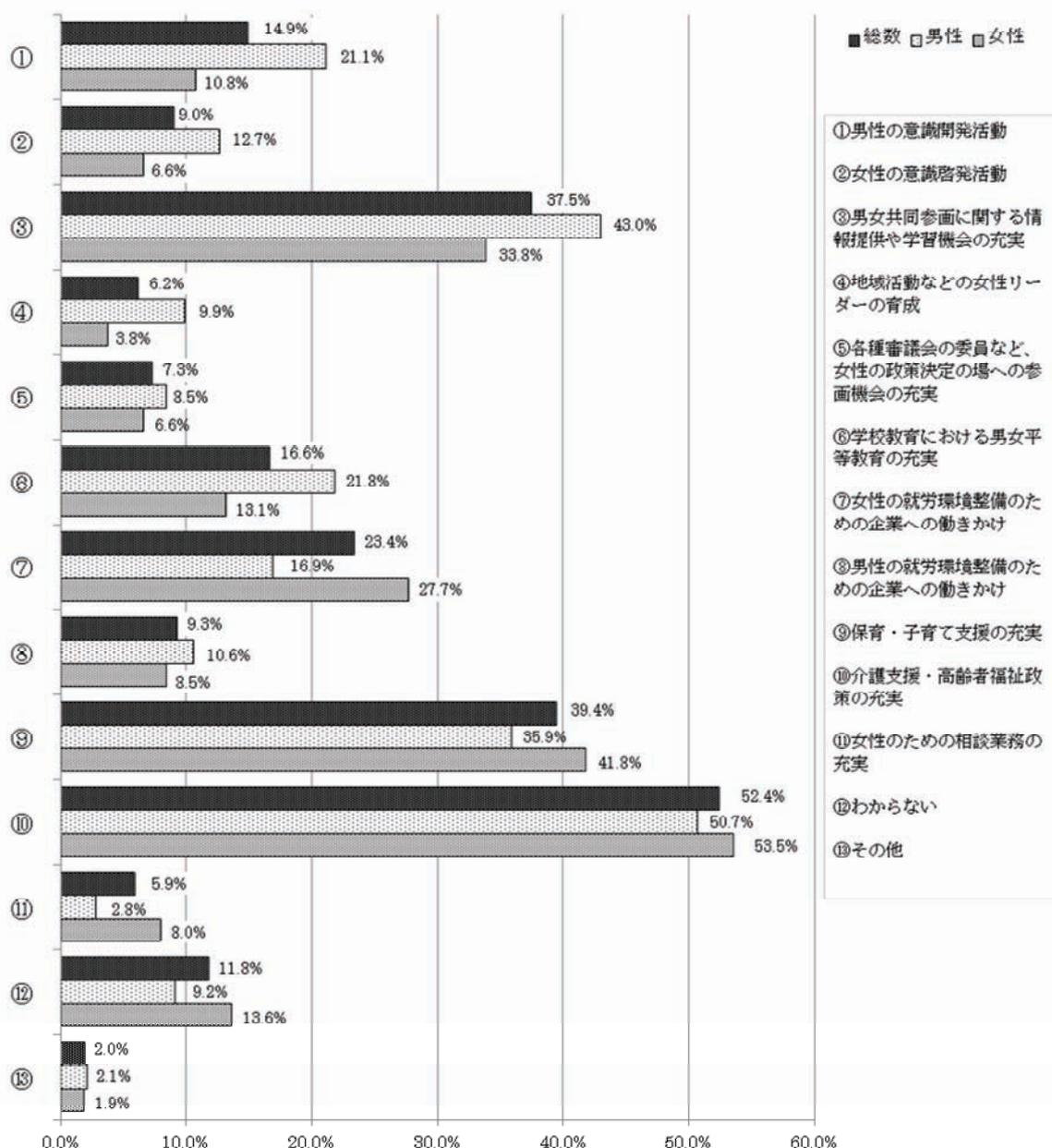
全体でみると、「⑩介護支援・高齢者福祉政策の充実」と答えた割合が52.4%と最も高くなっている。次いで「⑨保育・子育て支援の充実」と答えた割合が39.4%と高い割合となっている。

男女別にみると、「①男性の意識啓発活動」と答えた割合が男性は21.1%、女性は10.8%と、男性の方が10.3ポイント高くなっている。また、「③男女共同参画に関する情報提供や学習機会の充実」と答えた割合についても、男性が43.0%、女性が33.8%と、男性の方が9.2ポイント高くなっている。

一方、「⑦女性の就労環境整備のための企業への働きかけ」と答えた割合は男性が16.9%、女性が27.7%と、女性の方が10.8ポイント高くなっている。

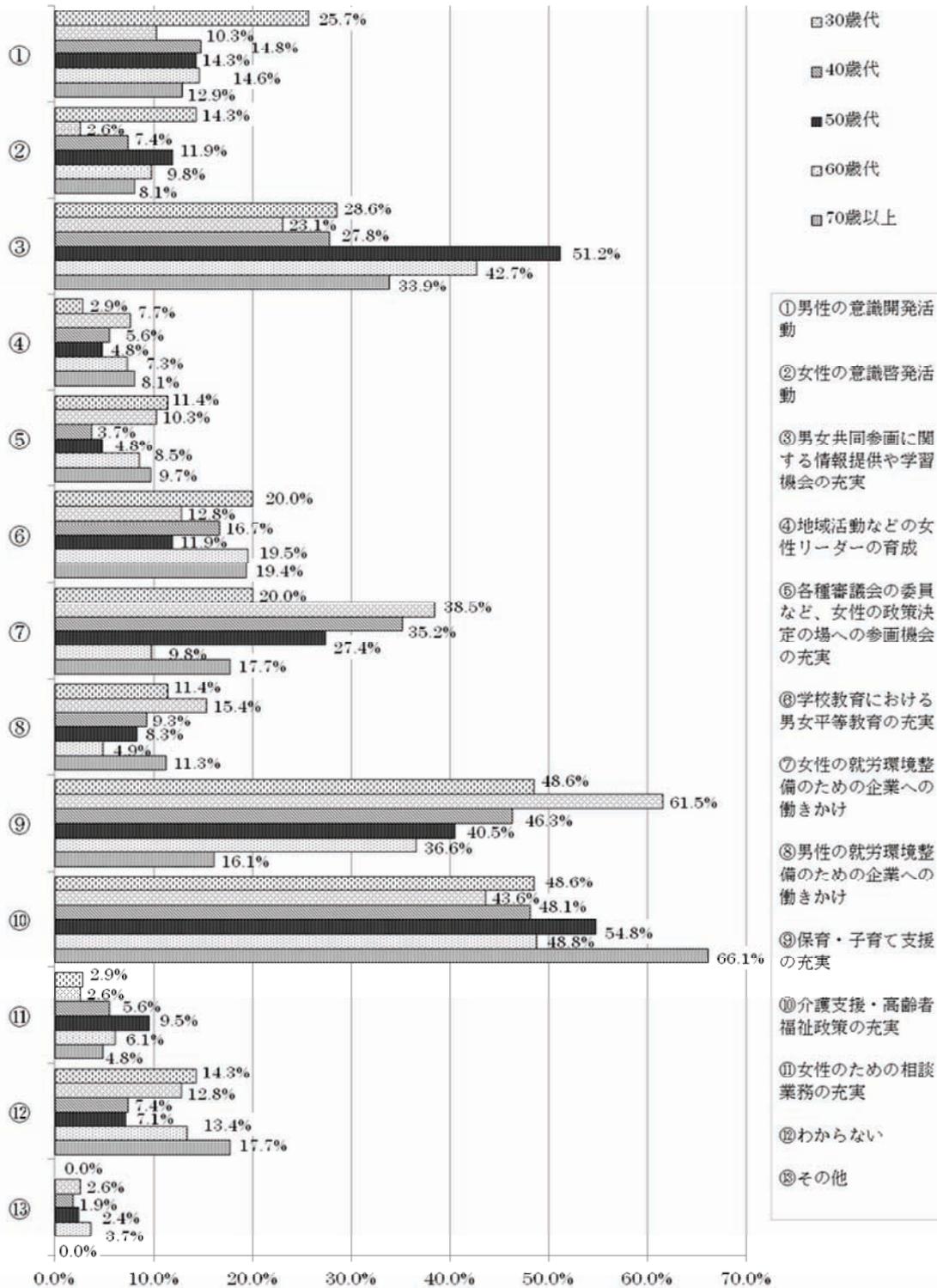
年代別にみると、40歳代から70歳以上までで「⑩介護支援・高齢者福祉政策の充実」と答えた割合が最も高く、30歳代では「⑨保育・子育て支援の充実」と答えた割合が最も高くなっている。なお、10～20歳代については「⑨保育・子育て支援の充実」、「⑩介護支援・高齢者福祉政策の充実」と答えた割合が両方とも48.6%で最も高かった。

今後の重要施策について〈複数回答〉 (男女別)



有効標本数 = 355  
 男性 = 142  
 女性 = 213

問24 今後の重要施策について（複数回答）（年代別）



有効標本数=356

## 9. 自由意見

【原文をそのまま掲載】

### 《男女共同参画社会に関すること》

- 少子化の原因は、女が金を持ったからだと思う。自分の収入より上でないと結婚しないし、男も収入がないため、ためらってしまう。  
昔は「仕事は男、家庭は女があったが、本当はそれが理想だと思う。  
男でしかできない仕事は多いし、女は母として女でしかできないこともある。(母乳等)  
現在の社会は、女が仕事(楽な)しているかぎり、子どもを産むことが遅れていくと確信しています。  
男女共同参画社会が、少子化に少なくとも影響しています。  
自己中心な意見ですみません。(30歳代、男性)
- すでに「男女共同参画社会」となっていると思いますが。(40歳代、男性)
- 男だから女だからと言うのではなく、それぞれの環境、立場、男女の特性をふまえて、それぞれが制約を受けず、自分の考えで生き生きと活動し、生きることのできる社会を作ってほしい。(40歳代、女性)
- 男女共同参画を全く知らない。このアンケートがこなかったら知らないままであったと思う。  
いろいろな方法で取り組んでいるのかもしれませんが、このことで無駄な税金を使ったことにならないよう、男女関係なく、やるならしっかりやってほしい。(40歳代、男性)
- 取り組みや視点はいいと思うが「男・女」ということばかりに、目をやりすぎると外部は冷めて見てしまう。(40歳代、男性)
- まだまだ男女共同参画の内容を知らない人が多くいるので、もっとアピールしてほしい。(50歳代、男性)
- なぜこのプランに取り組んでいるのか、最終的にどんな結果を見通し、どうあるべきなのか分からず、あまりにも具体性に欠けていると思います。誰にでも分かる説明がなされていないため、このアンケートも答えが、ほかごとすぎていると思われます。  
現在において、不平等な男女関係にある山口市なのではないでしょうか？活動が希薄に感じます。活動内容の紹介が必要です。(50歳代、女性)

- 1. 男女共同参画社会をどの様に実施するのですか？  
（いつ、どこで、何を）
2. 平成19年から平成22年までの成果は？ （60歳代、男性）
- 私を含め、男女共同参画はまだまだ身近でなく、一部の方達だけの企画のように感じます。 （60歳代、女性）
- 戦後の米国型民主主義は、かつての男尊女卑の傾向が充分ではないが、少なくなったことは喜ばしい。  
しかし、男女同権の権利主張ばかりが先行し、本来日本人としての女性の女らしさ、男性としての凛とした精神性及び品格は、かつての日本人の方が、はるかに優れていると思う。そのことが男女共同参画社会の根底になくってはならない。  
今の日本人、もう一度初心に戻り、その自覚が必要。  
少子高齢化社会は求めるばかりでなく、与える心が優先である。生きていることへの義務感をもっと持つべきである。 （60歳代、男性）
- ちょっと出ると「女のくせに」、ちょっと失敗すると「やっぱり女は」と言われて、いつも悔しい思いをしています。何も言わず、何もしない方が無難かと思うこともしばしば。岐阜県だからか、とも思ったり。  
これまで、ことあるごとに「男に生まれたかった」と思いながら生きてきたように思います。  
「男尊女卑」といわれて久しいけれど、未だに男性優位を実感します。死ぬまでに「人に生まれてよかった」と、思える時のくることを願っています。 （60歳代、女性）
- 男女共同参画社会の活動において、施策等に参加する場合において、強制的になってはいけないと思います。自由に参加できることが重要だと思います。 （60歳代、男性）
- アンケート、参画機会など家庭にしながら意見が言える、参画できる方法は、外へ出て行動が難しい私どもには、必要なことだと思います。  
初めて公の部分に触れさせていただき、考える機会をいただいた気がします。  
全員が社会の一員として考え、行動ができれば理想に近づく気がします。男性と女性、根本的に体の違いや、できる事もできない事もあるからこそ、両性があると思います。すべてにおいて同じ事をするのではなく、役割分担も必要かと思っています。 （60歳代、女性）
- 男女共同参画を主張しすぎるのもどうかと思います。昔からいう、男らしさ、女らしさも捨てがたい言葉です。  
（両者の使い分け、バランスが大切ですね） （70歳以上、女性）

## 《意識改革について》

- いわゆる「男尊女卑」や「フェミニスト」的考えがなくなる限り、難しいことのような気がします。(メディアやインターネット上では、どちらかの権利を優先しなくてはならない、といった流れになっている。)  
(20歳代、男性)
- 男性(夫)への育児参加意識を啓発するような活動をしてほしい。  
(30歳代、女性)
- 山口市は田舎なのでなかなか男女平等の意識が社会全体になじまないと思います。(特に高齢者)  
基本目標の①と②は、市が頑張っても無理だと思います。③は、これから市民が向き合って、頑張ればできることだと思いますが、参加する人を集めるのも大変だと思います。何かをやらなければ未来はないので、頑張ってください。応援します。  
(40歳代、女性)
- 私たちの年代は、男女平等は無理だと思います。  
家事にしても介護にしても、主人は「女がやるのが当たり前」と思っているし、私も自分でやった方が早いので頼まないし、頼んでもやってくれない。祖父母の手前もあり、余計に無理です。  
(50歳代、女性)
- 山口市は比較的、古い体質があり、男女共同参画の意識の面で低いところがみられる。いっそうの啓発活動が必要だと思います。(60歳代、男性)
- 男女共同参画に関する知識を持っている人たちの会合では、女性は自由に発言できても、田舎の昔ながらの意識を持っている人たちの会合では、自由に発言できる雰囲気ではありません。  
男女の意識改革が必要だと思います。  
(60歳代、女性)

## 《就職・職場環境について》

- 法律などが整備されても、職に就く以上、企業の理解と協力が必要だと思います。  
(20歳代、男性)
- 育児をしながら泊まり勤務を命ぜられ、泊まりの免除申請をしようとする「みんな同じように働いているのだから無理だ」と、平等であることを主張されます。  
いくら男女平等とはいえ、0~3歳の子を家に残し、泊まりの勤務を命ずる職場は、もう少し考えてほしいです。いくら制度があっても、上司の考え方がかわらない限り無理です。働きながら、とても苦労しています。  
(30歳代、女性)
- 働きたくても、働けない環境です。  
山口市は市街地には、げんきはうす等の施設があるのに、田舎には作ってくれない。私が生まれ育った町は、各地域にありました。もっと山間部

の人たちにも目を向けてください。 (30歳代、女性)

- 働ける職場 (子どもが小学校へあがったら、午前中のパート)  
(40歳代、女性)

- 私は30年間、団体職員として仕事をしてきましたが、女性と言うことで昇給、昇格が全くありませんでした。

三世同居でしたので、子どもの世話は生後6週間目から義母に見てもらえたので、働くことができました。

仕事も楽しかったので、充実した30年間でした。働いていて良かったと思います。

今は、息子も娘も結婚し、子どももできたので、義母がしてくれたように仕事を辞め、孫の面倒を見ております。

私が働くお母さんに勧めたいのは、やはり同居ですね。

あと、男女共同参画社会を中小企業に是非いかせてもらえるよう何かいろいろ法律ができて、小さい職場ではいかされないのが、現実です。そこに目をむけて活動していただけたらと思います。

これからの若い世代のために、お願いします。 (50歳代、女性)

## 《子育てに関すること》

- かつて、両親共働き (父親が開業医、母親が弁護士) どちらも大変評判の良い方で、マスコミにもよく取り上げられる方でしたが、御息は……。  
(社会貢献度において)

家事・育児は、家政婦さんと家庭教師に任せ、子どもには多すぎるお小遣いを与えられていました。知的に大変優れておられる子でしたが、小中学校ではかなりの問題児でした。(20年ほど前の教員の頃のことです。)

社会参加、ボランティア活動はすばらしいのですが、まず、ご自分の家庭内教育を充実させ、知徳体のバランスのとれた子育て、そうした子に育つ家庭環境への気配りも大切にしてほしいと、思ったことがありました。つまり、社会で派手に活躍することも良いが、まずは「灯台下暗し」とならぬよう。  
(50歳代、女性)

- 理想と現実。役所のように産休をもらい、もとの部署に戻ることはできません。女性だけが生活環境が変わるのです。配偶者の基本給や、残業代が減り、共働きしなくては生活できません。

元同僚が「子どもがほしい。子育ても……。できちゃったなら状況を受け入れるでしょうが、真正面から子どもについて向き合う(考える)と、二の足です」と話していたのを思い出します。

このアンケートとずれてしまうかもしれませんが、子ども手当をすぐにやめて、保育園を増やしたり、不妊治療の助成の追加、治療などに助成す

るなどしてほしい。

また、お金だけではありません。家族だけでなく職場の協力も必要なのです。少子化は、女性だけの問題ではありません。「精神的、社会的不安をなくす」ことが必要です。

行政にお願いしたいのは、企業へのアンケートだけでなく、実際に就労状況を確認してもらいたいのです。よろしくお願いします。

(60歳代、女性)

- 組織を充実させることも大切なことだと思いますが、まずは人間教育、今の子どもを寺子屋から教育してほしい。

評判の悪い民生委員を、何の疑いもなく任命しているような市の職員の意識も、勉強不足だと思います。

お互い信じ合い、助け合い、励まし合い、生まれてきて良かったと思えるような社会を築けるよう、子どもを育てる。

山口市が全国にアピールするくらいの気持ちをもって、一番に取り組んでもらいたいものです。

(60歳代、男性)

#### 《アンケートに関すること》

- このような質問に答えて、男女共同参画について不満が多い人たちがどれくらいいるのでしょうか。アンケートが届き、開けてみたらそんなに大事？財政、道路の工事など、不満だらけです。

ほかの意見でしたら、もっと市民の声として聞いてもらいたいと思う人たちがいるのではないのでしょうか。もっと市民の側にたち、市民の事を考えてください。

(30歳代、女性)

- 形式や流れだけにとらわれているのであれば、やらないほうがよい。

魅力ある地域、活力ある地域にこの地区がなれば、自然と人が集まり男女を問わず有能な人々が、力を発揮できる社会になる。

住みよい地域作りのために、行政が何をできるのか、もっと考え実行すべきである。

市役所職員はもっと地域貢献のため、休日等地域活動に積極的に、強制的に参画させ、市民の模範となるべく活動させるべき。形式的な市民参画の名のもとに、このようなアンケートを行うこと自体ナンセンス。もっと実のあることから、いつになったらできるのか。残念でならない。

(50歳代、男性)

- このアンケートを無駄にすることなく、是非大活用していただけることを願っています。

(60歳代、女性)

- アンケートの内容に幅がありすぎ回答に困りました。(70歳以上、女性)

## 《その他》

- 「男尊女卑」をそうだと感じる女性（もしくは男性）を無くすために、動かないと何も変わらないと思う。  
行政には改善点がたくさんあると思うけど、何をしているのか分からないので何ともいえない。高校生には、ちょっと難しいです。  
(10歳代、女性)
- 高齢者の介護の負担が女性に多くかかっている。実の親でなくとも、嫁がすべきという考え方が、多いのが現実。  
介護サービスなど、市の補助も受けてもやはり、お金がかかるし大変。  
介護が必要な人のお世話の仕方や、男性もかかわってほしいと思えるようなワークショップのようなものが無料であると、男性の意識もかわり、女性の負担が減ると思う。  
育児、介護で自分のしたいことや、仕事をあきらめなければならない女性は多いので、何か手助けが必要である。  
(20歳代、女性)
- 女性は仕事、子育て、家事、介護と負担が多いと思います。よりよく暮らせるために、地域の援助がいます。  
また、男性の理解が必要だと思います。「今、困っている」と言える環境があるといいと思います。(例えば、SNSなどで誰か教えて、手伝ってと近所で助け合えたらいいなと思います。)  
(30歳代、女性)
- すべての男女が協力して、社会をよくしていく市作りをお願いしたい。市職員も、もっとより多く市民のためにボランティア精神で何事にもチャレンジしてほしい。  
(40歳代、男性)
- 子どもたちが不安もなく、生まれ育った町で結婚後も生活し、子どもを産み育てていきたいと、思える市にしていきたいです。お願いします。明るい未来にしてください。  
(40歳代、女性)
- 介護や育児、PTA活動など女性の負担がどちらとえば大きいと思われるので、男女共に助け合う社会になっていけばよいと思う。  
地域活動も良い面と悪い面とあるので、仕事を持つ人が増えている今、もう少し地域の役員の行事、負担や、会合など減らして、昔からのやり方を、今の時代に合わせたやり方に変えていかないと、今後役員をやる人がいなくなってしまうと思われます。  
婦人消防や婦人会など、廃止してほしい役はたくさんあります。  
(40歳代、女性)
- 行政で男女共同参画プランの実感がまったくなく、どう反映されるのでしょうか？市町村合併により暮らしにくくなったのでは？

一部の取り組みであって、市民にわかりづらいのではないのでしょうか？  
山県市外で働いているから、市の就労環境は考えたことがない。

(40歳代、男性)

○ 今とにかく忙しいです。現実それどころではない。自分の時間の確保をしたいのが今の望みです。

(40歳代、女性)

○ 進むべき方向性はいいと思います。

ただ、言葉自体が難しくてとっつきにくい。「難しいことは簡単に、簡単なことはおもしろく、おもしろいことは深く」と誰かが言っていた。ねらいは深いところでいいが、内容とやり方を考えてください。

あと、これが達成されると山県市はどうなりますか？(40歳代、男性)

○ 自宅で実母の介護をしています。思うようにならないことばかりで、男女共同参画はとても大切だと思いますが、男と女の特性を生かしつつ、協調できる社会になることが理想的だと考えています。少しでも、良い社会になるよう、ますます努力をお願いします。

山県市は、目玉になる特産品や観光の名所がないので、他の地域の人に聞かれると返答に困ります。何か山県市が元気になれることがあれば、良いと思います。

(50歳代、女性)

○ このような活動があることを知らなかった。情報やプランをPRしてください。

(60歳代、男性)